

資料編 1

市民・文化団体アンケート調査結果

I 調査概要

1 目的

このアンケートは、市民の文化芸術に対するイメージや関心、今後の文化芸術に対するニーズ等の把握、また、市内で活動する文化団体の現状や課題、他の分野との連携による文化芸術の発展性や可能性についての意識を把握することを目的とします。

2 対象者

対象者	人数	有効回収数	有効回答率	選定（抽出）
(1) 市民	3,025人	1,968票	65.1%	
①18歳以上の市民（一般）	1,212人	357票	29.5%	①令和元年10月31日現在の住民基本台帳より、無作為抽出による選出 ②市政モニター
②大学生	290人	231票	79.7%	市内2校
③高校生	972人	885票	91.0%	市内4校（2年生）
④中学生	551人	495票	89.8%	市内7校（2年生）
(2) 文化団体	約170団体	87票	51.2%	①八戸市文化協会会員 ②音楽分野の活動団体 ③演劇分野の活動団体

3 調査方法

- (1) 調査票のQRコードを読み取り、SNSで回答
- (2) 同封の返信用封筒に入れ、投函

4 調査時期

令和元（2019）年11月～12月

5 調査票

- (1) 市民 89～94ページ
- (2) 文化団体 95～100ページ

6 調査結果

- (1) 市民 101～130ページ
 - (2) 文化団体 131～145ページ
- ※設問等は、「5 調査票」より一部表現を変更しています。

調査票（一般、大学生・高校生、中学生）

問1 あなたについてお聞きします。

- (1) 性別 1 男性 2 女性
- (2) 年代 ア 10代 イ 20代 ウ 30代 エ 40代 オ 50代 カ 60代 キ 70代以上
- (3) 普段から何らかの文化芸術に興味・関心がありますか？あてはまる番号に○をつけてください。
- 1 とても興味・関心がある 2 どちらかと言えば興味・関心がある
3 どちらかと言えば興味・関心が薄い 4 全く興味・関心がない
- (4) (3)で「興味・関心がある(1又は2)」とお答えした方にお聞きします。興味・関心があるのは、どのような分野でしょうか？あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択可)
- 1 日本の伝統的な文化芸術に興味・関心がある
2 最先端の文化芸術や前衛的な文化芸術に興味・関心がある
3 商業的に成功しているメジャーな文化芸術に興味・関心がある
4 外国の文化芸術に興味・関心がある
5 八戸地域に受け継がれてきている文化芸術に興味・関心がある
6 その他(具体的に：)
- (5) 普段から文化芸術「活動」に親しんでいますか？あてはまる番号に○をつけてください。
(例：創作活動を行っている、文化芸術分野の習い事を行っている、文化芸術団体に所属している等)
- 1 親しんでいる・行っている 2 親しんでいない・行っていない

問2 文化芸術に関する八戸市のイメージについてお聞きします。

- (1) 八戸市は文化芸術活動が盛んな街だと思いますか？あてはまる番号に○をつけてください。
- 1 思う 2 やや思う 3 あまり思わない 4 思わない

問3 文化芸術との関わりについてお聞きします。以下の項目について、あてはまる欄に○をつけてください。(複数選択可)

- (1) ジャンル別にお聞きします。あてはまる欄に○をつけてください。(複数選択可)
- ①あなたにとって興味・関心のあるもの →「興味」
②過去1年間に鑑賞したもの →「鑑賞」
③過去1年間に自ら取り組んだもの →「活動」
④市民等による市内での活動が活発だと思うもの →「活発」
⑤鑑賞の機会が増えたほうがいいと思うもの →「機会」
⑥市民等の活動がより活発になることを期待するもの →「期待」

	① 興味	② 鑑賞	③ 活動	④ 活発	⑤ 機会	⑥ 期待
文芸(俳句、短歌、川柳、文学等)						
舞踊(日本舞踊、ダンス、バレエ、コンテンポラリーダンス等)						
舞台芸術(演劇、ミュージカル等)						

	① 興味	② 鑑賞	③ 活動	④ 活発	⑤ 機会	⑥ 期待
音楽（クラシック、ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌等）						
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代アート等）						
映画						
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、和楽器、雅楽、謡等）						
伝統文化（茶道、華道等）						
演芸（落語、講談、漫才・コント、手品、大道芸等）						
祭、民俗芸能（三社大祭、えんぶり、神楽、虎舞等）						
生活文化（服飾、手芸、料理、南部裂織、南部菱刺等）						
その他（ ）						

(2) 施設別にお聞きします。あてはまる欄に○をつけてください。（複数選択可）

- ①以下の施設のうち、知らない施設 → 「知らない」
 ②過去1年間に鑑賞で利用した施設 → 「鑑賞」
 ③過去1年間に文化芸術活動（創作、練習、発表等）で利用した施設 → 「活動」
 ④文化芸術に関する催しが盛んだと思う施設 → 「活発」
 ⑤鑑賞機会の提供について、より充実を期待する施設 → 「期待」

【公共施設】	①知らない	②鑑賞	③活動	④活発	⑤期待
八戸ポータルミュージアム「はっち」					
八戸まちなか広場「マチニワ」					
八戸ブックセンター					
八戸市美術館 ※休館前の1年間 H28.4.1～H.29.4.2について回答ください					
八戸市博物館					
八戸市是川縄文館					
南郷歴史民俗資料館					
八戸市図書館・南郷図書館					
八戸市公会堂					
八戸市公民館					
八戸市南郷文化ホール					
南部会館					
更上閣					

【公共施設】	①知らない	②鑑賞	③活動	④活発	⑤期待
八戸市総合福祉会館					
ジャズの館 南郷					
地区公民館					
その他 ()					
【民間施設】	①知らない	②鑑賞	③活動	④活発	⑤期待
厨ホール (八食センター)					
デーリー東北ホール					
八戸酒造 (煉瓦ホール、北蔵)					
八通ギャラリー (八戸通運)					
帆風美術館					
夢百貨ギャラリー (三八五流通)					
洗心美術館					
八戸クリニック街かどミュージアム					
安藤昌益資料館					
フォーラム八戸 (映画館)					
いわぶち響堂 (ライブハウス)					
パワーステーションA7 (ライブハウス)					
フォーミー (ライブハウス)					
フラット (ライブハウス)					
ロックス (ライブハウス)					
その他 ()					

(3) 事業別にお聞きします。あてはまる欄に○をつけてください。(複数選択可)

以下の事業は、過去1年間に八戸市が関わって実施された文化プログラムです。

- 八戸ポータルミュージアム「はっち」 →はっち市/和日カフェ/はちのへ演劇祭/
DASHIJIN/横丁オンリーユーシアター「酔っ払いに愛を」/まちぐ(る)み事業
- まちづくり文化推進室 →南郷アートプロジェクト/八戸工場大学
- 新美術館建設推進室 (旧：八戸市美術館) →中学生写真日記
- 教育委員会 →山伏神楽 U-30/民俗芸能の夕べ
- 南郷事務所 →南郷ジャズフェスティバル

①知っている事業 →「知っている」

②過去1年間に利用や鑑賞、参加した事業 →「利用・鑑賞・参加」

③より充実した事業実施を期待する事業 →「期待」

	① 知っている	② 利用・鑑賞・参加	③ 期待
はっち市			
和日カフェ			
はちのへ演劇祭			
DASHIJIN			

	① 知っている	② 利用・鑑賞・参加	③ 期待
横丁オンリーユーシアター 「酔っ払いに愛を」			
まちぐ(る)み事業			
南郷アートプロジェクト			
八戸工場大学			
中学生写真日記			
山伏神楽 U-30			
民俗芸能のタベ			
南郷ジャズフェスティバル			

問4 文化芸術に関する鑑賞や活動の機会が充実することは、暮らしたい街、住み続けたい街等魅力的な街をつくることにつながるとお考えですか。あてはまる番号に○をつけてください。

- 1 思う 2 思わない 3 わからない

問5 問4で「思わない」又は「わからない」とお答えした方にお聞きします。そのように考える理由は何でしょうか。あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択可)

- 1 普段、文化芸術に触れる機会がなく、よくわからないため
 2 テレビで見たり、他の都市に行って体験すれば十分なため
 3 文化芸術は個人の好みの問題なので、まちづくりとは関係がないため
 4 その他(具体的に:)

問6 文化芸術に関して、行政(県や市等)が取り組む必要があると思う番号に○をつけてください。(複数選択可)

- 1 鑑賞や体験、学びの機会の提供 2 イベントや活動に関する情報提供
 3 練習等を行う場所の確保 4 発表できる場所や機会の確保
 5 文化施設の整備 6 活動に対する支援・助成
 7 後継者の育成に対する支援 8 文化財の保存・活用(有形・無形の文化財)
 9 祭、芸能、工芸など、八戸ならではの文化の保存・継承・活用
 10 アーティストやデザイナーなど、クリエイティブな人材が集まる環境づくり
 11 特にない 12 わからない
 13 その他(具体的に:)

問7 文化芸術に関して、民間(企業、市民団体等)が取り組む必要があると思う番号に○をつけてください。(複数選択可)

- 1 鑑賞や体験、学びの機会の提供 2 イベントや活動に関する情報提供
 3 練習等を行う場所の確保 4 発表できる場所や機会の確保
 5 文化施設の整備 6 活動に対する支援・助成
 7 後継者の育成に対する支援 8 文化財の保存・活用(有形・無形の文化財)
 9 祭、芸能、工芸など、八戸ならではの文化の保存・継承・活用

- 10 アーティストやデザイナーなど、クリエイティブな人材が集まる環境づくり
- 11 特にない
- 12 わからない
- 13 その他(具体的に:)

問 8 普段、文化芸術に関するイベントや出来事に関する情報はどちらから入手していますか。あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択可)

- 1 新聞
- 2 テレビ
- 3 ラジオ
- 4 広報はちのへ
- 5 ホームページ
- 6 チラシ・ポスター
- 7 情報雑誌
- 8 家族・友人・知人
- 9 SNS (フェイスブック、ツイッター等)
- 10 施設 (はっち、公会堂、博物館、縄文館、八食、ピアドゥ等)
- 11 地区公民館
- 12 特に情報を得ていない・必要ない
- 13 その他(具体的に:)

問 9 文化芸術の持つ可能性を活かせる、又は、活かしてほしいと思う「分野」はありますか。あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択可)
(例: [教育分野] 授業で演劇作品をつくるワークショップを行い、コミュニケーション力を向上させるなど)

- 1 観光
- 2 まちづくり
- 3 国際交流
- 4 福祉
- 5 教育
- 6 産業
- 7 特にない
- 8 わからない
- 9 その他(具体的に:)

問 10 「多文化都市八戸」という言葉を知っていますか？ あてはまる番号に○をつけてください。

- 1 知っている
- 2 聞いたことがあるが内容はわからない
- 3 知らない

問 11 「八戸市文化のまちづくりビジョン」を知っていますか？ あてはまる番号に○をつけてください。

- 1 知っている
- 2 聞いたことがあるが内容はわからない
- 3 知らない

問 12 今後、八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿(方向性)として、特に大切だと思うものを「2つ」まで選択して番号に○をつけてください。

- 1 文化芸術の創造や発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されていること
- 2 文化芸術を通して、地域の魅力の発信、地域間交流や国際交流が行われること
- 3 文化芸術を通して、新たな価値やイノベーションが生まれ、創造的で活力のある社会が形成されること
- 4 あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し、相互理解が広がり、多様な価値観が尊重される社会をつくること
- 5 多様な人材や文化芸術団体等が連携・協働し、持続可能な地域文化コミュニティが形成されること

問 13 文化芸術政策に関するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

調査票（文化団体）

I あなたの活動している団体について、お尋ねします。

問1 団体についてお聞きします。

(1) 活動のジャンルをお書きください。例：日本舞踊、ジャズ

()

(2) 差し支えなければ、名称（団体名・活動名）等をお書きください。

()

(3) 会員やメンバー（以下「会員等」）の数について、近い番号に○をしてください。

ア 10人未満 イ 10～19人 ウ 20～49人 エ 50～99人 オ 100人以上

(4) 活動にあたり、会員等の会費や活動・発表等に伴う負担金（以下「会費等」）についてお聞きします。

①会費等を支払う頻度について、あてはまる記号に○をしてください。

(複数選択可)

ア 年会費 イ 月会費 ウ 随時 エ 会費なし

オ その他(具体的に:)

②会費等の金額（負担額）は、会員等の種別（クラス等）によって異なりますか？あてはまる記号に○をしてください。

ア 一律 イ 種別によって異なる ウ その他(具体的に:)

③年間の会費等の総負担額はどの程度でしょうか？

※種別によって負担額が異なる場合は、最も多くの会員等の負担額に近い記号に○をしてください。

ア 10,000円未満 イ 10,000円～49,999円 ウ 50,000円～99,999円

オ 100,000円～199,999円 カ 200,000円以上

問2 活動の頻度や場所、課題等についてお聞きします。

(1) 練習など、会員等のみの活動の頻度はどの程度でしょうか？あてはまる記号に○をしてください。

ア 週1回以上 イ 月に1～3回程度 ウ 3か月に1～2回程度

エ 半年に1回程度 オ 年に1回程度 カ していない

キ その他(具体的に:)

(2) 発表など、不特定多数の方々へ活動内容を見せる機会の頻度はどの程度でしょうか？あてはまる記号に○をしてください。

ア 週1回以上 イ 月に1～3回程度 ウ 3か月に1～2回程度

エ 半年に1回程度 オ 年に1回程度 カ していない

キ その他(具体的に:)

(3) 活動場所についてお聞きします。該当する項目へ、文字や数字をお書きください。

	【施設名】	「練習」の場としての 利用頻度 例：週に1回程度	「発表」の場としての 利用頻度 例：半年に1回程度、2年に1回程度
公共施設	八戸ポータルミュージアム「はっち」	に 回程度	に 回程度
	八戸まちなか広場「マチニワ」	に 回程度	に 回程度

	【施設名】	「練習」の場としての 利用頻度 例：週に1回程度	「発表」の場としての 利用頻度 例：半年に1回程度、2年に1回程度
公共施設	八戸ブックセンター	に 回程度	に 回程度
	八戸市美術館（休館前）	に 回程度	に 回程度
	八戸市公会堂	に 回程度	に 回程度
	八戸市公民館	に 回程度	に 回程度
	八戸市南郷文化ホール	に 回程度	に 回程度
	南部会館	に 回程度	に 回程度
	更上閣	に 回程度	に 回程度
	八戸市総合福祉会館	に 回程度	に 回程度
	ジャズの館 南郷	に 回程度	に 回程度
	地区公民館	に 回程度	に 回程度
	その他①（ ）	に 回程度	に 回程度
	その他②（ ）	に 回程度	に 回程度
民間施設	厨ホール（八食センター）	に 回程度	に 回程度
	スペースベン（スタジオ）	に 回程度	に 回程度
	デーリー東北ホール	に 回程度	に 回程度
	そーるぶらんち新丁（ギャラリー）	に 回程度	に 回程度
	八戸酒造（煉瓦ホール、北蔵）	に 回程度	に 回程度
	八通ギャラリー（八戸通運）	に 回程度	に 回程度
	夢百貨ギャラリー（三八五流通）	に 回程度	に 回程度
	いわぶち響堂（ライブハウス）	に 回程度	に 回程度
	パワーステーションA7（ライブハウス）	に 回程度	に 回程度
	フォーミー（ライブハウス）	に 回程度	に 回程度
	フラット（ライブハウス）	に 回程度	に 回程度
	ロックス（ライブハウス）	に 回程度	に 回程度
	その他①（ ）	に 回程度	に 回程度
	その他②（ ）	に 回程度	に 回程度

(4) 活動を継続していく上で、課題に感じていることは何ですか？あてはまる番号に○をしてください。（複数選択可）

- 1 会員等の会費等の費用負担が大きい
- 2 会費等以外の収入源が乏しい
- 3 活動に伴う費用負担が大きい（例：練習場代、広報代等）
（具体的に： ）
- 4 練習場所の確保が困難
- 5 成果発表の場の確保が困難
- 6 会員等の減少（新規加入者が少なく、退会者が増えている）
- 7 後継者不足（若年層の加入がほとんどない）
- 8 活動内容をPR（広報）する場や機会がない
- 9 PR（広報）の方法が分からない
- 10 その他（ ）

- (5) (4) で「練習場所」や「成果発表の場」の確保が困難（選択肢 4、5）とお答えした方にお聞きます。困難の理由はそれぞれ何でしょうか？あてはまる番号に○をしてください。（複数選択可。また、可能であれば、それぞれ（ ）内に具体例もお書きください。）

【4 練習場所の確保が困難とお答えの方】

- 1 予約がとれず利用が難しい（申し込む時にはすでに予約が入っている状況である）
（利用したい練習場所： _____ ）
- 2 練習したい時間帯と利用可能時間が合わない
（利用したい時間帯： _____ 時～ _____ 時）
- 3 利用料が高く、思うように利用できない
（希望の利用料：利用時間 _____ 時間あたり _____ 円程度）
- 4 練習に適した場所が市内にない
（希望の環境や市外の施設等： _____ ）

【5 成果発表の場の確保が困難とお答えの方】

- 1 予約がとれず利用が難しい（申し込む時にはすでに予約が入っている状況である）
（利用したい発表場所： _____ ）
- 2 発表したい時間帯と利用可能時間が合わない
（利用したい時間帯： _____ 時～ _____ 時）
- 3 利用料が高く、思うように利用できない
（希望の利用料：利用時間 _____ 時間あたり _____ 円程度）
- 4 発表に適した場所が市内にない
（希望の環境や市外の施設等： _____ ）

- (6) 上記 (4) の課題を解決するためにどのような取組、あるいは支援が必要だと思われますか？
（自由記述）

問3 活動や発表の PR（広報）は、どのような媒体を利用して情報発信していますか。あてはまる番号に○をしてください。（複数選択可）

- 1 新聞 2 テレビ 3 ラジオ 4 広報はちのへ 5 団体や会員等のホームページ
- 6 チラシ・ポスター 7 情報雑誌 8 家族・友人・知人への口コミ
- 9 団体や会員等の SNS（フェイスブック、ツイッター等） 10 特に情報を発信していない
- 11 その他（ _____ ）

Ⅱ このアンケートにお答えいただいているあなた自身（個人）について、お尋ねします。

問1 あなたについてお聞きします。

- (1) 性別 1 男性 2 女性
- (2) 年代 ア 10代 イ 20代 ウ 30代 エ 40代 オ 50代 カ 60代 キ 70代以上
- (3) どのような分野の文化芸術に興味・関心がありますか？あてはまる番号に○をつけてください。（複数選択可）
- 1 日本の伝統的な文化芸術に興味・関心がある
 - 2 最先端の文化芸術や前衛的な文化芸術に興味・関心がある
 - 3 商業的に成功しているメジャーな文化芸術に興味・関心がある
 - 4 外国の文化芸術に興味・関心がある
 - 5 八戸地域に受け継がれてきている文化芸術に興味・関心がある
 - 6 その他（具体的に： _____）

問2 文化芸術に関する八戸市のイメージについてお聞きします。

- (1) 八戸市は文化芸術活動が盛んな街だと思いますか？あてはまる番号に○をしてください。
- 1 思う
 - 2 やや思う
 - 3 あまり思わない
 - 4 思わない
- (2) 活動が充実していると思う番号に○をつけてください。（複数選択可）
- 1 市民等の活動が活発
 - 2 鑑賞の機会が豊富
 - 3 体験や学びの機会が充実
 - 4 文化施設の数が増えている
 - 5 個人・団体問わず発表の機会が多い
 - 6 文化施設での有名人のコンサートや公演等が多い
 - 7 文化財の保存・活用が進んでいる（有形・無形の文化財）
 - 8 祭、芸能、工芸など八戸ならではの文化の保存・継承・活用が進んでいる
 - 9 アーティストやデザイナーなど、クリエイティブな人材が滞在し活動している
 - 10 特になし
 - 11 わからない
 - 12 その他（具体的に： _____）

問3 文化芸術に関する鑑賞や活動の機会が充実することは、暮らしたい街、住み続けたい街等魅力的な街をつくることにつながると感じますか。あてはまる番号に○をつけてください。

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 わからない

問4 問3で「思わない」又は「わからない」とお答えした方にお聞きします。そのように考える理由は何でしょうか。あてはまる番号に○をつけてください。（複数選択可）

- 1 普段、文化芸術に触れる機会がなく、よくわからないため
- 2 テレビで見たり、他の都市に行って体験すれば十分なため
- 3 文化芸術は個人の好みの問題なので、まちづくりとは関係がないため
- 4 その他（具体的に： _____）

問5 文化芸術に関して、行政（県や市等）が取り組む必要があると思う番号に○をつけてください。（複数選択可）

- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 1 鑑賞や体験、学びの機会の提供 | 2 イベントや活動に関する情報提供 |
| 3 練習等を行う場所の確保 | 4 発表できる場所や機会の確保 |
| 5 文化施設の整備 | 6 活動に対する支援・助成 |
| 7 後継者の育成に対する支援 | 8 文化財の保存・活用（有形・無形の文化財） |
| 9 祭、芸能、工芸など、八戸ならではの文化の保存・継承・活用 | |
| 10 アーティストやデザイナーなど、クリエイティブな人材が集まる環境づくり | |
| 11 特にない | 12 わからない |
| 13 その他（具体的に： _____） | |

問6 文化芸術に関して、民間（企業、市民団体等）が取り組む必要があると思う番号に○をつけてください。（複数選択可）

- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 1 鑑賞や体験、学びの機会の提供 | 2 イベントや活動に関する情報提供 |
| 3 練習等を行う場所の確保 | 4 発表できる場所や機会の確保 |
| 5 文化施設の整備 | 6 活動に対する支援・助成 |
| 7 後継者の育成に対する支援 | 8 文化財の保存・活用（有形・無形の文化財） |
| 9 祭、芸能、工芸など、八戸ならではの文化の保存・継承・活用 | |
| 10 アーティストやデザイナーなど、クリエイティブな人材が集まる環境づくり | |
| 11 特にない | 12 わからない |
| 13 その他（具体的に： _____） | |

問7 普段、文化芸術に関するイベントや出来事に関する情報はどちらから入手していますか。あてはまる番号に○をつけてください。（複数選択可）

- | | | | | |
|-----------------------|--------------------|----------------------------------|----------|----------|
| 1 新聞 | 2 テレビ | 3 ラジオ | 4 広報はちのへ | 5 ホームページ |
| 6 チラシ・ポスター | 7 情報雑誌 | 8 家族・友人・知人 | | |
| 9 SNS（フェイスブック、ツイッター等） | | 10 施設（はっち、公会堂、博物館、縄文館、八食、ピアドック等） | | |
| 11 地区公民館 | 12 特に情報を得ていない・必要ない | | | |
| 13 その他（具体的に： _____） | | | | |

問8 文化芸術活動を活かせる、又は、活かしてほしいと思う「分野」はありますか。あてはまる番号に○をつけてください。（複数選択可）

（例：[教育分野] 授業で演劇作品をつくるワークショップを行い、コミュニケーション力を向上させるなど）

- | | | | | | |
|--------------------|---------|--------|------|------|------|
| 1 観光 | 2 まちづくり | 3 国際交流 | 4 福祉 | 5 教育 | 6 産業 |
| 7 特にない | 8 わからない | | | | |
| 9 その他（具体的に： _____） | | | | | |

問9 「多文化都市八戸」という言葉を知っていますか？ あてはまる番号に○をしてください。

- 1 知っている 2 聞いたことがあるが内容はわからない 3 知らない

問10 「八戸市文化のまちづくりビジョン」を知っていますか？ あてはまる番号に○をしてください。

- 1 知っている 2 聞いたことがあるが内容はわからない 3 知らない

問11 今後、八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿（方向性）として、特に大切だと思うものを「2つ」まで選択してください。

- 1 文化芸術の創造や発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されていること
- 2 文化芸術を通して、地域の魅力の発信、地域間交流や国際交流が行われること
- 3 文化芸術を通して、新たな価値やイノベーションが生まれ、創造的で活力のある社会が形成されること
- 4 あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し、相互理解が広がり、多様な価値観が尊重される社会をつくること
- 5 多様な人材や文化芸術団体等が連携・協働し、持続可能な地域文化コミュニティが形成されること

問12 文化芸術政策に関するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

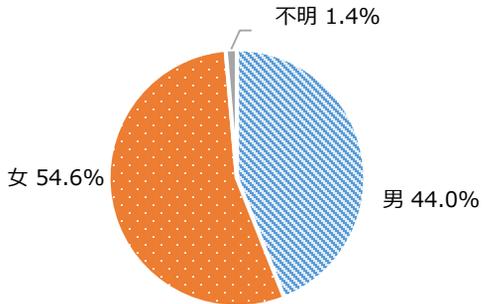
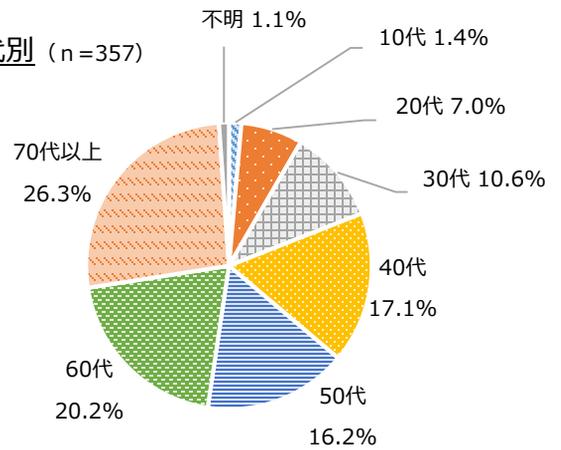
調査結果（一般、大学生・高校生、中学生）

【問1】あなたについてお聞きします。

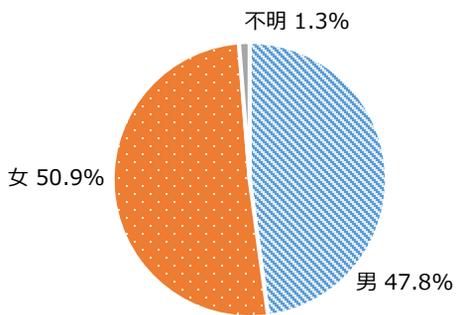
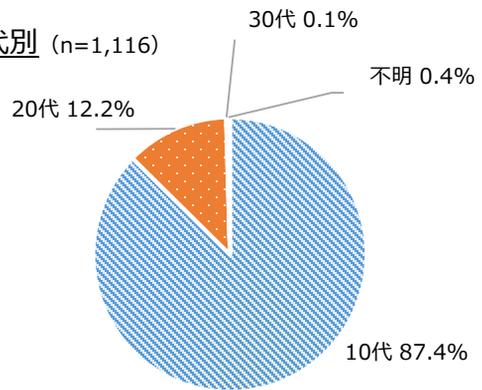
問1-(1) 性別

問1-(2) 年代

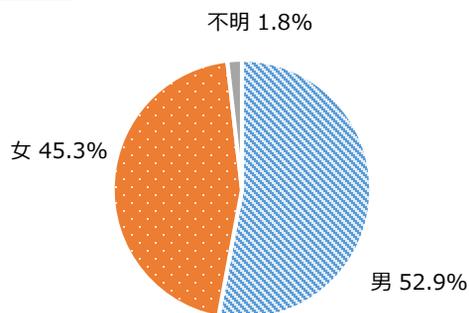
一般

男女比 (n=357)年代別 (n=357)

大学生・高校生

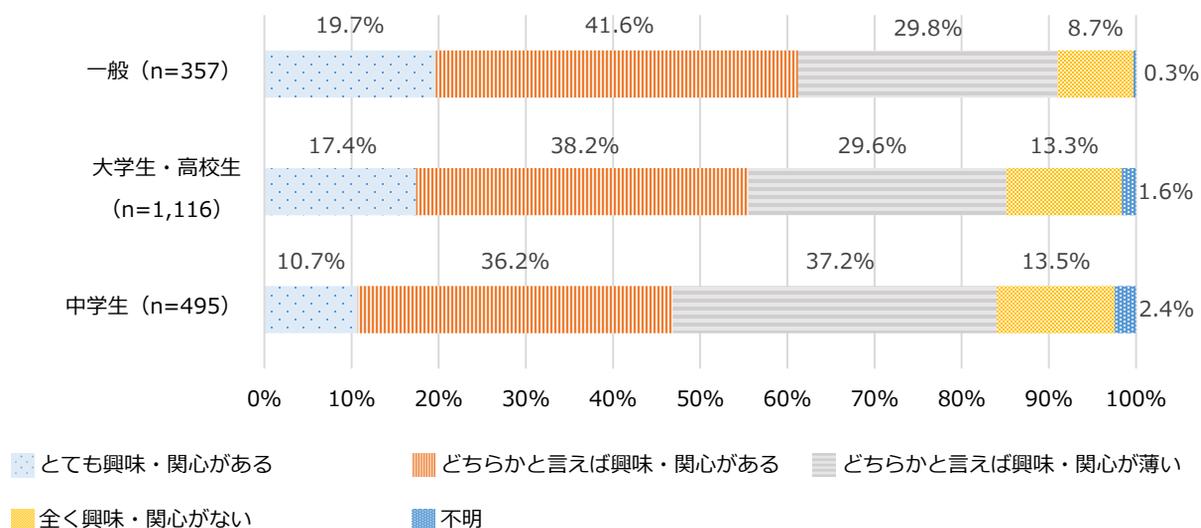
男女比 (n=1,116)年代別 (n=1,116)

中学生

男女比 (n=495)

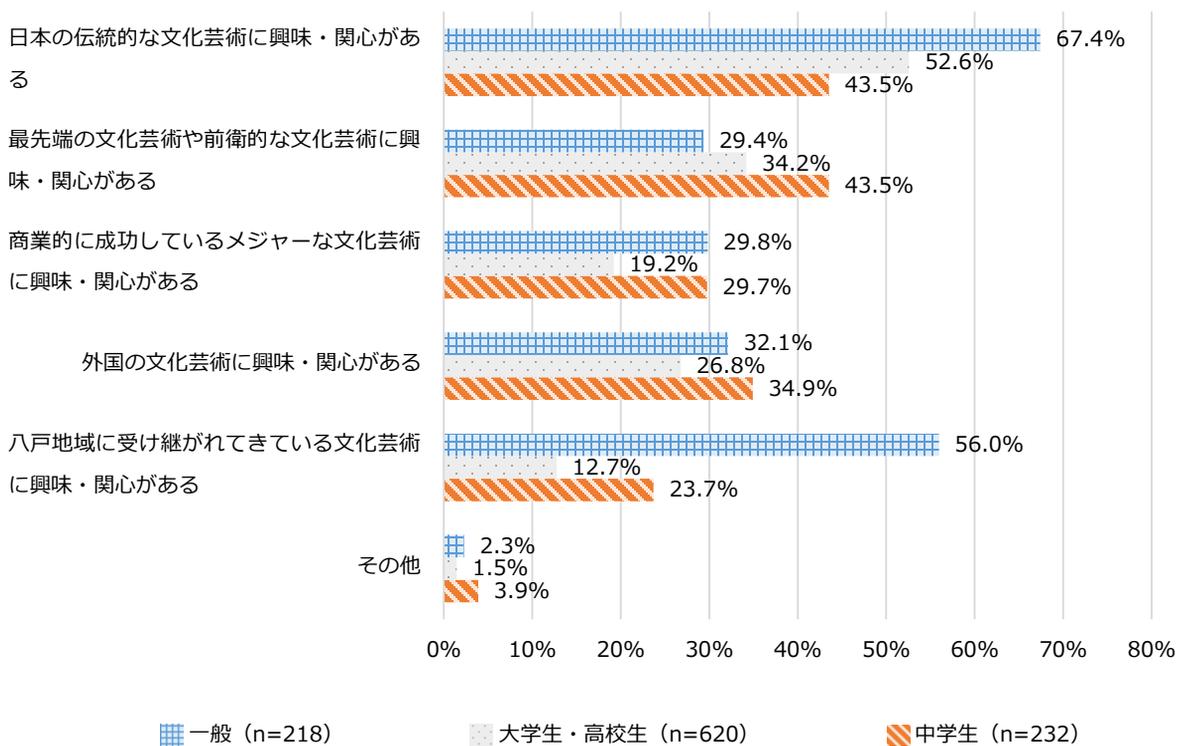
【問1-(3)】 普段から何らかの文化芸術に興味・関心がありますか。

一般と大学生・高校生は「とても興味・関心がある」「どちらかと言えば興味・関心がある」が50%を超えているが、中学生は50%を下回る結果となった。



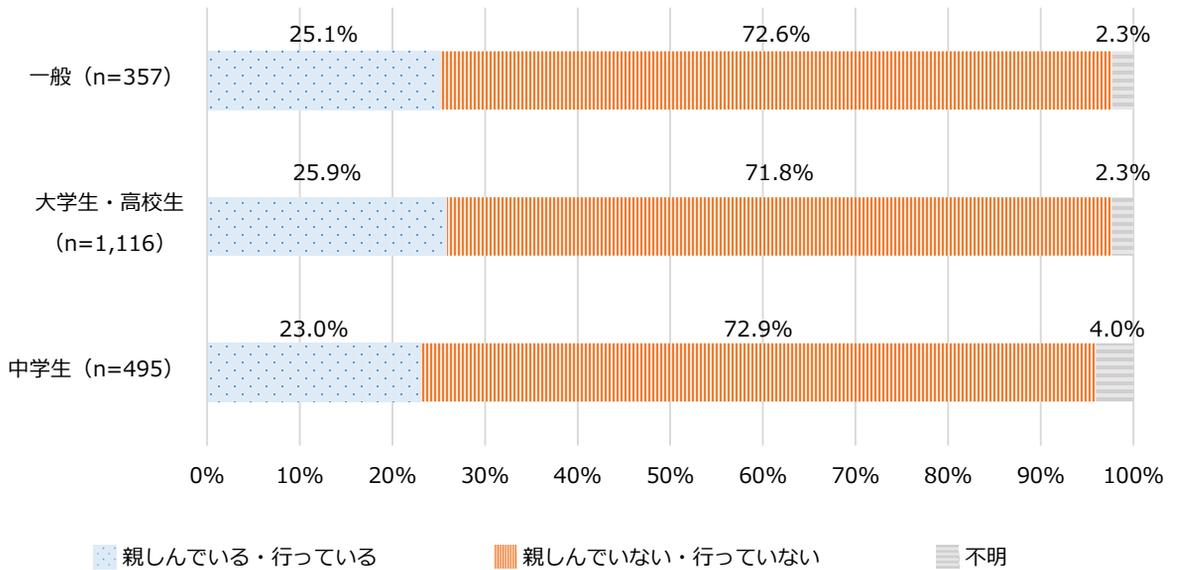
【問1-(4)】 (3)で「興味・関心がある(「とても興味・関心がある」又は「どちらかと言えば興味・関心がある」)」とお答えした方にお聞きします。興味・関心があるのは、どのような分野でしょうか。(複数回答可)

「日本の伝統的な文化芸術」への興味・関心が各世代で最も高くなった。一般は「八戸地域の文化芸術」への興味・関心が2番目に高く、大学生・高校生と中学生では「最先端の文化芸術」への興味・関心が2番目に高い結果となった。



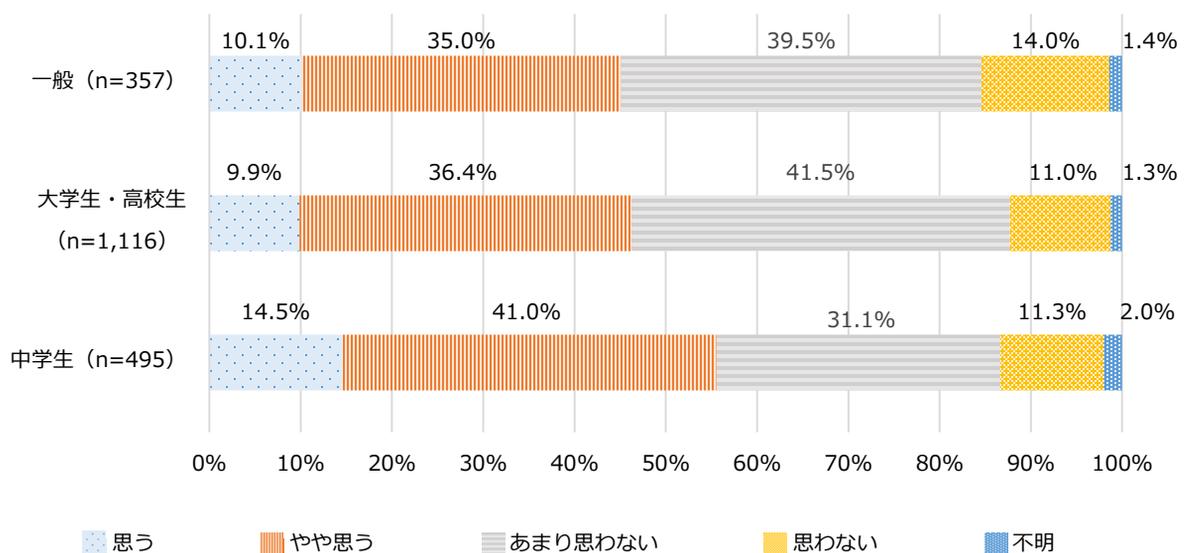
【問1 - (5)】 普段から文化芸術「活動」に親しんでいますか。

全体の傾向としては、「親しんでいない・行っていない」が最も高く、70%を超える結果となった。



【問2 - (1)】 八戸市は文化芸術活動が盛んなまちだと思いますか。

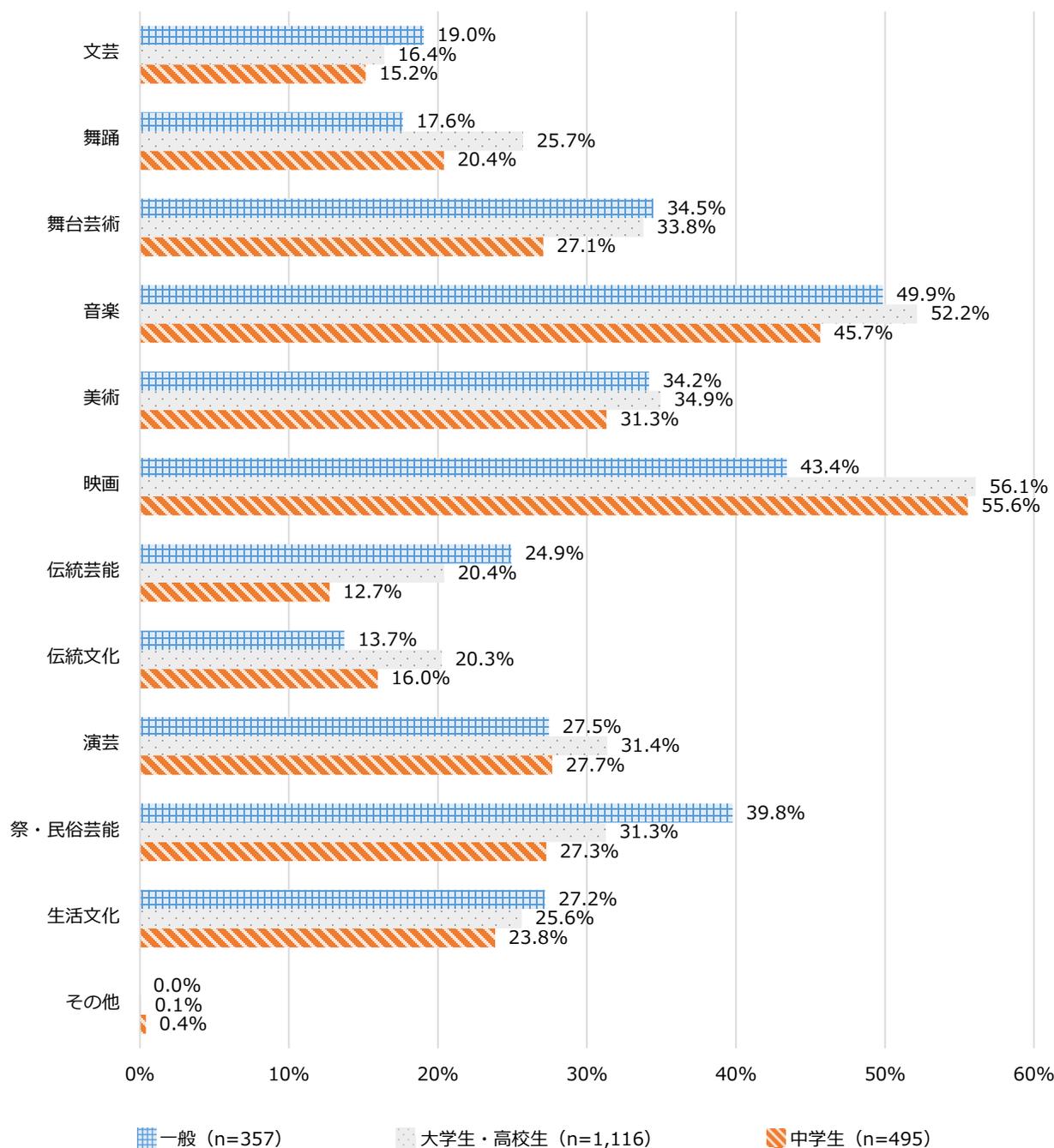
一般では「思う」「やや思う」が45.1%、大学生・高校生は46.3%、中学生は55.5%となり、中学生が最も高くなったが、全体として同じ傾向であることが分かった。



【問3-(1)】文化芸術との関わりについてお聞きます。(複数回答可)

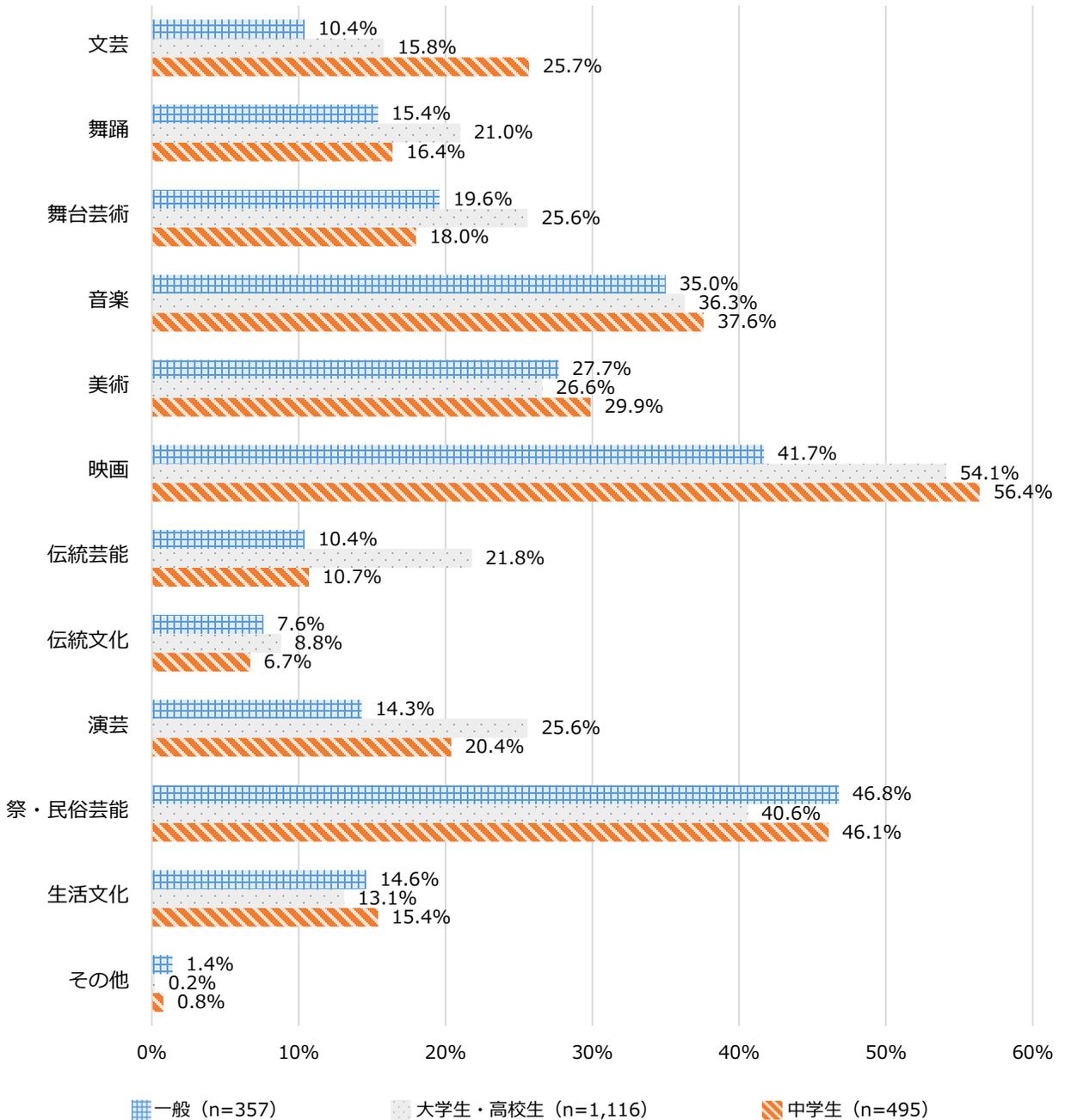
①あなたにとって興味・関心があるもの

「映画」「音楽」が全ての世代で40%～50%台となり、高い関心を示していることが分かった。次いで、30%を超えているのが「美術」、20%～30%台が「祭、民俗芸能」「舞台芸術」「演芸」「生活文化」となった。世代別の傾向では、「映画」は各世代で関心が高いが、特に大学生から中学生の関心が高く、「祭・民俗芸能」では一般の関心が高いという結果となった。



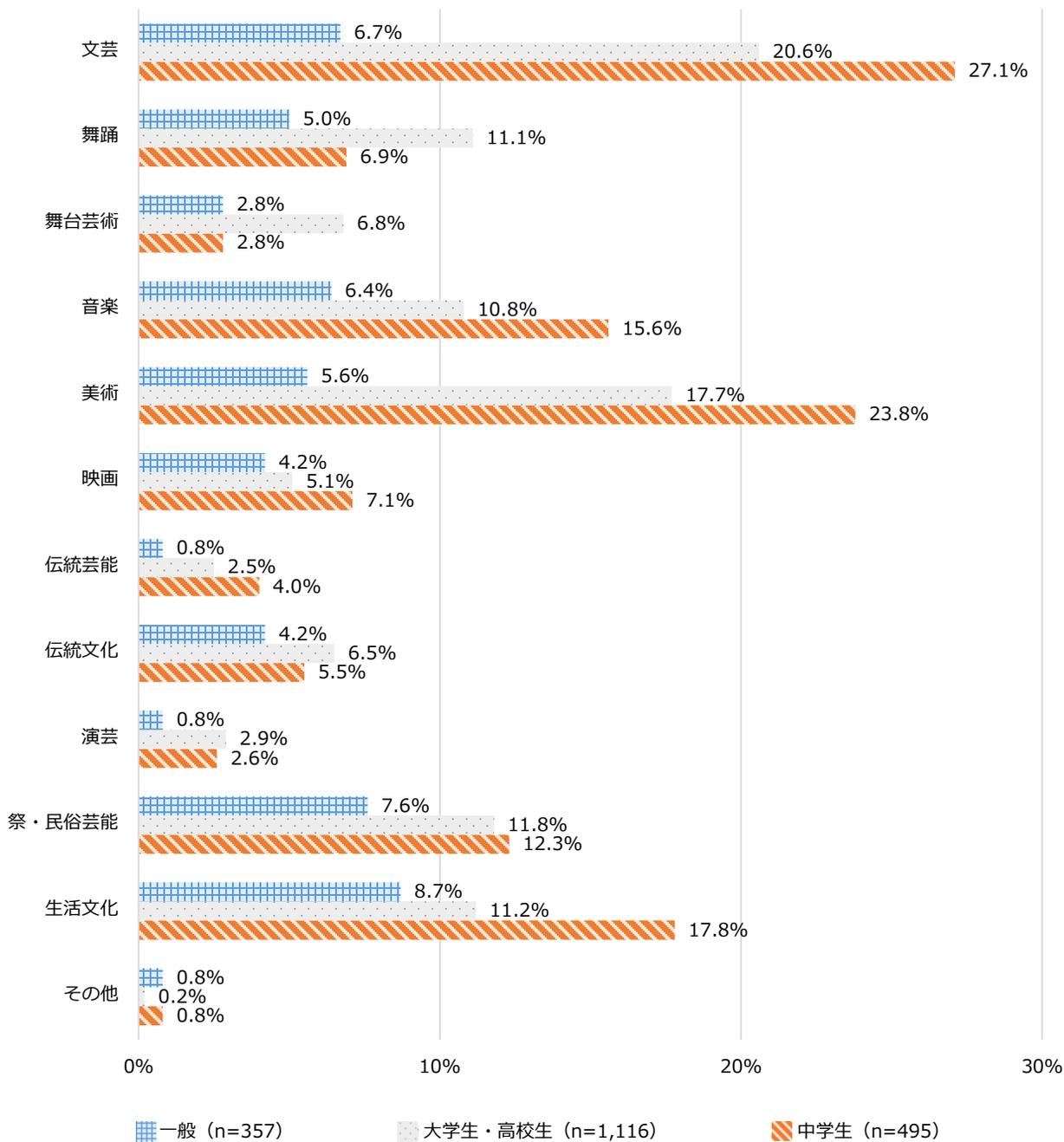
②過去1年間に鑑賞したもの

「映画」は各世代で高く、特に大学生から中学生が高いという結果になった。次いで、「祭・民俗芸能」「音楽」が全ての世代で30%～40%台となった。各世代の中でも、「舞踊」「舞台芸術」「伝統芸能」「演芸」は大学生・高校生の数値が他と比べて5%～10%程度高く、「文芸」は中学生の数値が高い。



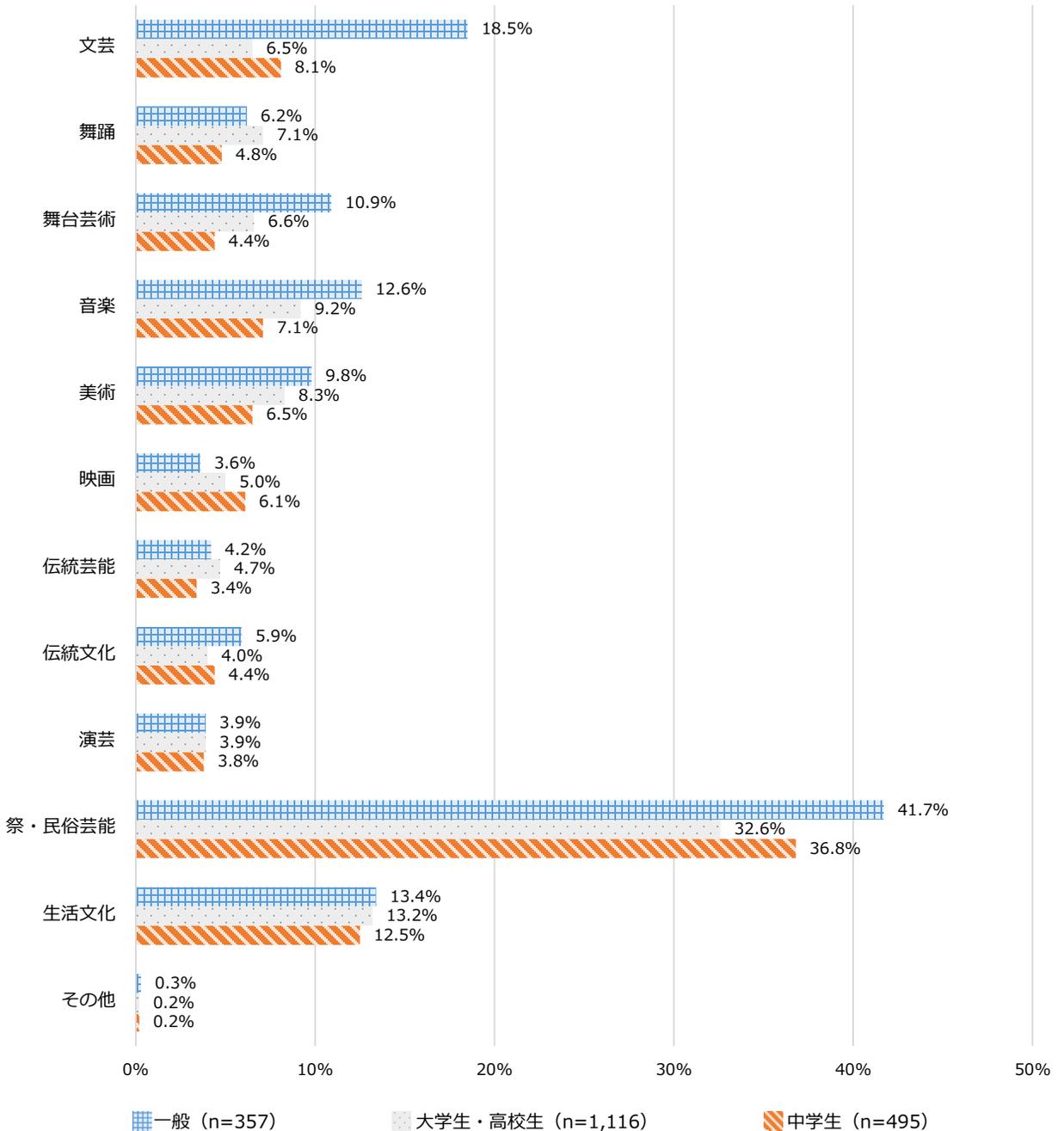
③過去1年間に自ら取り組んだもの

数値が高い項目はいずれも、大学生から中学生の数字が高い傾向があり、授業の影響が考えられる。



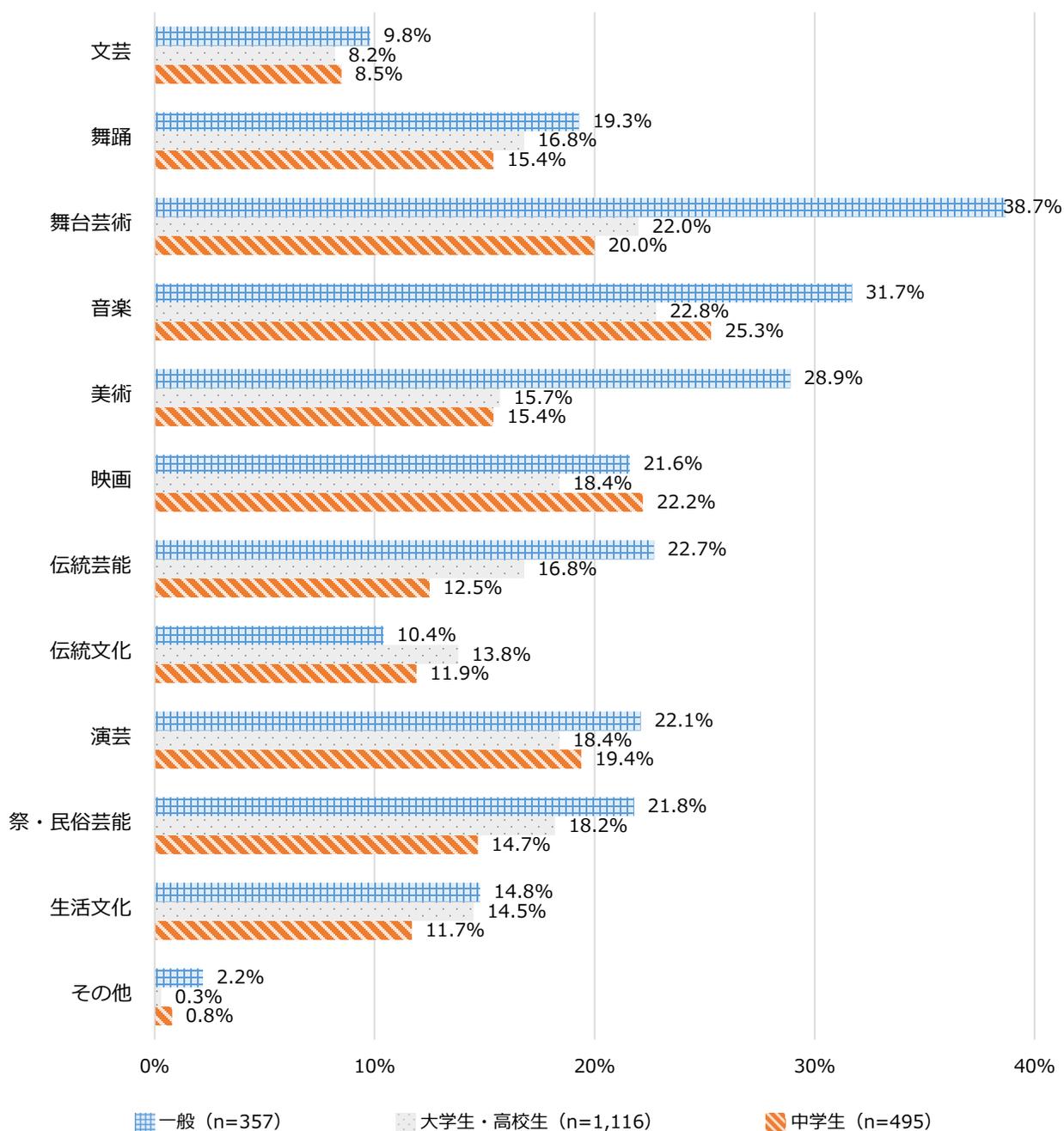
④市民等による市内での活動が活発だと思うもの

「祭・民俗芸能」が30%～40%台となり、突出して高いという結果になった。次いで、「生活文化」は各世代共通して13%前後であり、「文芸」では一般の評価が他世代と比較して目立って高かった。



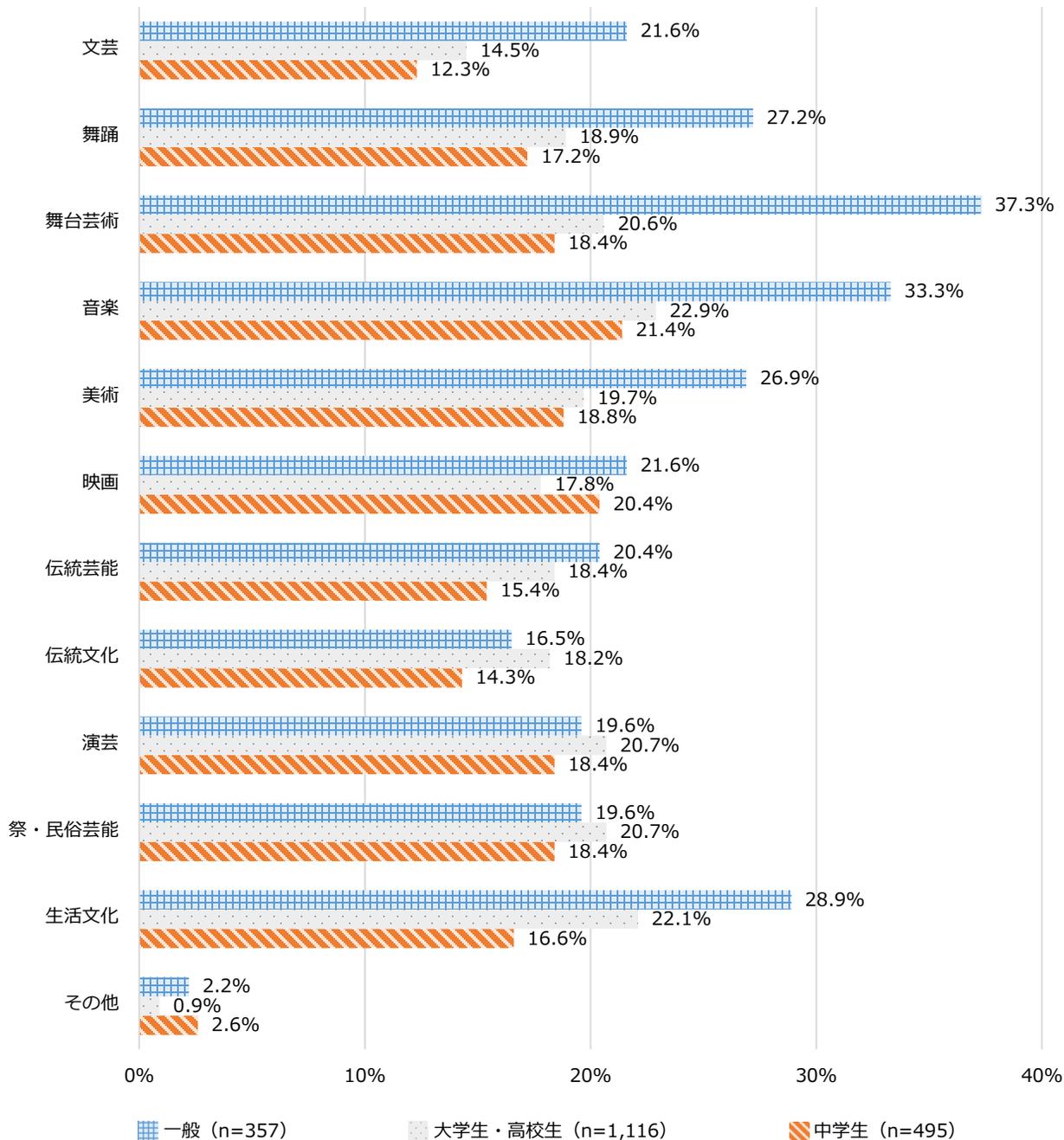
⑤鑑賞の機会が増えたほうがよいと思うもの

「⑤機会」では、「舞台芸術」「音楽」が高く、各世代の評価が20%～30%台となり、特に一般の評価が他世代よりも高い結果となった。



⑥市民等の活動がより活発になることを期待するもの

「舞台芸術」「音楽」が高くなっており、「舞台芸術」「音楽」「生活文化」「舞踊」「美術」「文芸」の6ジャンルで、一般の期待が他の世代と比較して大きくなった。

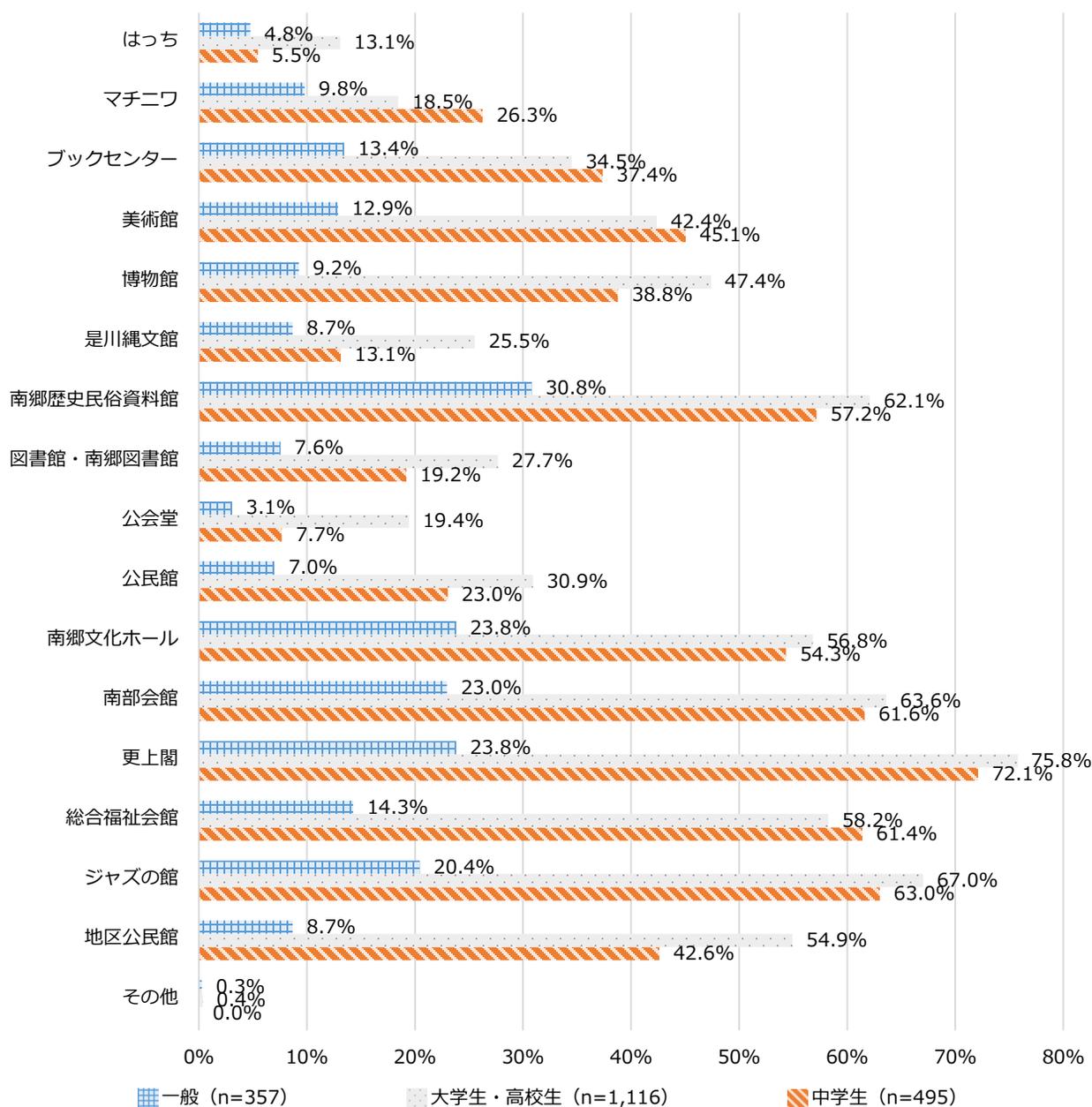


【問3-(2)】施設別にお聞きします。(複数回答可)

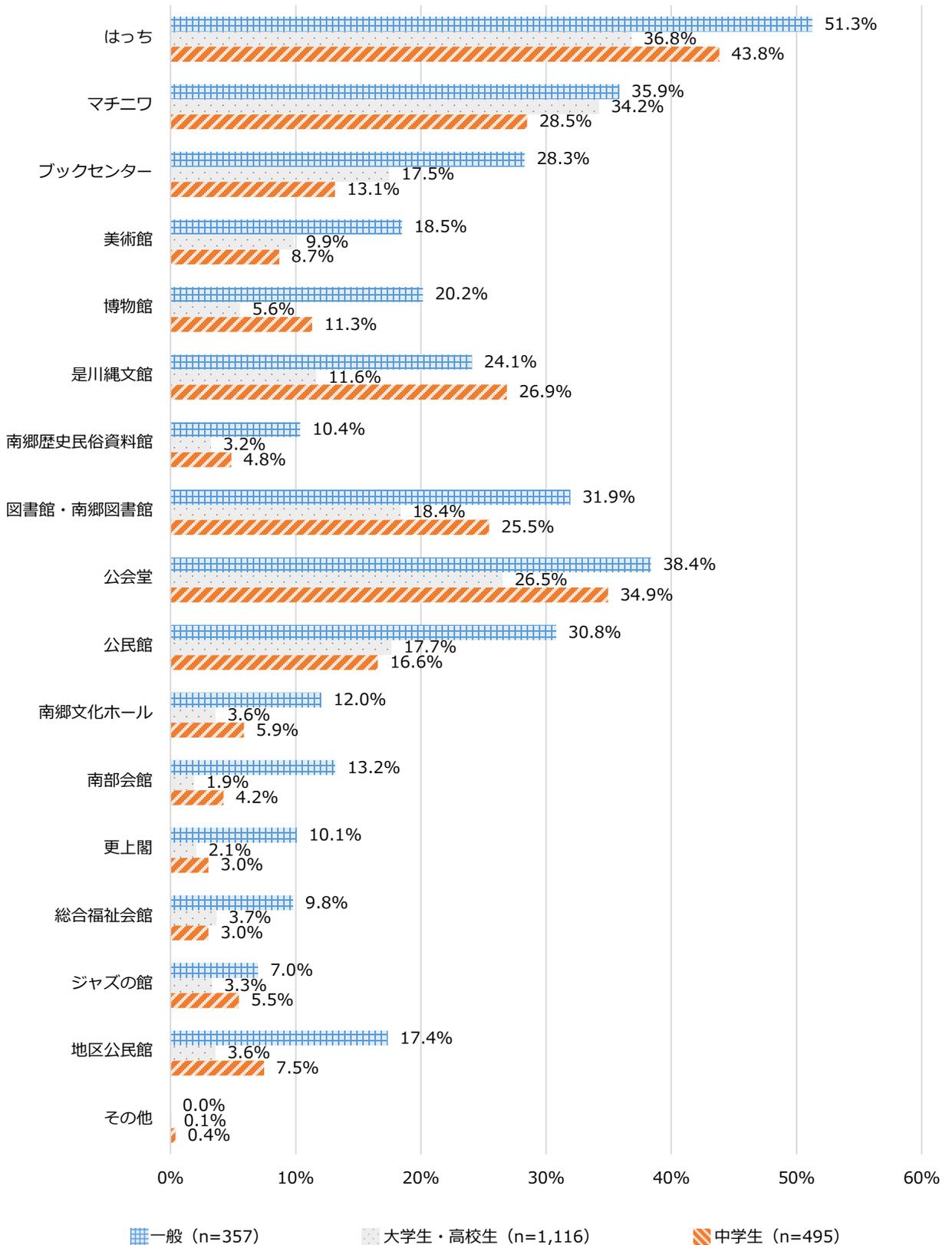
- ①以下の施設のうち、知らない施設 →「知らない」
- ②過去1年間に鑑賞で利用した施設 →「鑑賞」
- ③過去1年間に文化芸術活動(創作、練習、発表等)で利用した施設 →「活動」
- ④文化芸術に関する催しが盛んだと思う施設 →「活発」
- ⑤鑑賞機会の提供について、より充実を期待する施設 →「期待」

公共施設

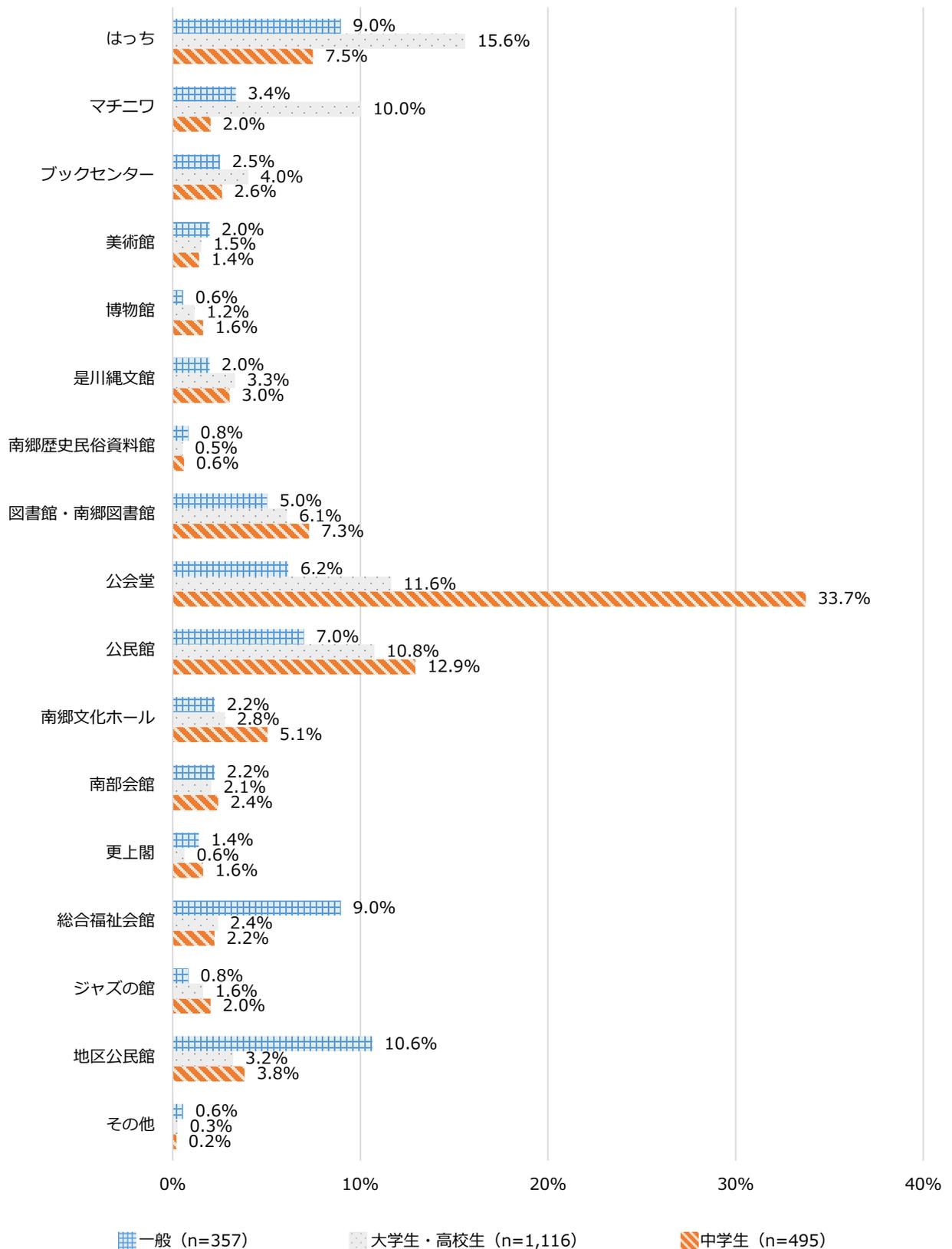
「①知らない」では、南郷地区の文化施設のほか、中心市街地では「更上閣」「南部会館」が全世代で数値が高いことから認知度が低く、「はっち」「マチニワ」「公会堂」は数値が低いことから認知度が高いことが分かった。また、一般と比較すると、大学生・高校生、中学生の数値が高い傾向であるが、「はっち」「マチニワ」のほか、授業等で利用する機会のあると考えられる「是川縄文館」「公会堂」などは、比較的数値が低い結果となった。



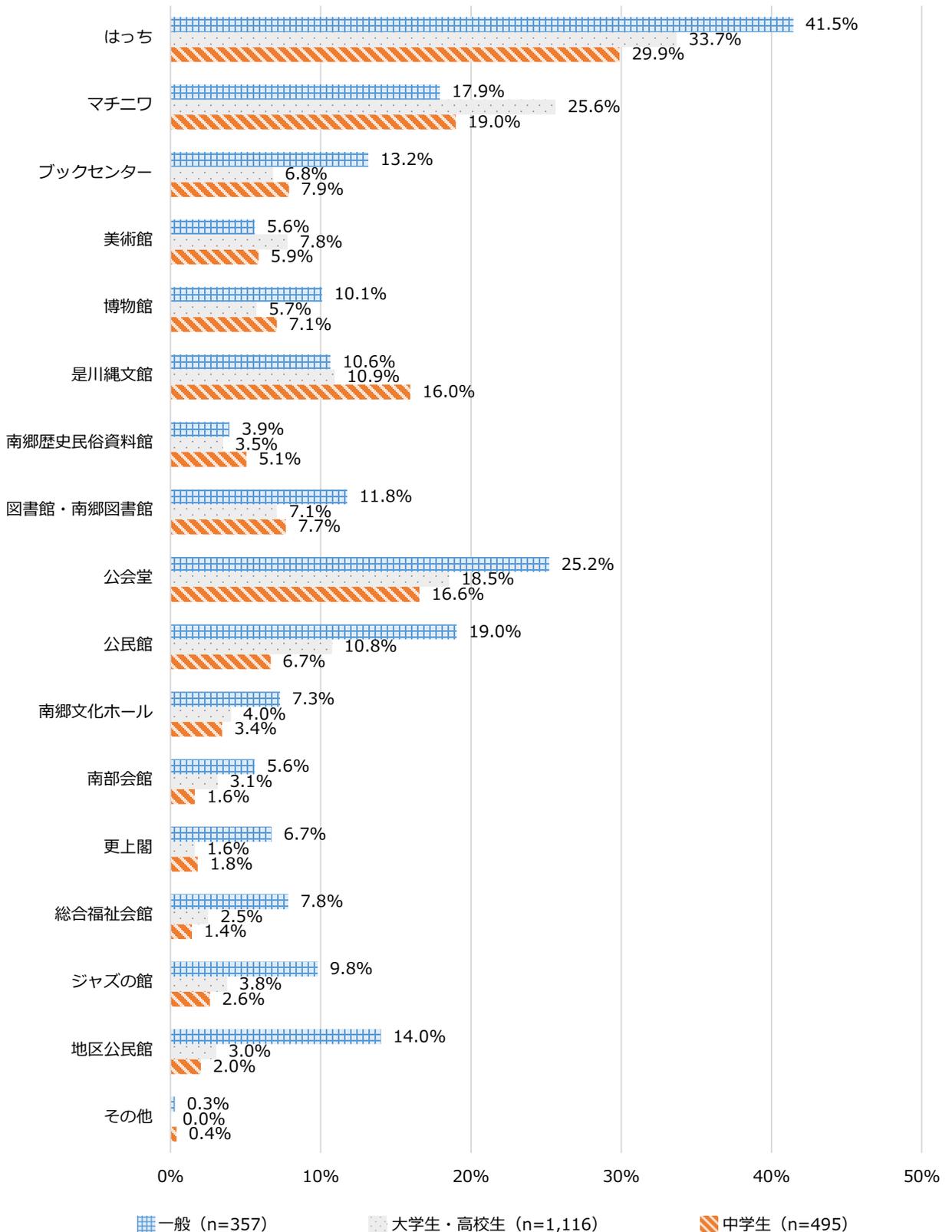
「②鑑賞」では、「はっち」「マチニワ」「公会堂」は全世代で利用度が高い。3施設以外で30%を超えたのは、一般の「図書館・南郷図書館」「公民館」のみであった。全ての施設で、一般の利用度が高い傾向がある。



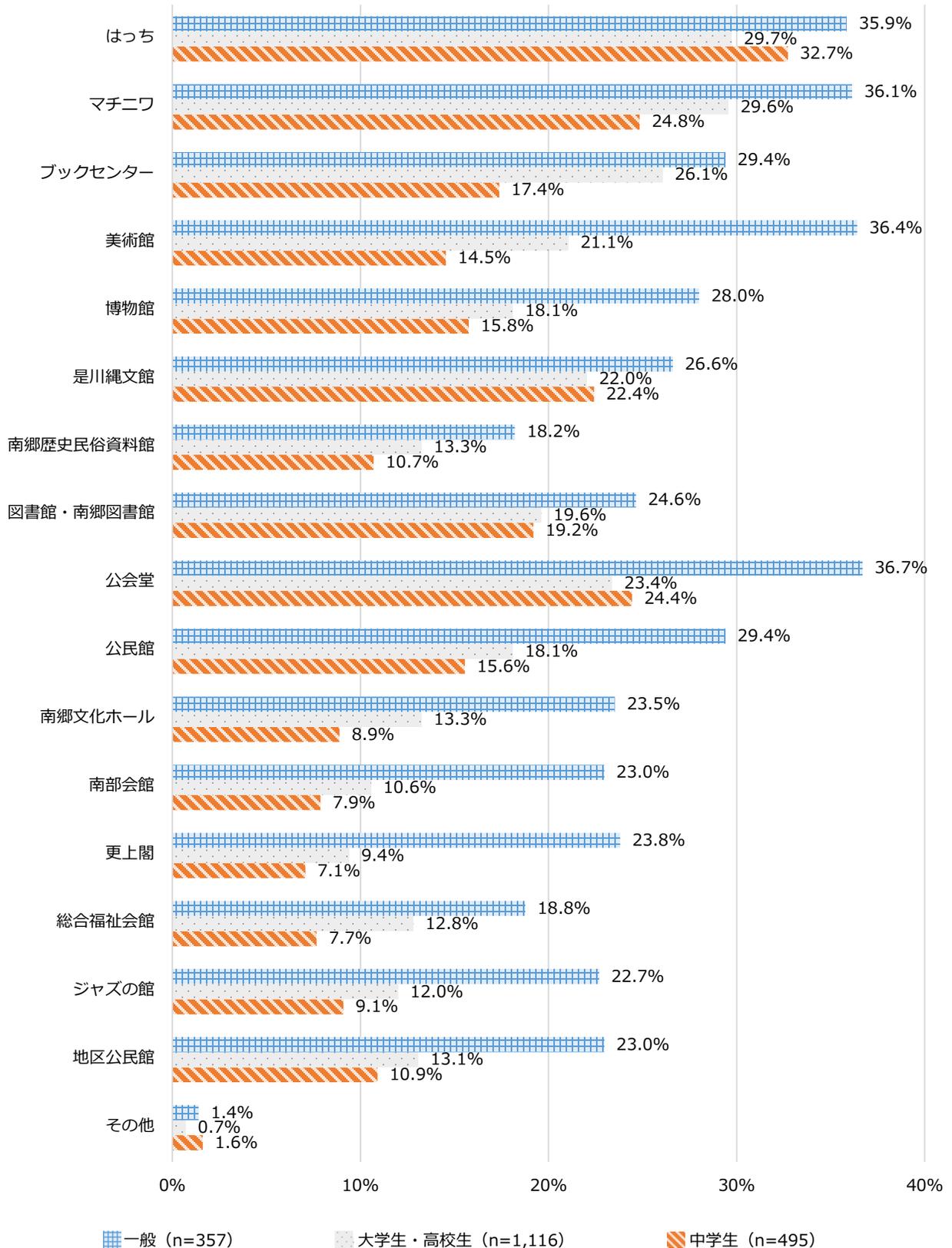
「③活動」では、「はっち」「公会堂」「公民館」が高い結果となった。特に、「公会堂」は中学生の数値が高く、「はっち」「マチニワ」は大学生・高校生、「総合福祉会館」「地区公民館」は一般が他世代と比較して高くなった。



「④活発」では、「はっち」が概ね30%以上が活発と評価している。「マチニワ」は大学生・高校生が、「公会堂」「公民館」は一般が、「是川縄文館」は中学生が評価しており、普段の利用に応じた結果であると推測される。

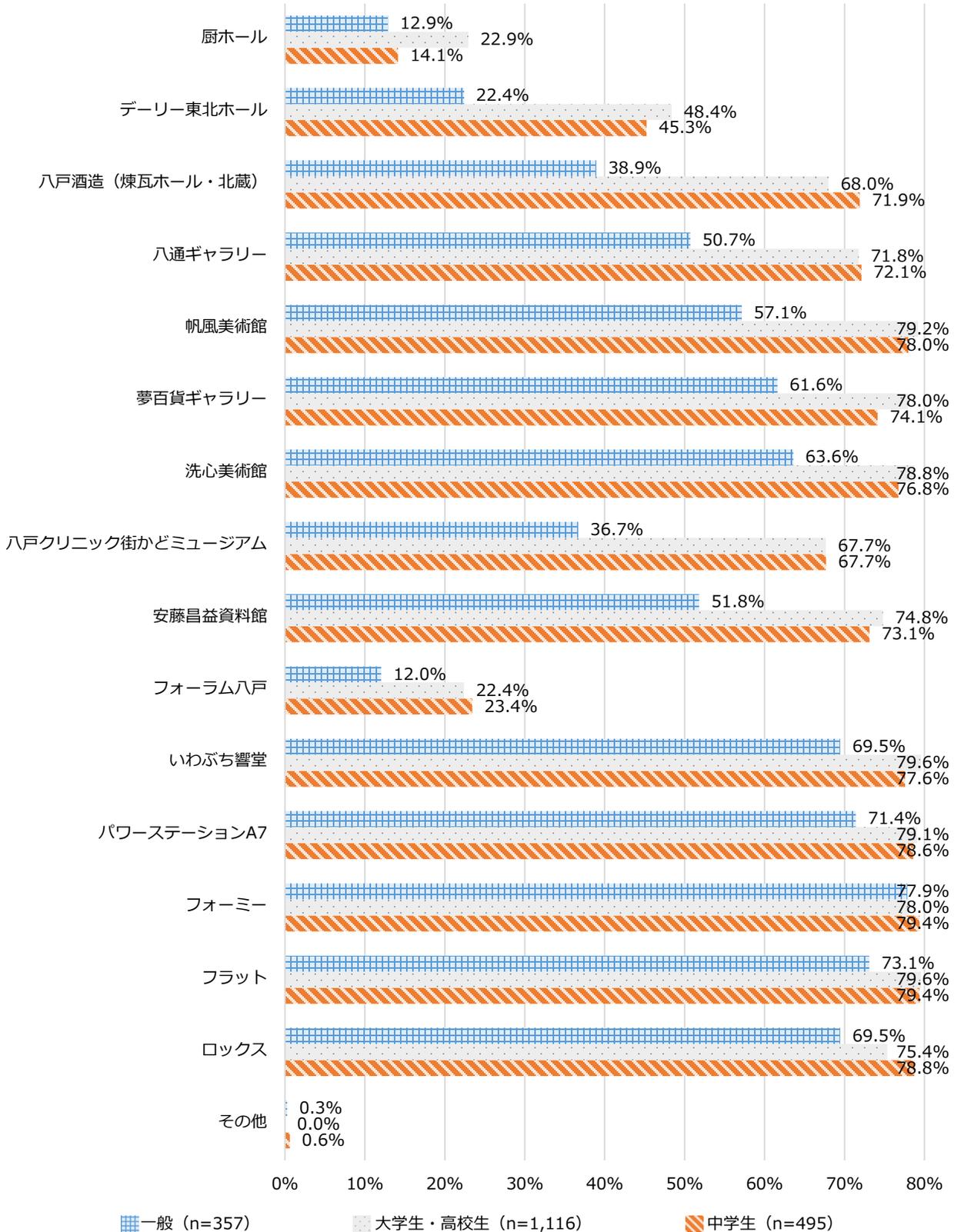


「⑤期待」では、一般は「公会堂」「美術館」「マチニワ」「はっち」の順で高い数値を示しており、大学生・高校生、中学生も同様の傾向を示していたが、「美術館」については一般と比較すると低い結果となった。また、全ての施設において、大学生・高校生、中学生と比較して、一般の期待値が高くなった。

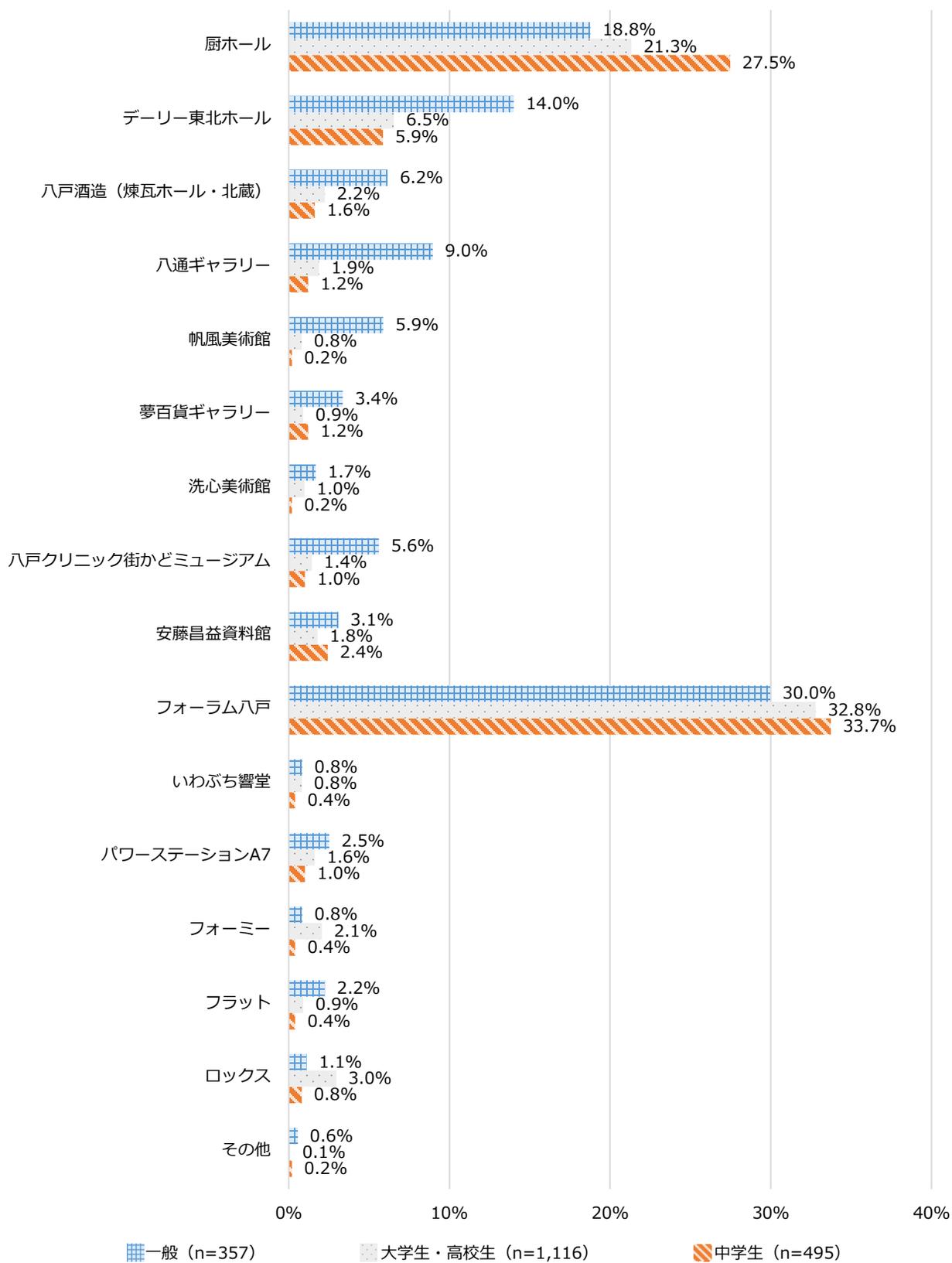


民間施設

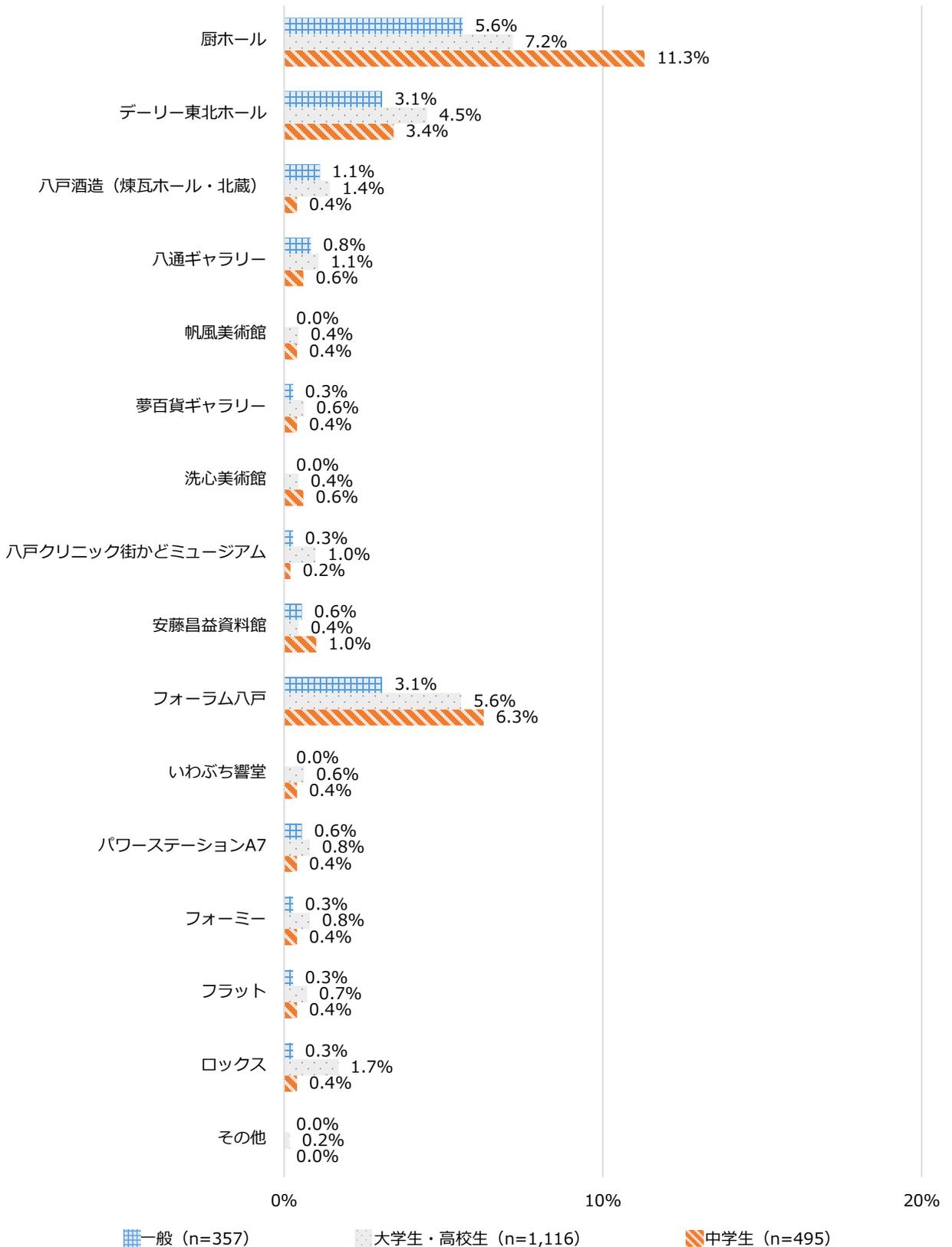
「①知らない」では、全世代が50%を下回ったのは「厨ホール」「フォーラム八戸」「デーリー東北ホール」の3施設のみとなった。一般と比較すると、大学生・高校生、中学生の認知度がいずれの施設でも高い数値となった。



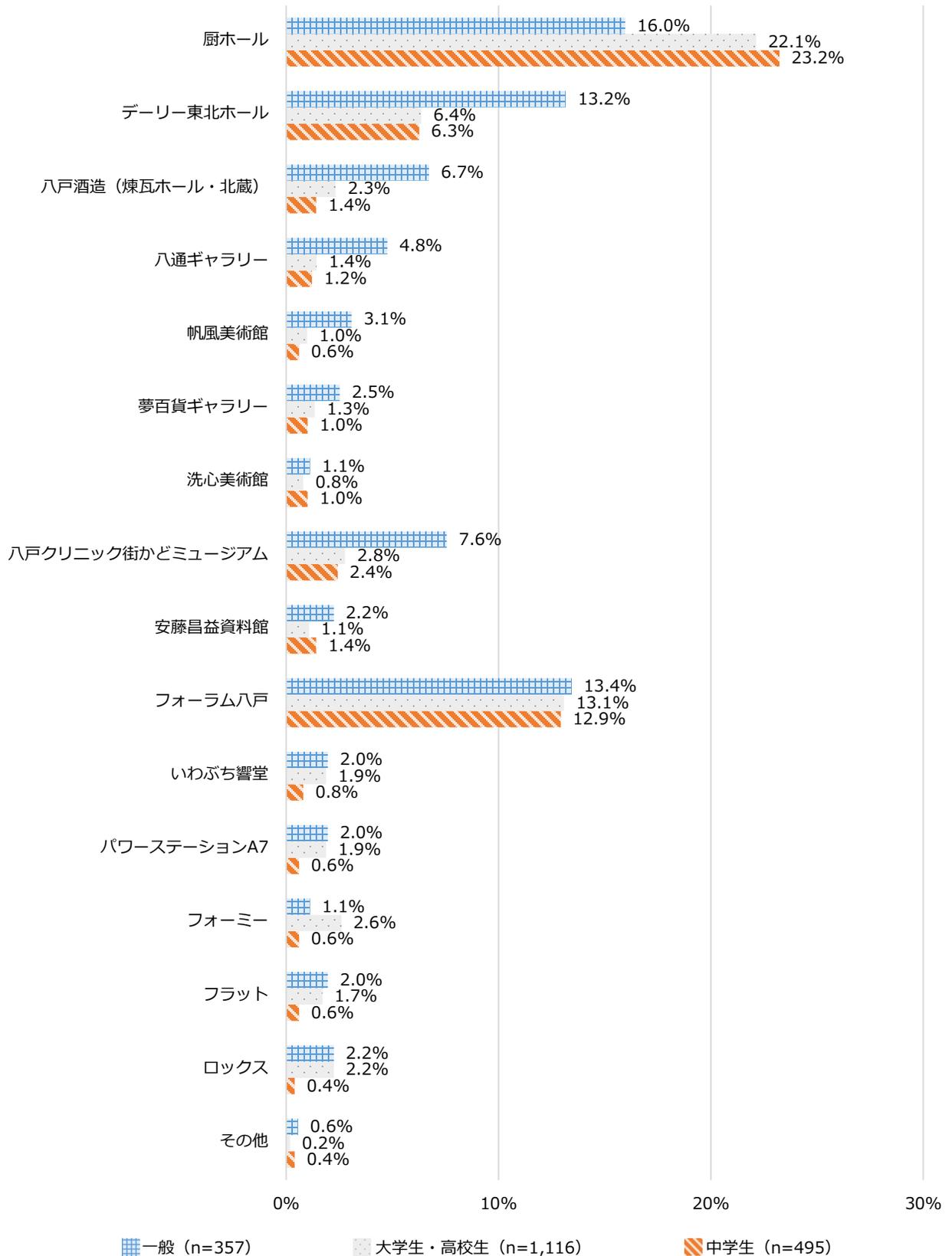
「②鑑賞」では、全世代で30%を超えたのは「フォーラム八戸」で、次いで「厨ホール」が約20%、多くの施設は10%を下回る結果となった。他世代と比較すると、一般の利用が比較的高い傾向があるが、いくつかのライブハウスは大学生・高校生の利用が高い結果となった。



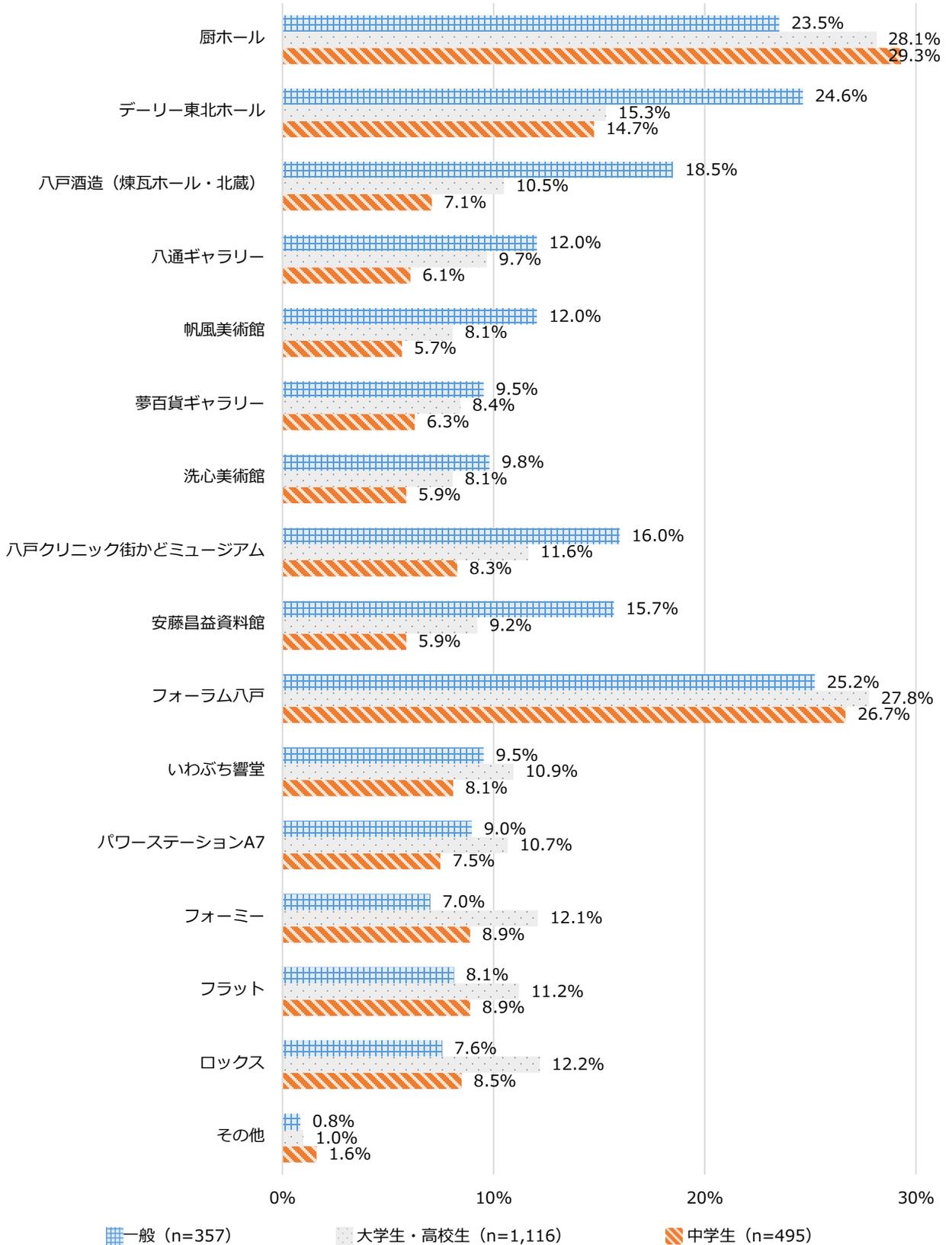
「③活動」では、「厨ホール」「フォーラム八戸」「デーリー東北ホール」が高く、他施設は軒並み1%を前後であった。



「④活発」では、「厨ホール」が大学生から中学生の評価が比較的高く、「デーリー東北ホール」「八戸酒造」「街かどミュージアム」では一般の評価が比較的高くなった。



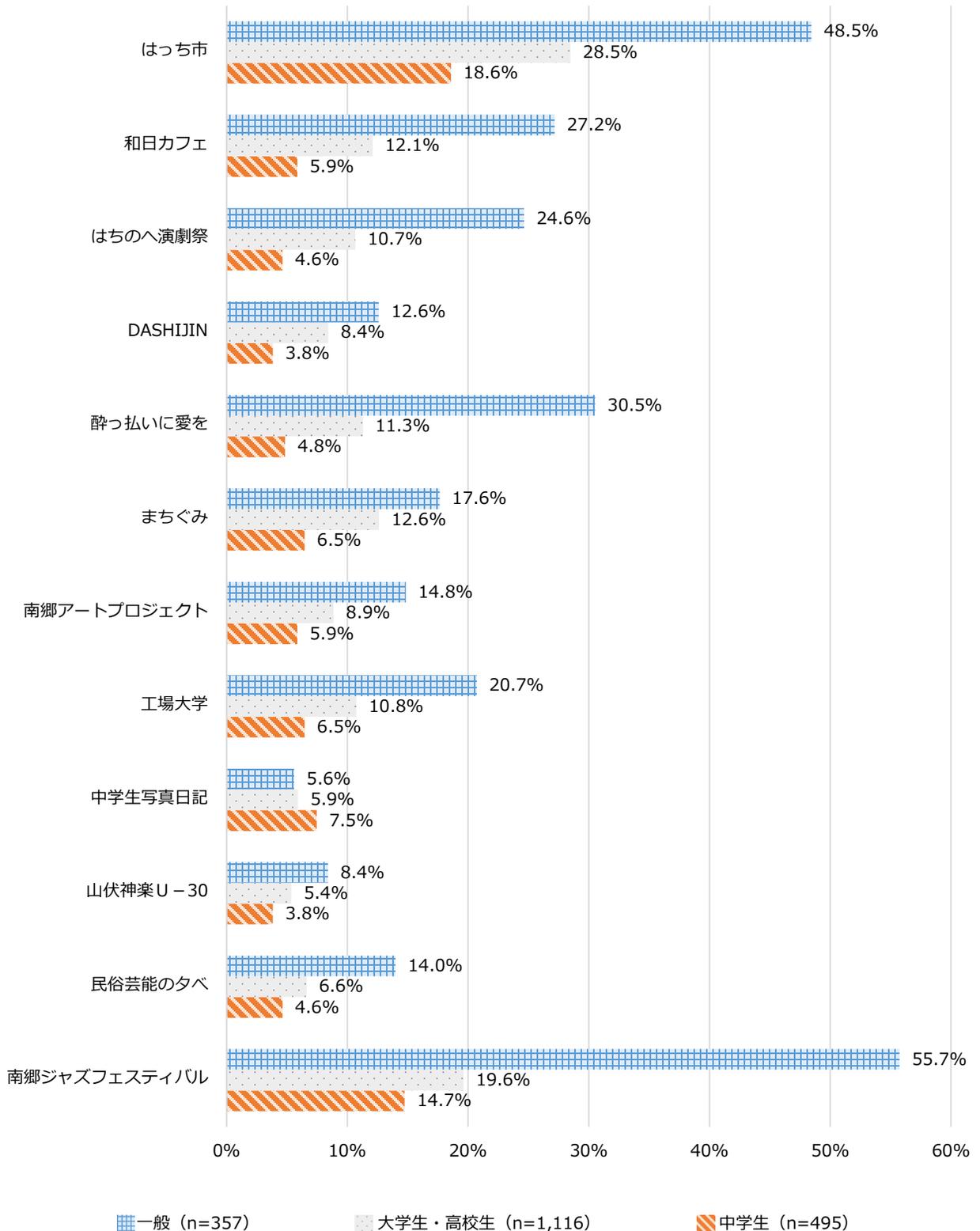
「⑤期待」では、「厨ホール」「フォーラム八戸」が全世代で20%を超える結果となった。「デーリー東北ホール」「街かどミュージアム」「八戸酒造」等は一般からの他世代と比較して一般の評価が高く、「いわぶち響堂」等のライブハウスは大学生・高校生、中学生からの評価が高い結果となった。



【問3-(3)】事業別にお聞きします。(複数選択可)

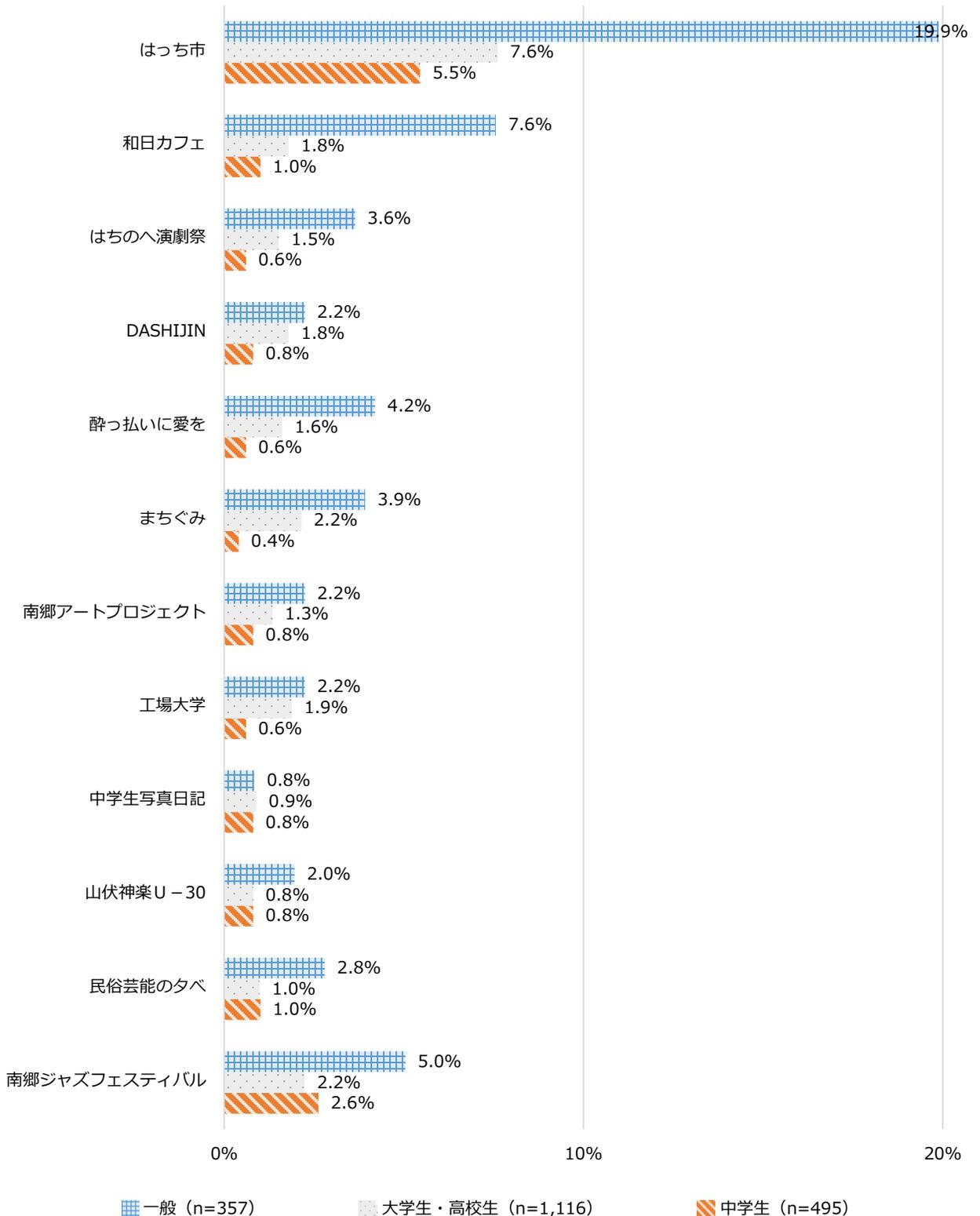
①知っている事業

「はっち市」「ジャズフェスティバル」の数値が高く、また、「中学生写真日記」以外は一般の数値が大学生・高校生、中学生よりも高い結果となった。



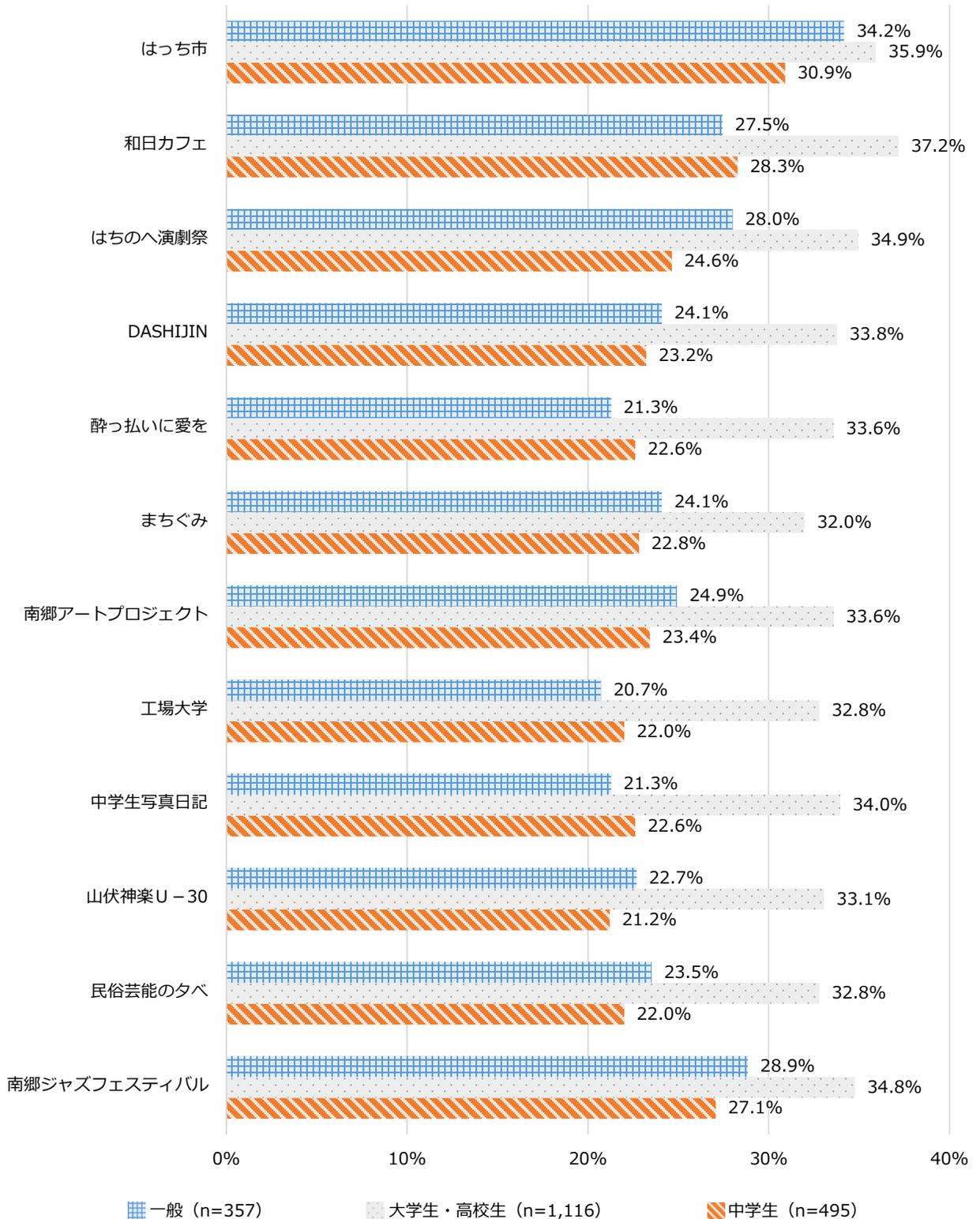
②過去1年間に利用や鑑賞、参加した事業

各世代ともに「はっち市」の数値が高く、「和日カフェ」「ジャズフェスティバル」が続いた。他の事業については、一般と大学生で事業毎に少し数値が出ているが、特に大学生・高校生と中学生は、「ジャズフェスティバル」と大学生・高校生の「まちぐみ」に数値が出ている以外0%付近で推移している。



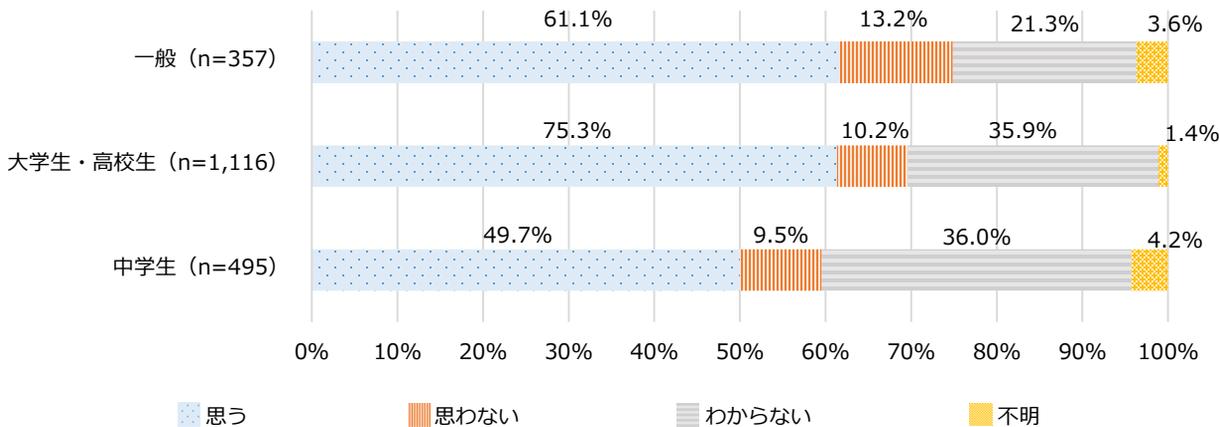
③より充実した事業実施を期待する事業

大学生・高校生の期待が概ね30%台で推移するのに比較して、一般と中学生の期待が20%台で推移している。



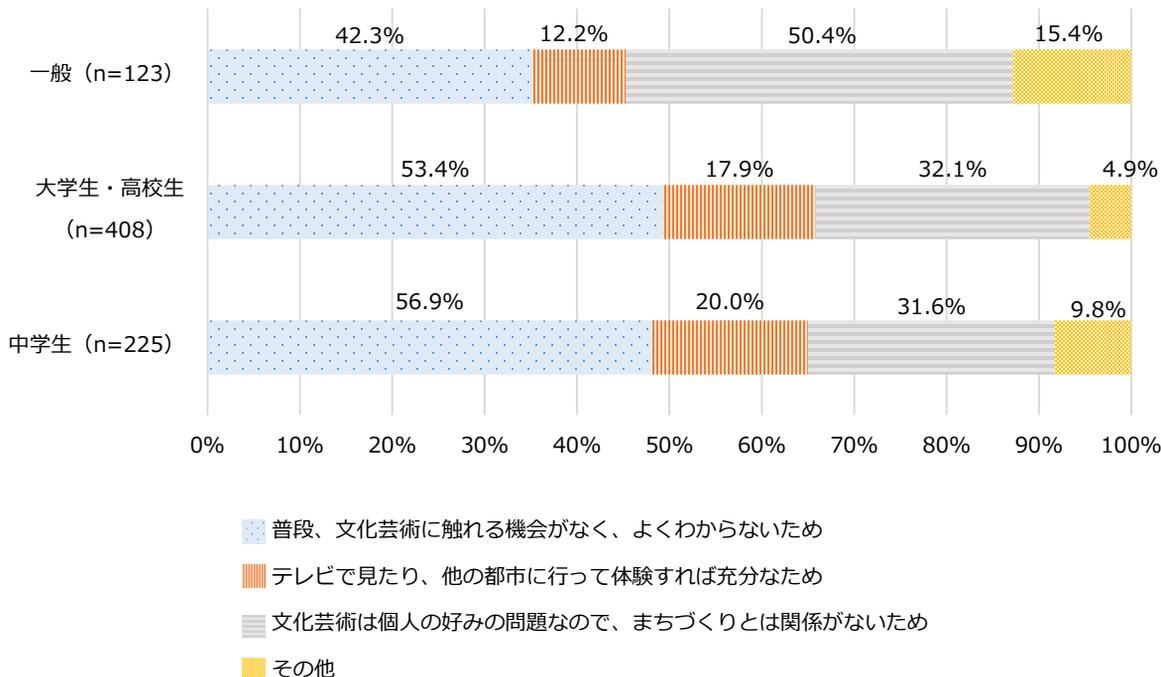
【問4】文化芸術に関する鑑賞や活動の機会が充実することは、暮らしたいまち、住み続けたいまち等魅力的なまちをつくることにつながると感じますか。

全ての世代で、「思う」が最も高い数値となった。



【問5】問4で「思わない」又は「わからない」とお答えした方にお聞きします。そのように考える理由は何でしょうか。

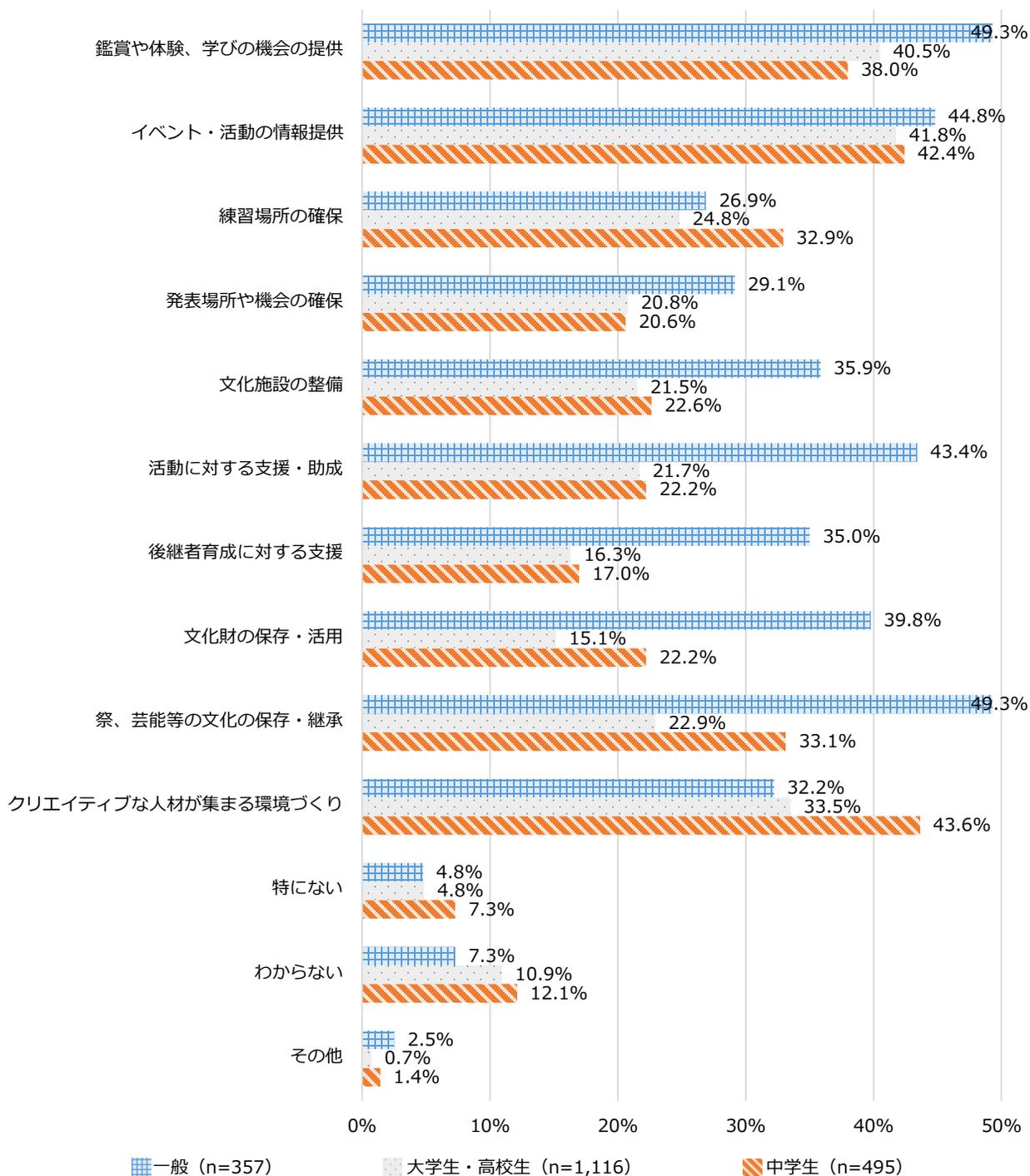
一般は、「文化芸術は個人の好みの問題なので、まちづくりとは関係がないため」と回答した人が最も多く、一方で、大学生・高校生、中学生は「普段、文化芸術に触れる機会がなく、よくわからないため」が最も多い結果となった。



【問6・7】文化芸術に関して、取り組む必要があると思うものは何ですか。（複数選択可）

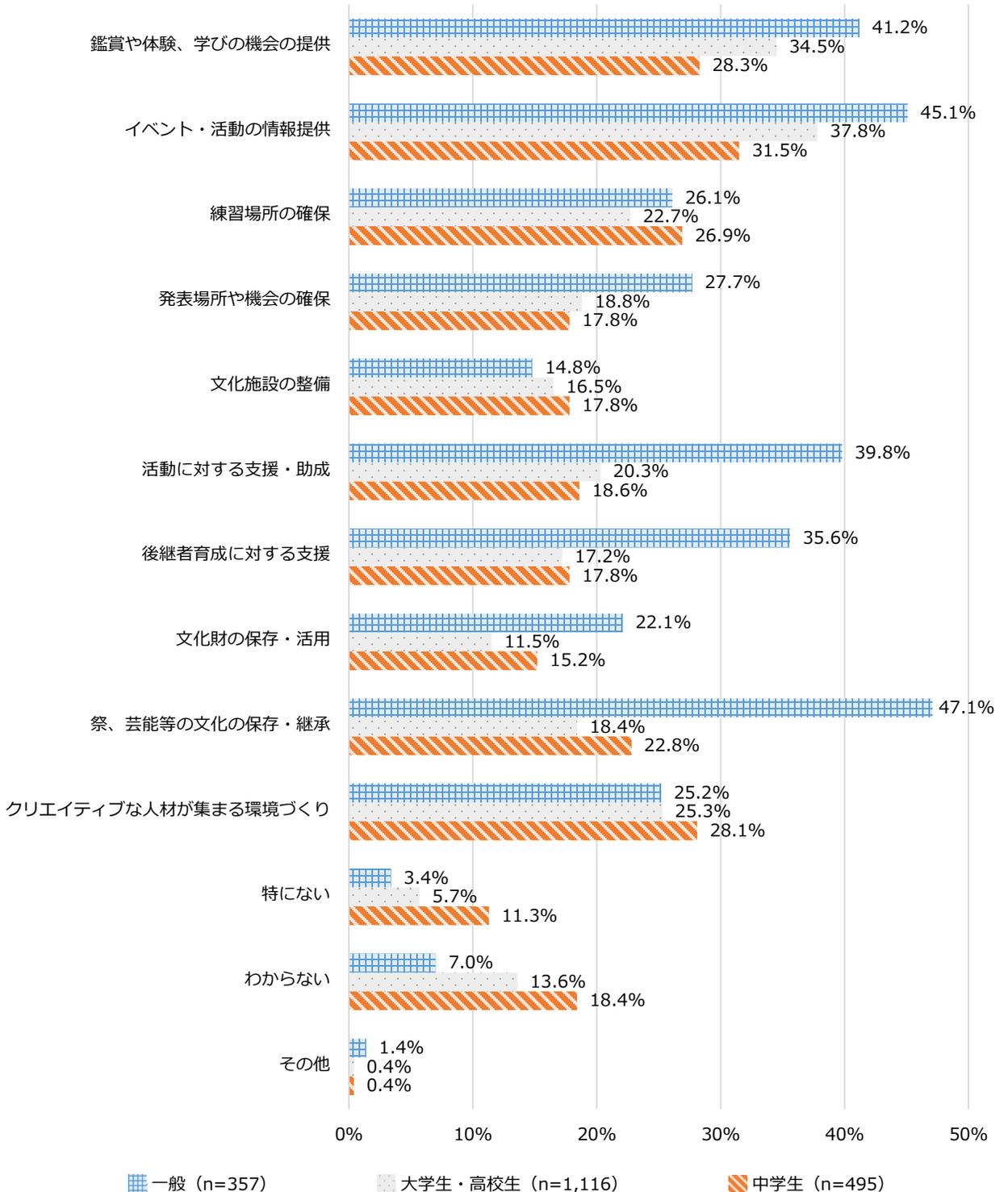
【問6】行政（県、市等）

「イベント・活動の情報提供」が全ての世代で40%を超える結果となった。大学生・高校生、中学生と比較して、「祭、芸能等の文化の保存・継承」等は一般の数値が高い傾向であるが、「練習場所の確保」「クリエイティブな人材が集まる環境づくり」は中学生の数値が高い結果となった。



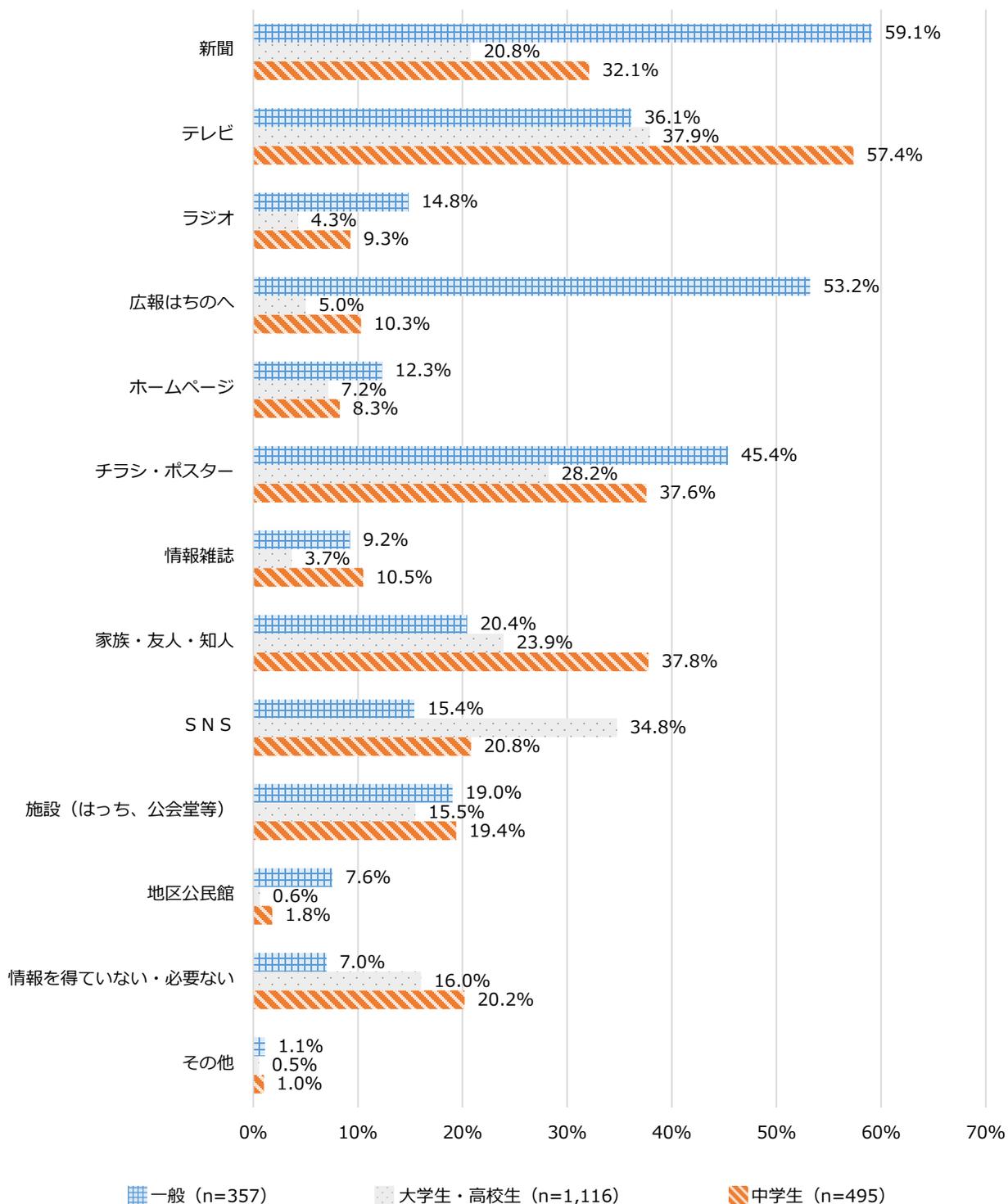
【問7】民間（企業、市民団体等）

一般は、「祭、芸能等の文化の保存・継承」「イベント・活動の情報提供」「鑑賞や体験、学びの機会の提供」の順で40%を超える結果となった。大学生・高校生、中学生では40%を超える項目はなかったが、「イベント・活動の情報提供」「鑑賞や体験、学びの機会の提供」「クリエイティブな人材が集まる環境づくり」の順で高い結果となった。



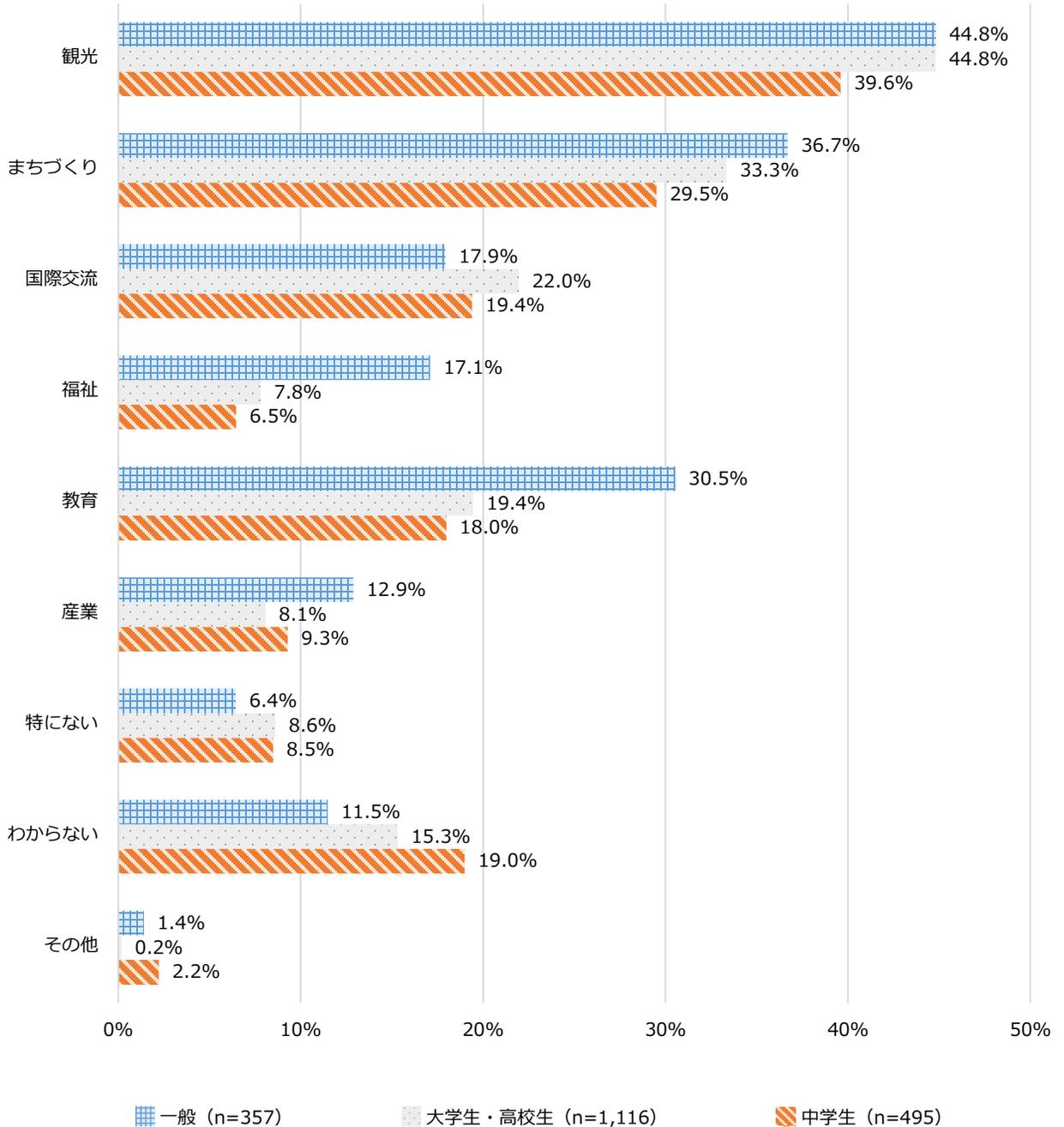
【問8】 普段、文化芸術に関するイベントや出来事に関する情報はどちらから入手していますか。
 (複数選択可)

一般は、「新聞」「広報はちのへ」「チラシ・ポスター」の順で高い数値を示した。一方、大学生・高校生は「テレビ」「SNS」、中学生は「テレビ」「家族・友人・知人」の順で高い結果となった。



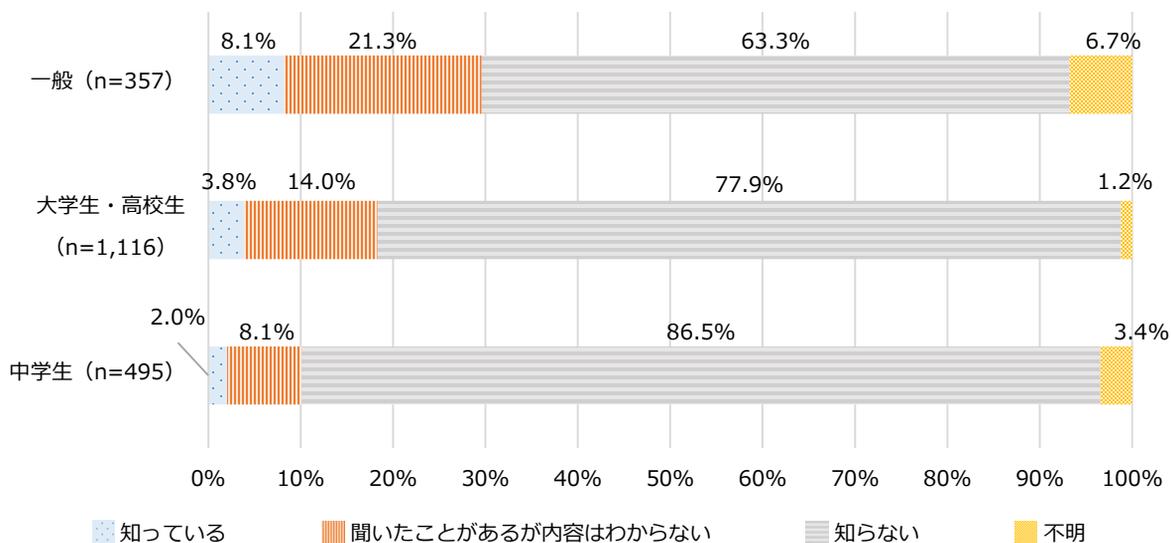
【問9】文化芸術がもつ可能性を活かせる、又は、活かしてほしいと思う「分野」はありますか。
(複数選択可)

「観光」「まちづくり」の数値が高い結果となった。次いで、一般では「教育」で、大学生・高校生、中学生では「国際交流」という結果になった。



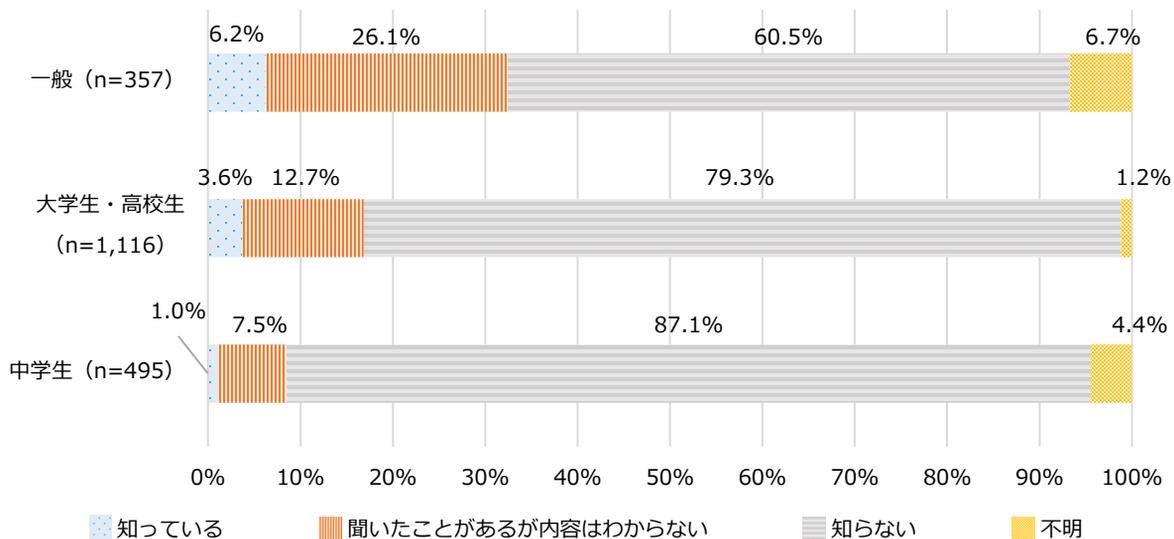
【問10】「多文化都市八戸」という言葉を知っていますか。

全ての世代で「知らない」と回答した人が多い結果となった。



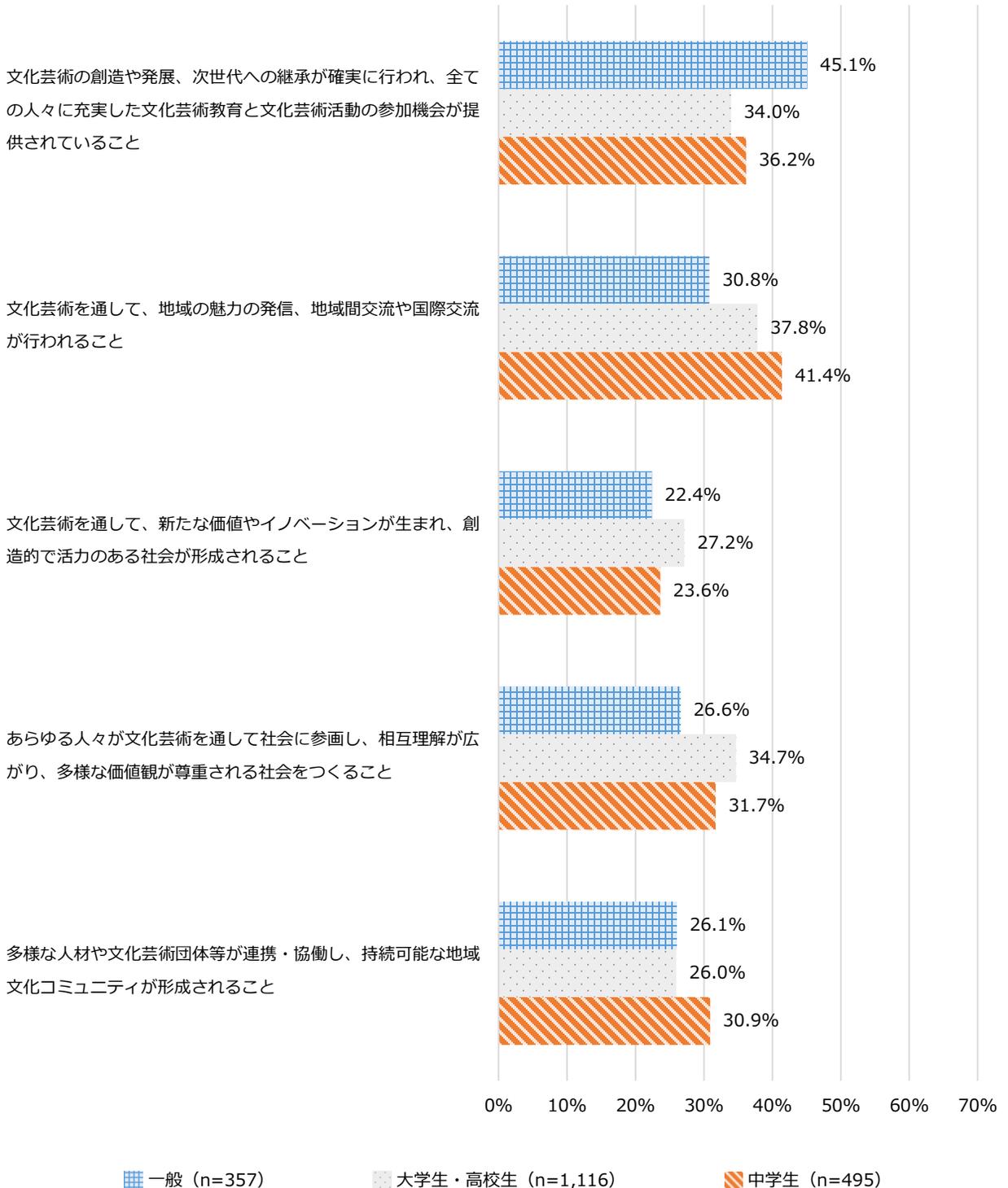
【問11】「八戸市文化のまちづくりビジョン」を知っていますか。

全ての世代で「知らない」と回答した人が多い結果となった。



【問12】 今後、八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿（方向性）として、特に大切だと思うものを「2つ」まで選択してください。

「文化芸術の創造や発展、次世代への継承が確実に行われ、全てのひと々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されていること」「文化芸術を通して、地域の魅力の発信、地域間交流や国際交流が行われること」の数値が高くなったが、他の項目も20%～30%であり、大きな差は生じなかった。



【問13】文化芸術政策に関するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

◎文化芸術活動でも多様化が進んでいると思う。様々な事柄に細かく支援して下さるようになれば良いと思っている。自分が菱刺を習っていることもあり、津軽の「ごぎん刺」の活発さ、地域での活用のされ方など、どうしてこうも違うのかと残念に思うことが多い。三社大祭の山車小屋のこともそうだが、行政が先頭にたってまとめていく必要があるのではないかと思っている。ねぶた、ねぶたとの活動の違いは何かとも。地域や企業の協力ももっと必要で、また、未来を支えていく子供たちに様々な文化活動にもっと親しんでもらい、将来もすんなりと関わってくれる土台を作ってもらいたい。(50代・女性)

◎八戸市は昔、合唱が盛んで全国的にも八戸市の名を轟かせてきたが、衰退の一途で危機感がある。他の文化芸術と違い身体一つあればいつでもどこでもやれる、お金のかからない合唱を市民の皆さんが今一度見直してくれることを期待しつつ、目でも楽しい合唱の形を構築し、八戸市から発信できたらいいいつも思っている。(40代・女性)

◎八戸ならではの文化の保存、継承、活用は重要であり、文化芸術の活発化は次世代の人材育成にもつながると思う。公共施設を上手く利用し、気軽に参加しやすいイベントを希望。(50代・男性)

◎社会人、成人の文化芸術に参加できる機会を増やしたほうが良い。(10代・女性)

◎八戸市の美術館のイベントは過去、面白いものがたくさんあった。リニューアル後では、より幅広く多様で面白いものがあることを期待している。また、八戸市の発信能力が低いことを日々感じるので向上してほしい。(10代・男性)

◎三社大祭の笹踊りに出てくれる子どもたちが少なくなってきたので、お祭りの参加者を増やせるような活動をしてほしい。(10代・女性)

◎公会堂及び公民館で演劇、音楽の催しがある時に、幼児を持つ親にも鑑賞出来るように施設の充実(例：防音室などで分けけて幼児と共に鑑賞出来るスペース)があると良い。併せて、障がいのある方にも配慮した設備をお願いしたい。(70代以上・男性)

◎八戸市博物館はよく利用しているが、子どもたちがもっと体験できるイベントがあると良い。(40代・女性)

◎はっちではイベントがあるが、街までなかなか行かないため、近くの博物館でいろんなことをやってほしい。(40代・女性)

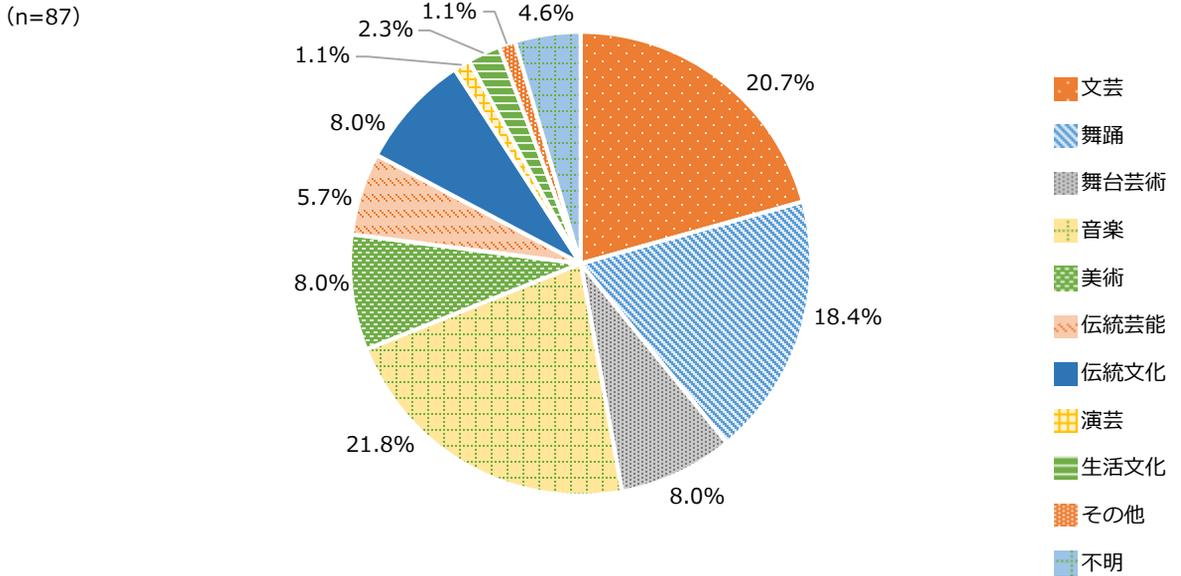
◎YSアリーナだけでなく、公会堂ももう少しライブやコンサートで人が来てくれる環境が整備されると良い。はっちのように気軽に子どもたちが集まって足を運べるように。安価に借りられる音楽の練習ルームや会議室等が充実し、地域の人々が普段使いのように集まって文化交流できる空間が、中心街にもっとあってよいと思う。こどもはっちのようなところは子どもの感性を育む場としてとても役立っている。(30代・女性)

※全325件中、一部要約して抜粋

調査結果（文化団体）

活動している団体について

【問1-(1)】活動のジャンルをお書きください。

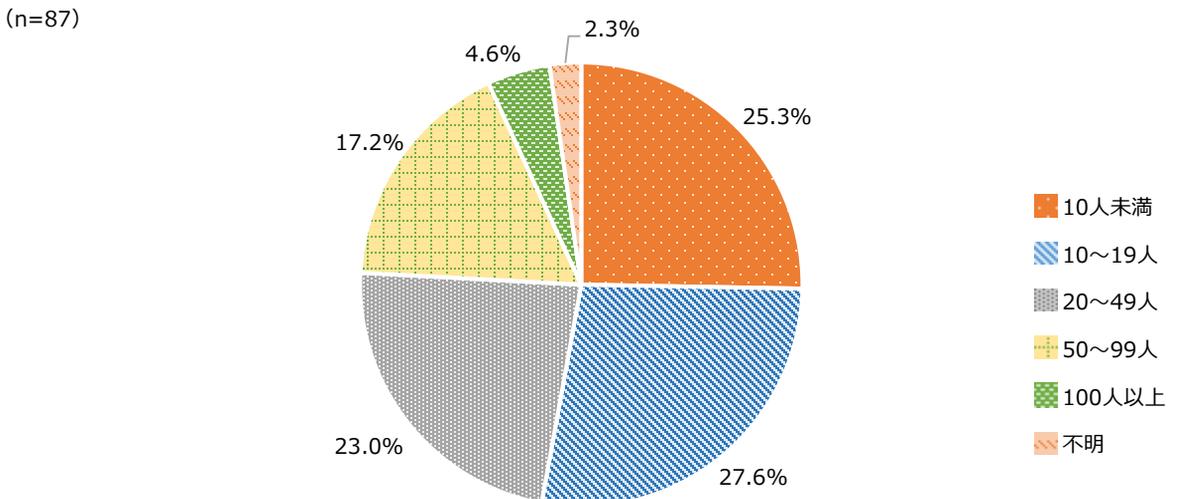


【問1-(2)】名称（団体名・活動名）をお書きください。

※個人情報のため、掲載なし。

【問1-(3)】会員やメンバー（以下「会員等」）の数に近いものを選択してください。

20人未満での小規模で活動しているとの回答が半数以上であった。わずかではあるが、100人規模で活動するという回答もあった。

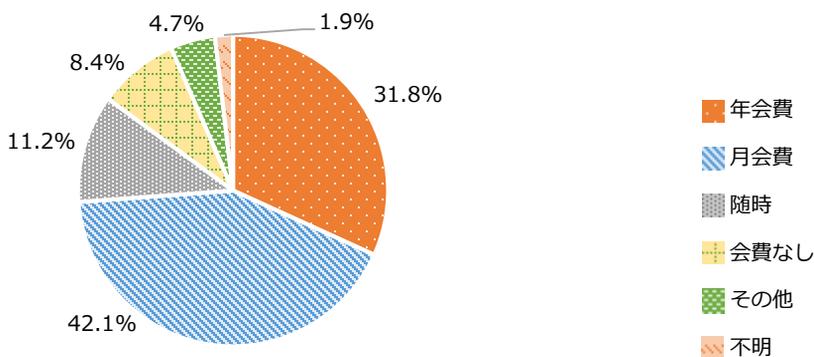


【問1-(4)】活動にあたり、会員等の会費や活動・発表等に伴う負担金（以下「会費等」）についてお聞きします。

①会費等の支払頻度はどのくらいでしょうか。

調査を行った団体のほとんどが会員等に会費等があるという結果となった。最も多いのは月会費で42.1%。

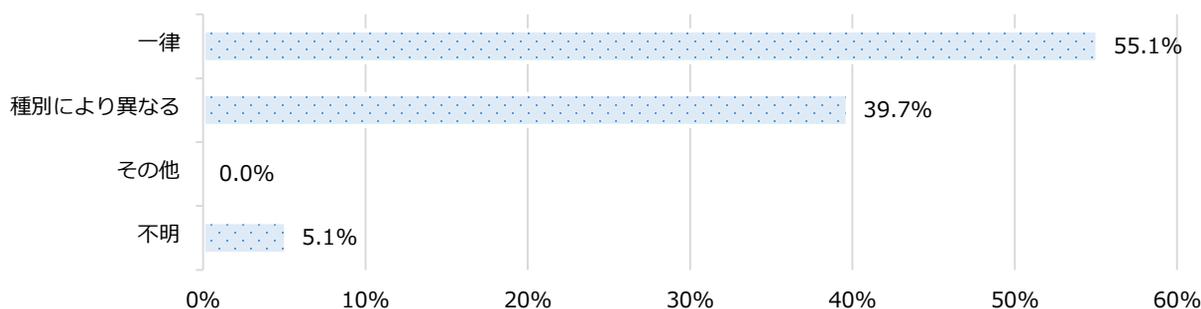
(n=87)



②会費等の金額（負担額）は、会費等の種別（クラス等）によって異なりますか。

会費等の金額を一律にしているとの回答が半数以上の55.1%となり、種別によって異なると回答したのは39.7%となった。

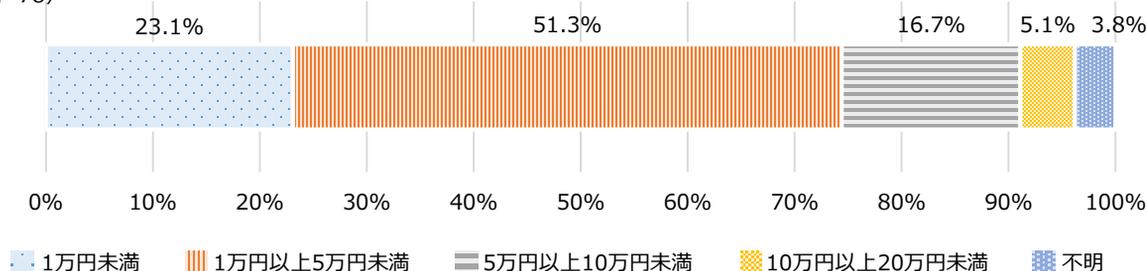
(n=78)



③年間の会費等の総負担額はどの程度でしょうか。

年会費が「1万円以上5万円未満」と回答した人が最も多く、51.3%という結果になった。

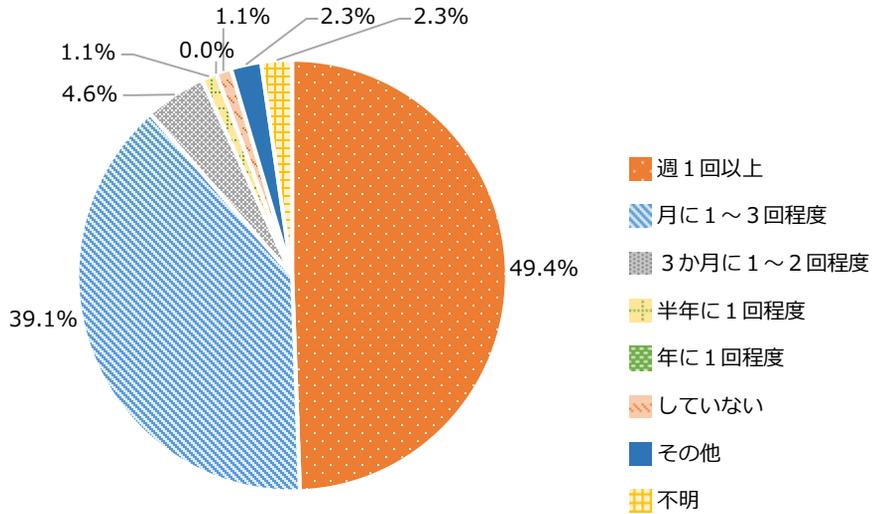
(n=78)



【問2-(1)】練習など、会員等のみでの活動の頻度はどの程度でしょうか。

週に1回以上活動するという回答が約半数の49.4%となった。

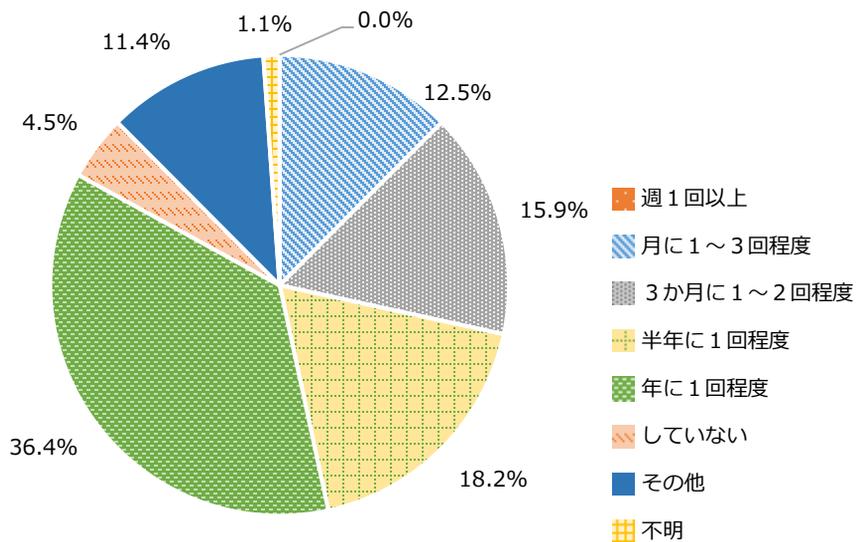
(n=87)



【問2-(2)】発表など、不特定多数の方々へ活動内容を見せる機会の頻度はどの程度でしょうか。

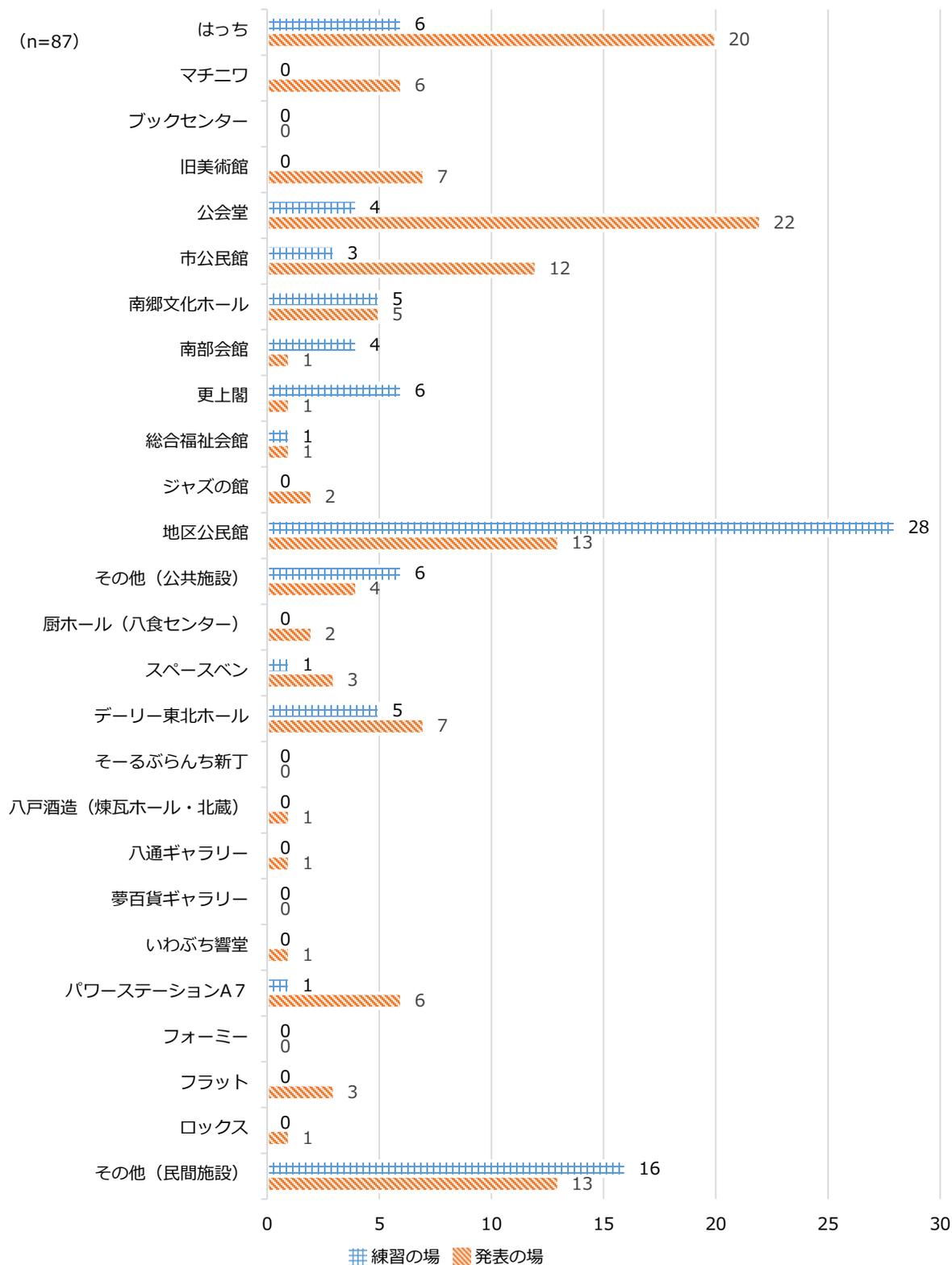
最も多かった回答は「年に1回程度」の36.4%、次いで「半年に1回程度」の18.2%であった。定期演奏会など、大きな行事がある音楽関係団体は、練習の期間などもあり発表の頻度はやや少ない回答となった。

(n=87)



【問2-(3)】活動場所についてお聞きします。

練習の場として最も多かった回答は「地区公民館」、発表の場として最も多かった回答は「公会堂」、次いで「はっち」となった。施設の認知度や収容人数、アクセスのしやすさが回答に大きな影響を与えていると考える。

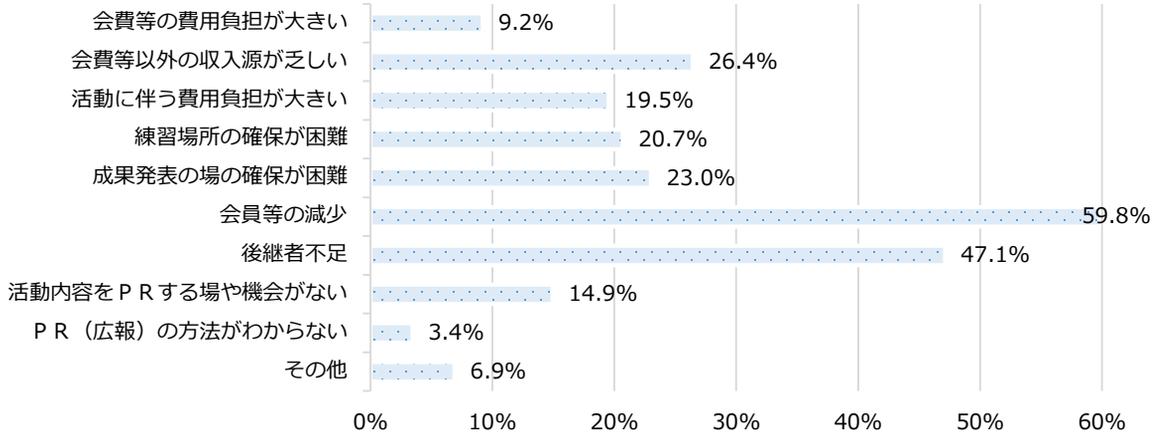


3 課題について

【問2-(4)】活動を継続していく上で、課題に感じていることは何ですか。(複数回答可)

最も多かった回答は「会員等の減少」で59.8%、次いで「後継者不足」の47%であった。回答の3割を超えるものはどちらも人に関係しており、14.9%が回答した「活動内容をPRする場や機会がない」との回答とも大きく関係している。

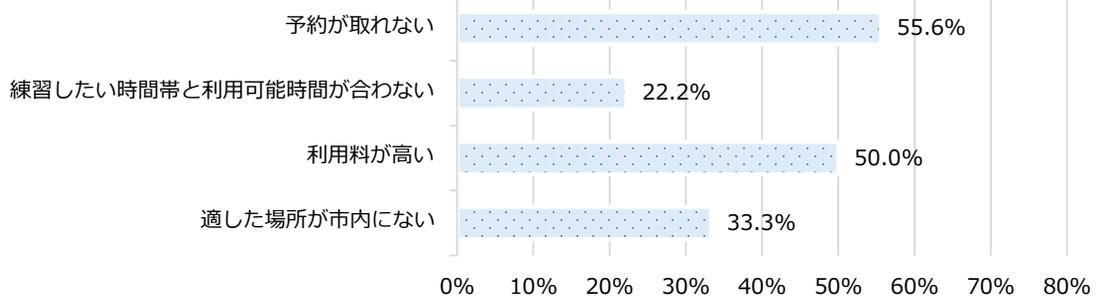
(n=87)



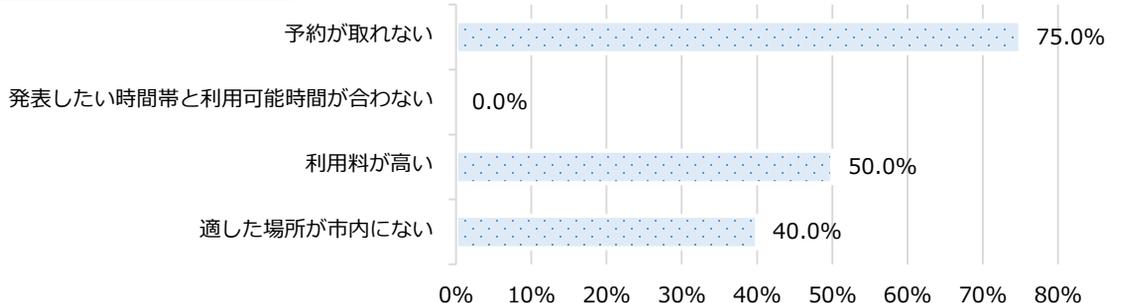
【問2-(5)】(4)で「練習場所」や「成果発表の場」の確保が困難とお答えした方にお聞きます。困難の理由はそれぞれ何でしょうか。

練習場所・発表場所の確保ともに、困難な理由として半数以上が「予約が取れない」「利用料が高い」と回答し、どちらも施設自体に関係する結果となった。

練習場所の確保が困難と回答した方 (n=18)



発表場所の確保が困難と回答した方 (n=20)



【問2 - (6)】 (4) の課題を解決するためにどのような取組、あるいは支援が必要だと思われますか。
(自由記述)

施設の使用料や、駐車場、駐車料金に関する回答が多く見られた。発表に際する補助金を活用する団体も多いため、その面での補助を求める回答はあまり見られなかったが、普段の活動に対する支援に関する回答は見られた。

◎八戸市内(希望として、類家地区) 辺りに総合的な文化センター(和室も含む)を建設して、駐車場も無料にして欲しい。土・日・祝日は使用料1時間1,000円くらい、平日はその半額、そして、高齢者もバスで行けるようにバス停も玄関口に作る。大型のバスも乗り入れられるようにしてほしい。

◎発表する場所を増やして欲しいと思う。あるいは、発表するときに使う、花を飾るBOXや平台を貸し出しできるなどがあれば良い。保管場所があれば良いとも思う。

◎八戸市が誇る三浦哲郎の文学について、後世に継承するための活動である。市教育委員会には協力を得ており感謝しているが、学校(小・中・高)での三浦文学についての教育に力をいれることで、後世に伝わると思う。また、三浦文学ゆかりの地を巡る企画など観光面につながる活動も必要と思われる。

◎120名を超える人員の勉強する場(高齢者を配慮した場所…椅子席、バス等の路線に近い場所=中心街、会議用椅子・テーブルが設置されている場所=移動の必要がない、冷暖房が整っている場所)の支援が必要である。また、上記の条件がそろった利用料が安い公共施設、予約が取りやすい施設も必要だと思う。

◎毎回又は3か月毎などの申し込み不要等の長期での練習時間が確保しやすい、長期割引などの安価で使用可能な環境の整備が必要だと思う。

◎地区公民館などからの依頼演奏には謝礼をいただいているが、謝礼よりも経費負担のほうが多く、実際は赤字ということが多く。そのため、打楽器購入費用を大きく積み立てたいと思っけてもなかなかそうはいかない状況にあり、現在は必要なものを学校から借用して対応している。演奏会補助金はあるが、継続的活動に対する支援もあると良い。

◎ほとんどの公共施設の利用時間が午前9時から午後10時までだが、多くのメンバーが社会人のため、夜7時過ぎまで仕事をしているため、あと1時間(午後11時)利用できれば余裕をもって練習に臨める。また、近隣住民から苦情が来ないためにも防音設備がある建物が望ましい。ドラムセットやアンブ類のような大きな機材を保管できる練習場があれば良い。

◎市内に楽器倉庫付の音響を考慮した練習場を作ることがオーケストラを育てるために必要である。発表の場として多目的ホールではなく、音楽に特化したホール大小1つずつ必要である。(例:久慈市のアンバーホール、その次にむつ市民会館、二戸市民会館)

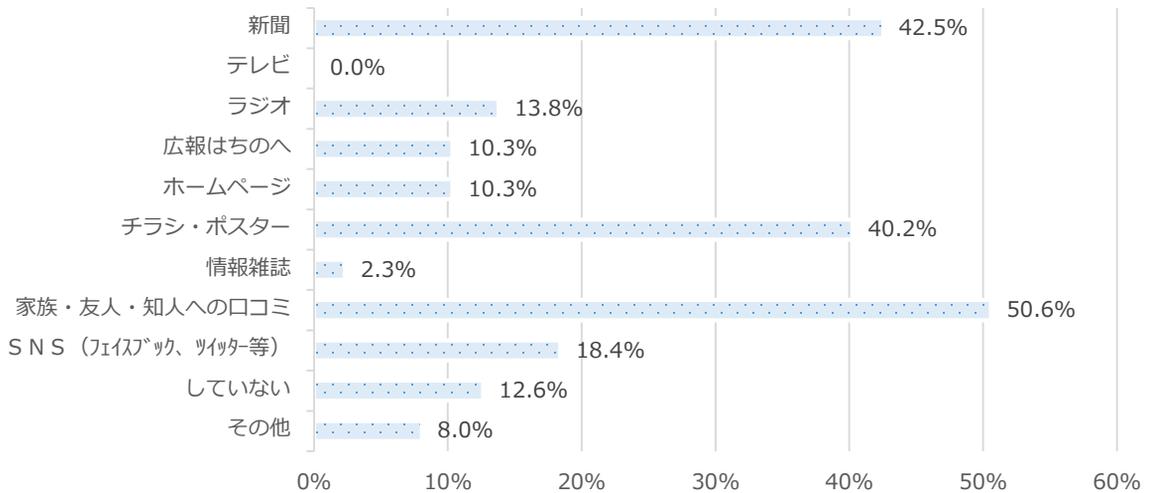
◎継承より、いまの芸術を志す人達がやりたいことが自由にやりやすい環境をつくって欲しい。

※全31件中、一部要約して抜粋。

【問3】活動や発表のPR（広報）は、どのような媒体を利用して情報発信していますか。（複数選択可）

最も多い回答は「家族、友人、知人」であり、身内からの発信となった。次いで「新聞」「チラシ・ポスター」と紙媒体が続いた。一方、現在若年層を中心に利用者の多い「SNS（フェイスブック、ツイッター等）」は18.4%とやや低い結果となった。

(n=87)



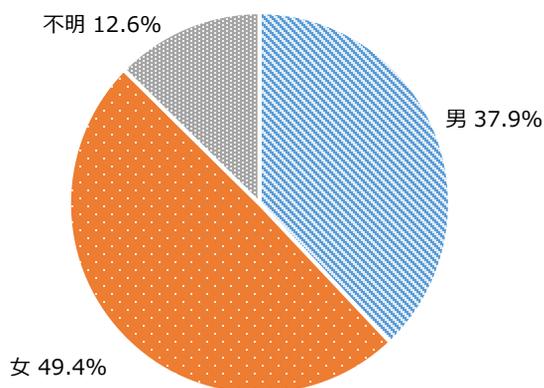
回答者個人について

【問1】あなたについてお聞きします。

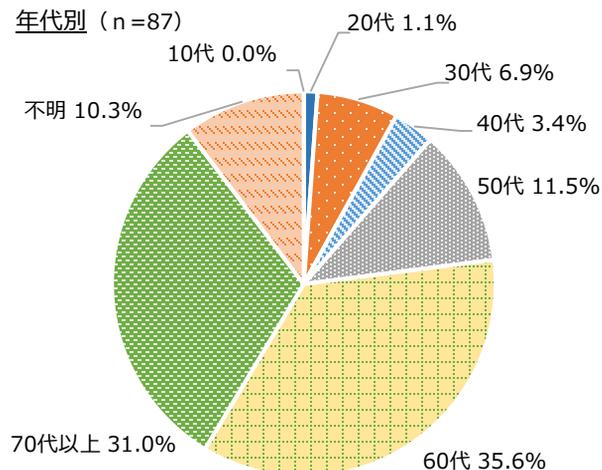
問1-(1) 性別

問1-(2) 年代

男女比 (n=87)



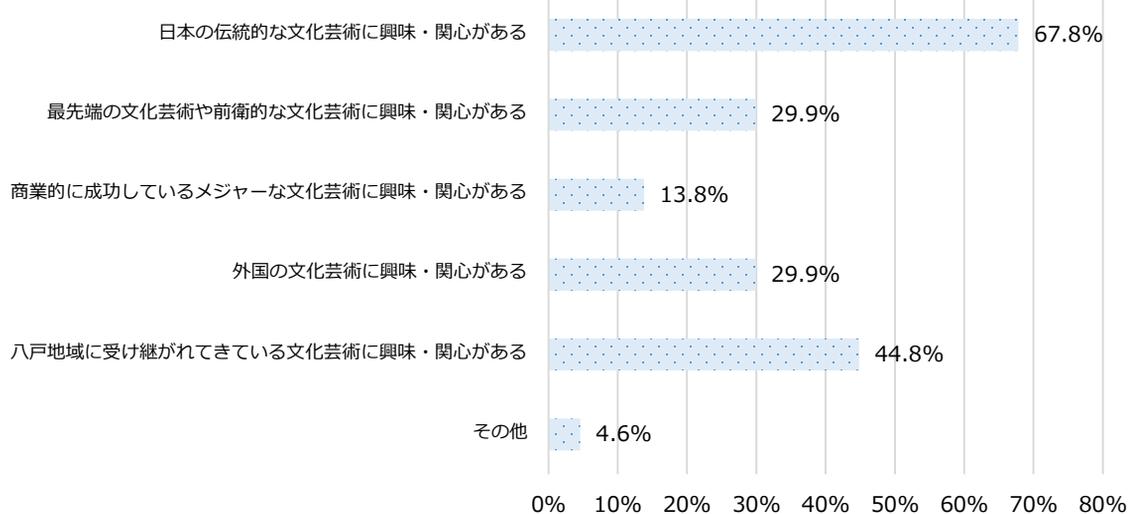
年代別 (n=87)



【問1-(3)】どのような分野の文化芸術に興味・関心がありますか。(複数選択可)

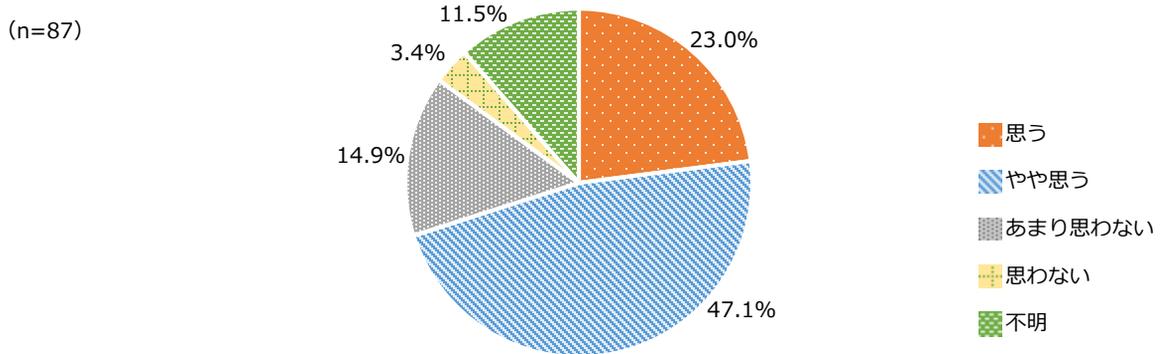
「日本の伝統的な文化芸術に興味・関心がある」という回答が最も多く、次いで「八戸地域に受け継がれてきている文化芸術に興味・関心がある」という結果になり、地域にあるものに目を向けられていることが分かった。

(n=87)



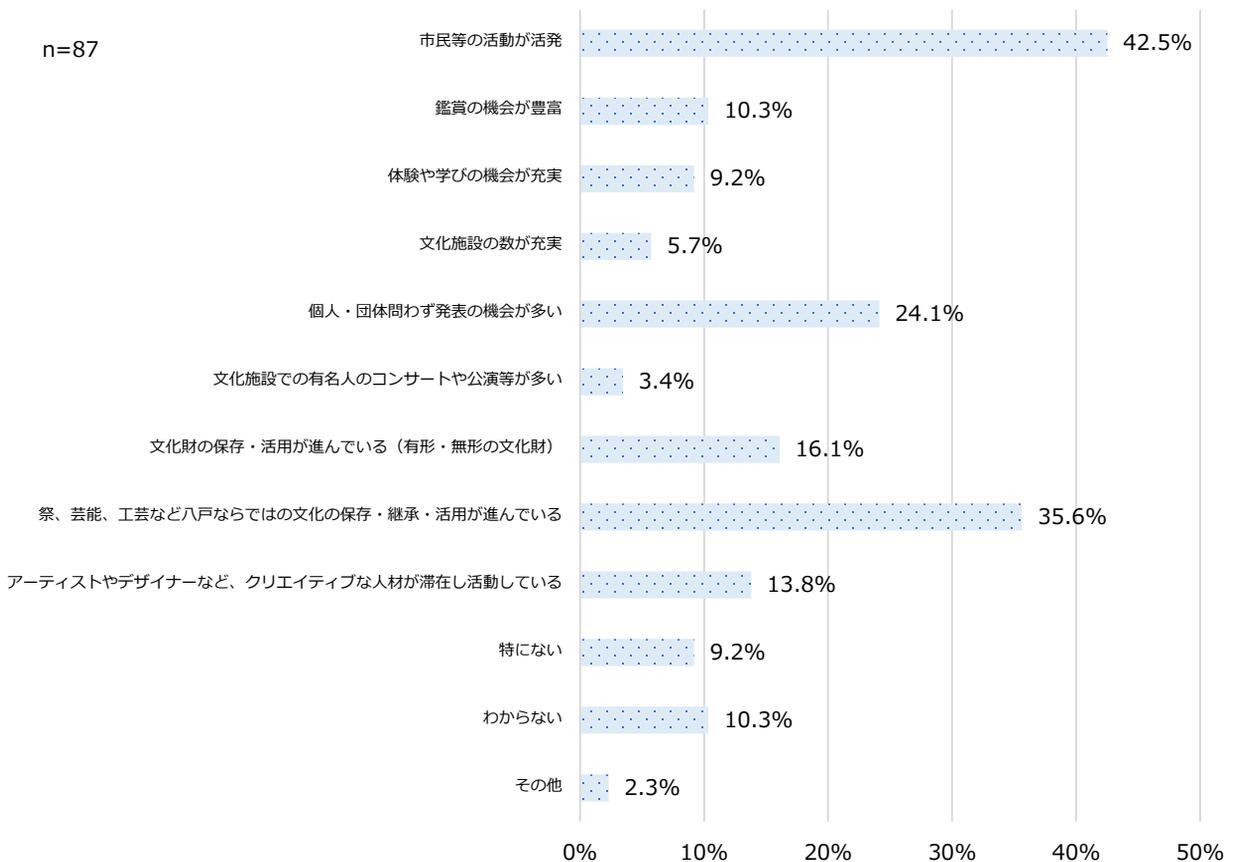
【問2-(1)】文化芸術に関する八戸市のイメージについてお聞きします。八戸市は文化芸術が盛んなまちだと思いますか。

「思う」「やや思う」の回答が70.1%となり、市民に対するアンケートと比較して数値が高い結果となった。



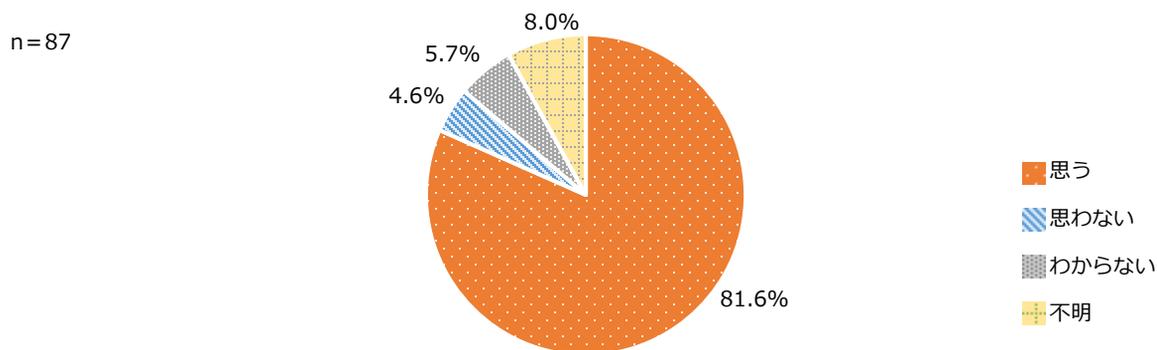
【問2-(2)】活動が充実していると思うものに○をつけてください。

「市民等の活動が活発」が42.5%で一番多い結果となった。



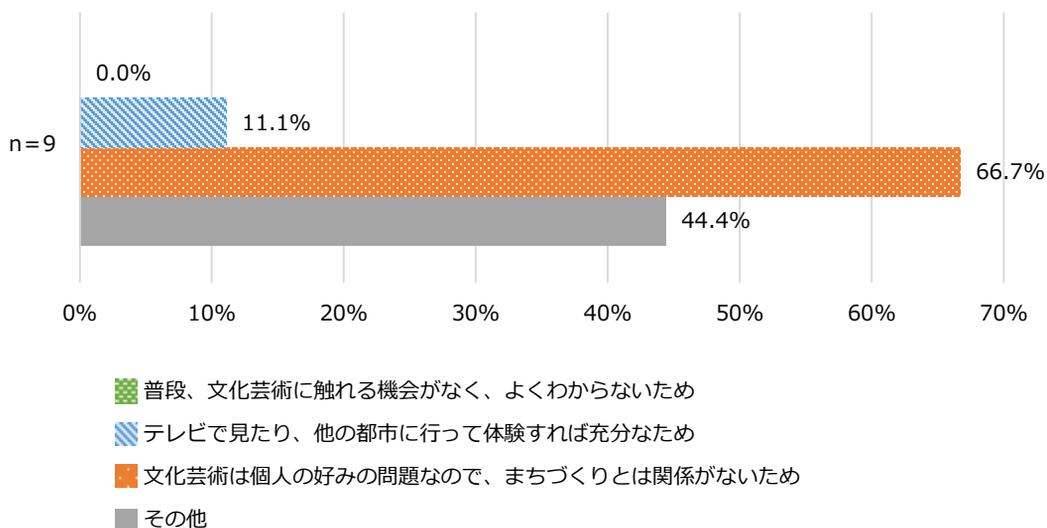
【問3】文化芸術に関する鑑賞や活動の機会が充実することは、暮らしたいまち、住みたいまち等魅力的なまちをつくることにつながると感じますか。

全ての世代で、「思う」が最も高い数値となった。



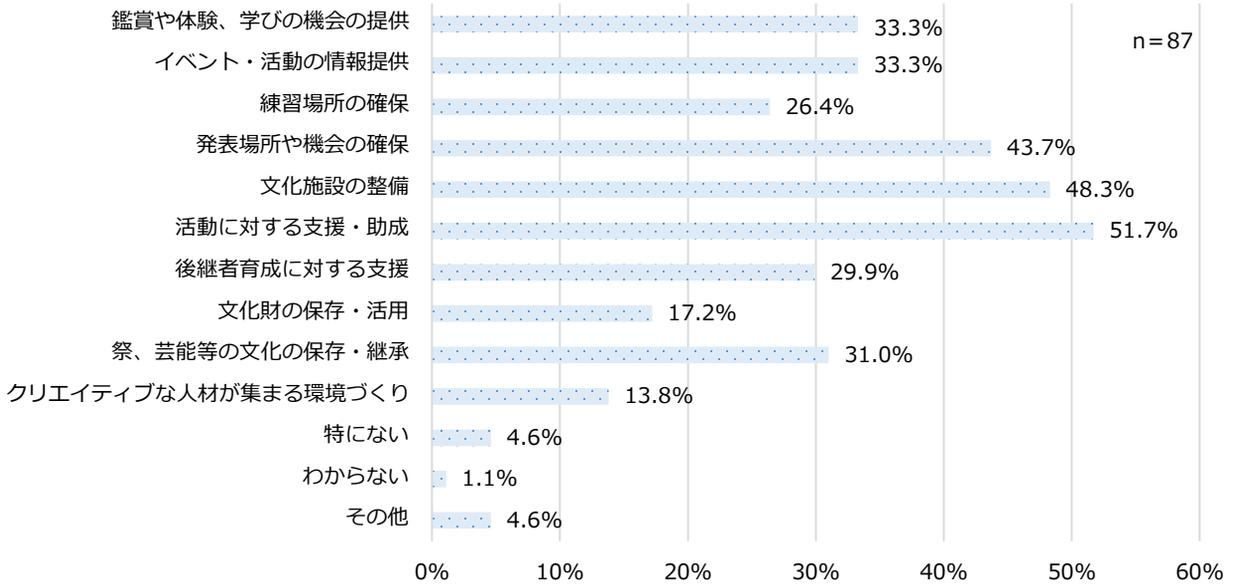
【問4】問3で「思わない」又は「わからない」とお答えした方にお聞きします。そのように考える理由は何でしょうか。（複数選択可）

「文化芸術は個人の好み問題なので、まちづくりとは関係がないため」が最も高い数値となった。



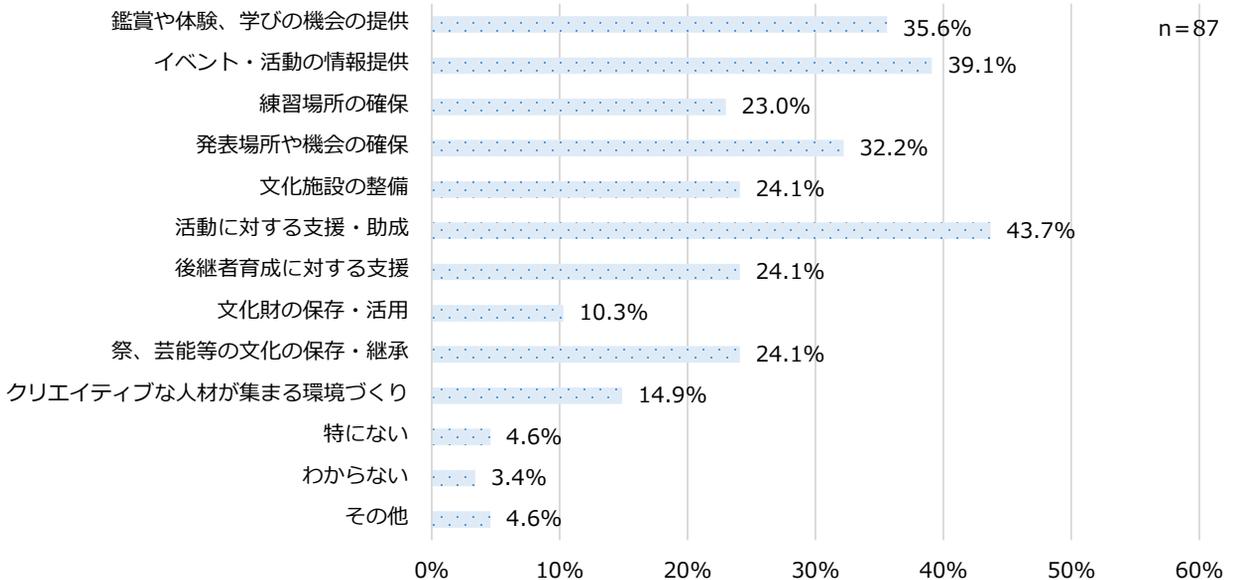
【問5】文化芸術に関して、行政（県や市等）が取り組む必要があると思うものを選択してください。
（複数選択可）

「活動に対する支援・助成」が51.7%で最も高く、「文化施設の整備」「発表場所や機会の確保」が40%を超える結果となった。



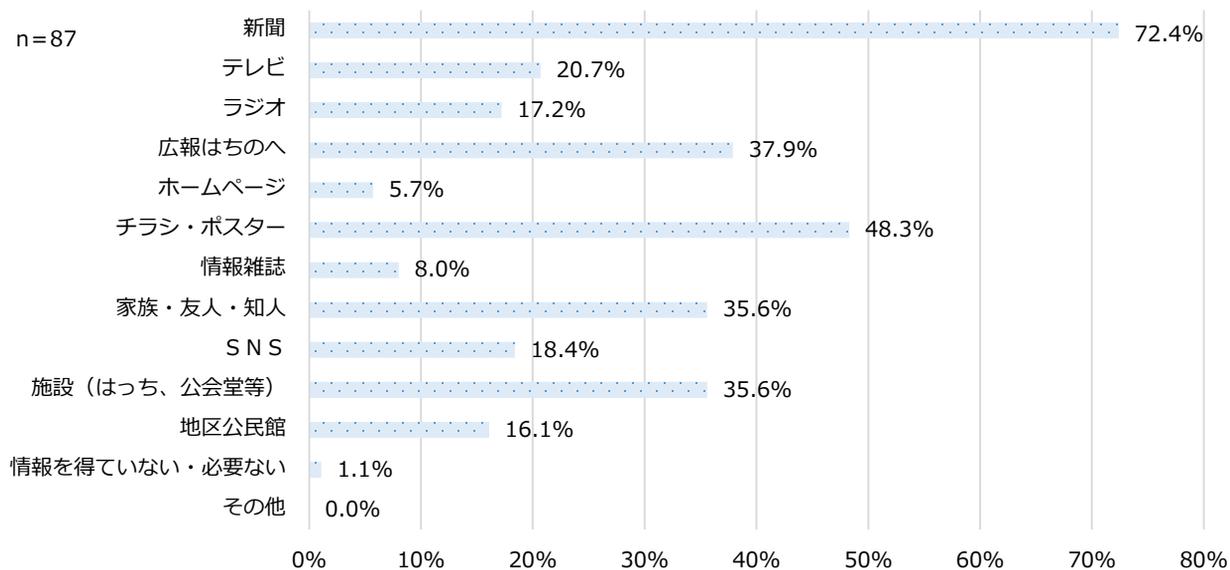
【問6】文化芸術に関して、民間（企業、市民団体等）が取り組む必要があると思うものを選択してください。（複数選択可）

問5と同様に「活動に対する支援・助成」が最も高く、43.7%であった。次いで、「イベント・活動の情報提供」「鑑賞や体験、学びの機会の提供」「発表場所や機会の確保」が30%を超える結果となった。



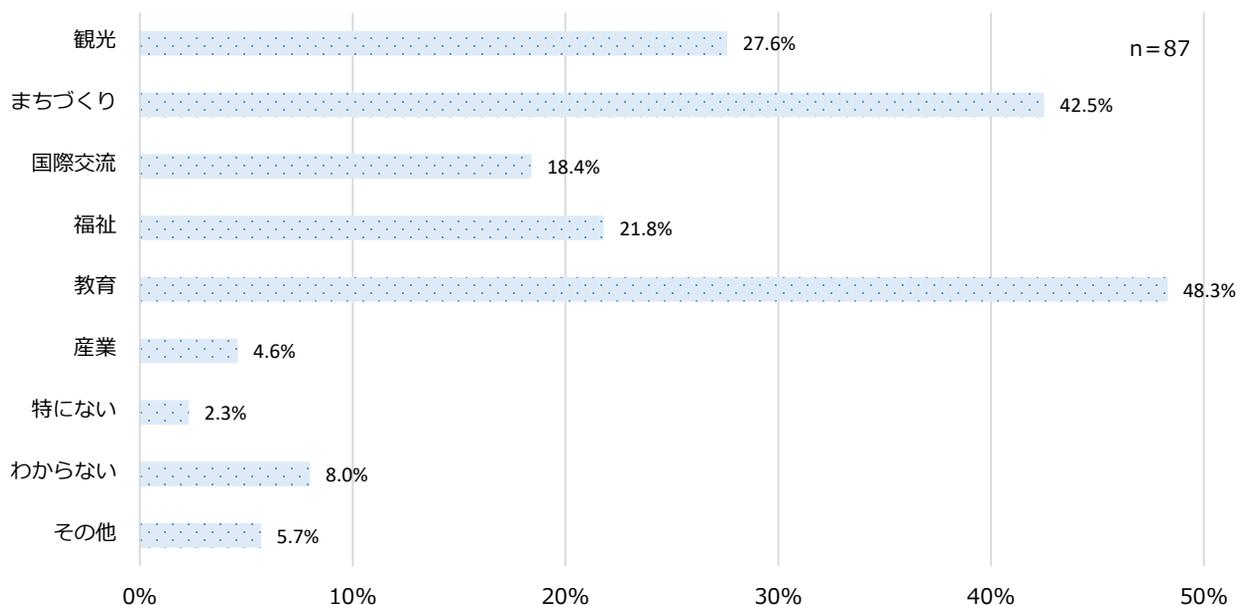
【問7】 普段、文化芸術に関するイベントや出来事に関する情報はどちらから入手していますか。
（複数選択可）

「新聞」が72.4%で最も高い結果となった。次いで、40%を超えたのは「チラシ・ポスター」、30%を超えたのは「広報はちのへ」「家族・友人・知人」「施設」となった。



【問8】 文化芸術がもつ可能性を活かせる、又は、活かしてほしいと思う「分野」はありますか。（複数選択可）

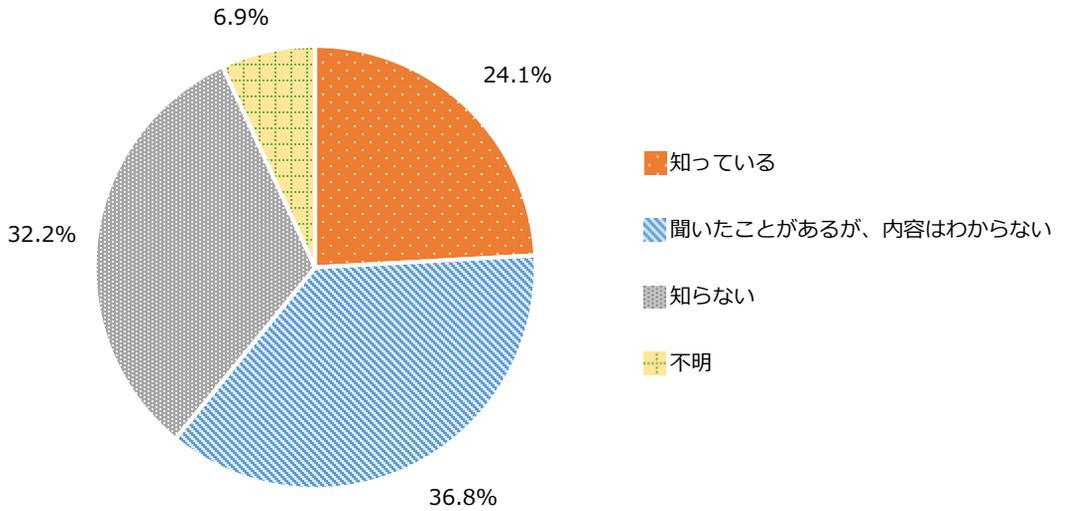
「教育」「まちづくり」が40%を超える結果となった。



【問9】「多文化都市八戸」という言葉を知っていますか。

「知っている」「聞いたことがあるが、内容はわからない」が60.9%となった。

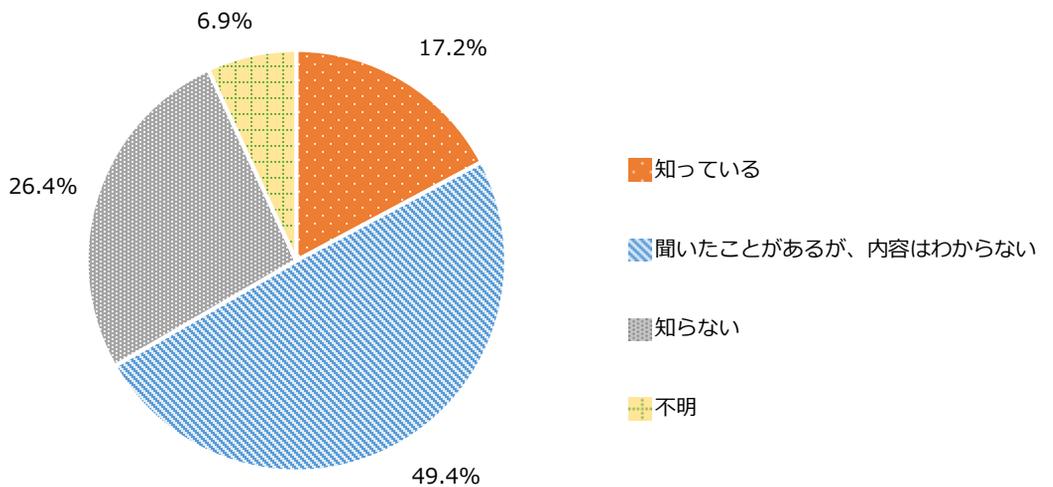
n=87



【問10】「八戸市文化のまちづくりビジョン」を知っていますか。

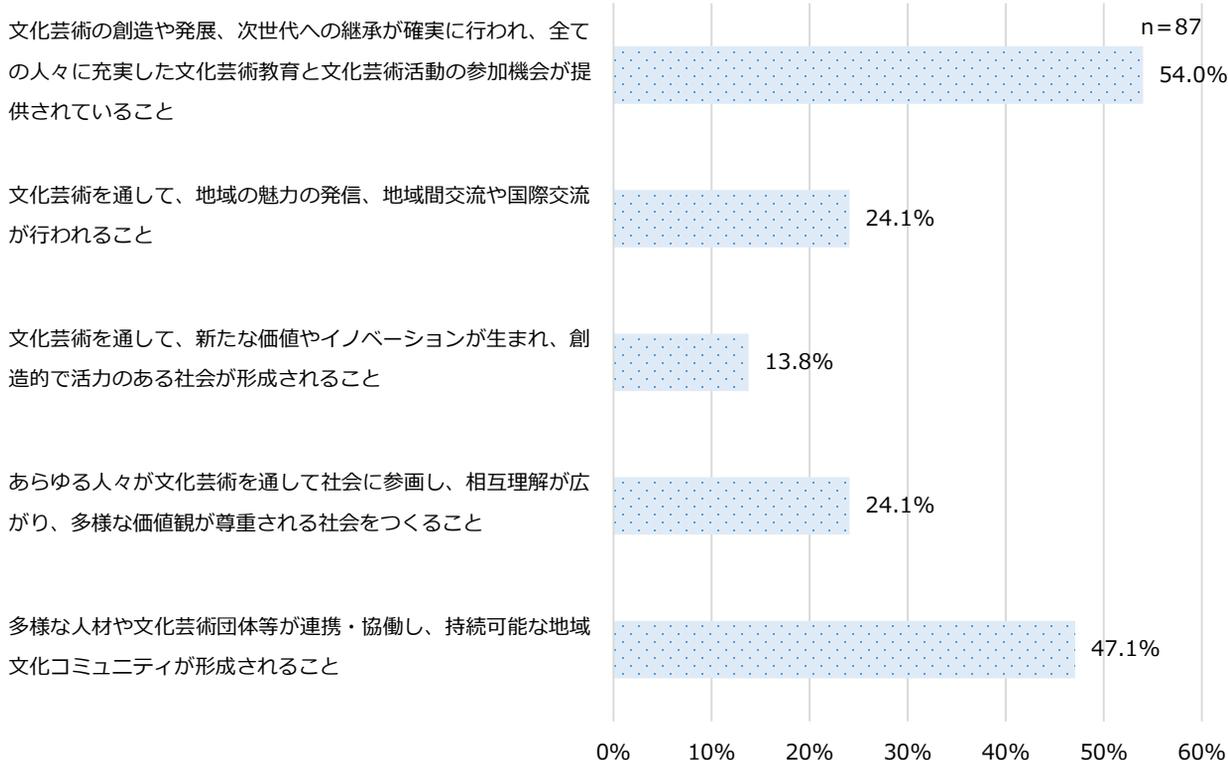
「知っている」「聞いたことがあるが、内容はわからない」が66.6%となった。

n=87



【問11】 今後、八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿（方向性）として、特に大切だと思うものを「2つ」まで選択してください。

「文化芸術の創造や発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されていること」が最も高い数値となった。



【問12】 文化芸術政策に関するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

◎私は洋舞を教えており、子どもの頃から始める方は良いですが、近頃は共働きのために子どもの送迎ができず、あきらめている人が多い。こどもはうち等で日曜日に教えることができれば子どもが育ち、それを継続していくことができれば多方面に文化芸術が発展していくと思う。年月を費やすことで、急にはできない事なので先を見てやっていくことが必要である。中学、高校になれば自力で練習場所に行けるが、その頃になると学校行事や部活に縛られ、レッスンに来られないのが現実である。(60代・女性)

◎地域に受け継がれている芸術、または全ての文化芸術（上質なものも含め）に触れる機会が豊富であることを望んでいる。活力ある、魅力あるまちになってくれたらと思う。(60代・女性)

◎職場を引退して、時間はあるけれど何かをやりたいと思う人がたくさんいると思う。しかし、どれも初めてなのでどうしても入っていけない。やはり、子どものうちに少しでも体験していると、入ってみようかなと思うので、学校教育の中で、いろいろな文化に触れさせることは必要ではないか。(70代以上・女性)

◎大学生の活動の場がもう少しあってもよいのではないかとと思う。また、昭和20～30年代には職場に文化的なサークルや運動クラブなどがあり、活発に活動していたように記憶している。あの頃の活気を取り戻すにはどうしたらよいのかを考えてみるのもよいのではないか。(70代以上・男性)

◎各々が探求している文化芸術を、何年かに一度でも異文化交流イベントやセミナーなどを行い、絵画と短歌、書と俳句、音楽と詩、ダンスと書など、静と動をコラボして、また、各作家同士のコミュニケーションを図り、文化創造の刺激を与えあうなどはどうか。別分野でも追及していくと、深いところに共感しあうものがあり、その発見が素晴らしい新しき一步を生み出すと思う。(60代・女性)

◎文化施設（はっちやブックセンター、公会堂など）はもっと若い人が行きやすい方法を考えることが必要だと思う。例えば若い人、子ども連れは車で来ることが多いので、駐車可能な場所や30分無料等考えてほしい。(70代以上・女)

◎八戸市は県内で最も音楽活動が活発な地域だと思う。私が八戸に生活・音楽活動の拠点を移したのはその為であり、これからも更に発展するために官民一体となって取り組んでいけたらと思う。(70代以上・男)

※全33件中、一部要約して抜粋

資料編 2

これまでの取組事例

目次

(1) 八戸ポータルミュージアム（はっち）	151
(2) 南郷アートプロジェクト	153
(3) 八戸工場大学	155
(4) 多文化都市八戸推進事業補助金	156
(5) 本のまち八戸	157
(6) 民俗芸能の普及啓発と後継者支援	159
(7) 市史編纂事業	161
(8) ICANOF（イカノフ）	162

ここでは、第1部「3当市の文化芸術に関するこれまでの取組など」に掲載した事業の具体的な事例を紹介します。

(1) 八戸ポータルミュージアム（はっち）

①アーティスト・イン・レジデンス（AIR事業）

八戸ポータルミュージアム（以下、「はっち」という。）では、開館1年前の平成22年（2010）年から、様々なアートプログラムを展開していますが、当時、建物内にレジデンス機能を有する施設は全国的にも珍しく、はっちの活動を象徴するものの一つであると認識しています。

はっちのAIR事業は、アーティストやクリエイターを招聘や公募により招致し、地域資源を対象とし、文化芸術の力により新たな価値を加えその魅力を再認識する機会とすることを目的に実施しています。

また、実施にあたっては、アーティストと市民が交流し共創することに主眼をおき、さらには、制作の場をオープンにすることで来館者にも可視化され、プロジェクトによっては来館者も参加できる形態をとっていることが特徴といえます。

はっちのアートプログラムには、これまでに延べ5万3,000人を超える方が参加しています。（「横丁オンリーユーシアター」、「DASHIJIN」を除く。）

また、アーティストの創造力により八戸の地域資源の新たな魅力が創出され、はっちを介してアーティストと市民が交流する機会を生み出す効果があったほか、事業完了後も、その活動がはっちや市民に受け継がれたものもありました。

主な実施例としては、次のものが挙げられます。



アーティスト・イン・レジデンス「はっち流騎馬打毬」
平成24（2012）年度

年度	アーティスト	実施例
平成23 (2011) 年度	スー・ハイドゥ	八戸が発祥の「デコトラ」をテーマに獅子舞のような作品「デコトラ装束」を制作し、完成した装束を身に着けて市民ダンサーズが市内各所で披露。
平成24 (2012) 年度	KOSUGE1-16	伝統武芸「加賀美流騎馬打毬」に着目し、本市が中学校ロボコン発祥地であることにも着想した「伝統芸能×ロボコン」「はっち流騎馬打毬」を実施。
平成25 (2013) 年度	ポーワング	自転車に乗って八戸の魅力を探し出し、6つのコースを作成。市民とともに自転車に乗ってコースを巡り、八戸を新・珍発見する企画。また、はっち初の全国公募の企画。
平成26 (2014) 年度	大島 亜佐子	八戸の沿岸部を舞台にしたアニメーション作品「はちのへごっこ『ハマネコ』」を制作。音楽、声優には市民や八戸縁の人々が多数関わった。

年度	アーティスト	実施例
平成27 (2015) 年度	YORIKO	「八戸ロマン時空探検隊」（縄文をテーマに公募し採択された企画）。中心市街地の空き店舗を「基地」に、縄文を現代の目線から楽しく追っていくプロジェクト。翌年度には、是川縄文館と連携し、「是川時空探検祭」を開催。はっちのアウトリーチの成功事例となる。
平成28 (2016) 年度	深澤 孝史	「堤にもどる」（スケートをテーマに公募し採択された企画）。氷都八戸の歴史を掘り起こし、旧柏崎小学校跡地に八戸スケート大会発祥の“ため池”「勘太郎堤」（10分の1サイズ）を制作し、市民の当時のスケートの思い出を収集・展示。

②酔っ払いに愛を「横丁オンリーユーシアター」

横丁オンリーユーシアターは、はっち開館前の平成20（2008）年から実施しており、中心市街地にある8つの横丁を舞台に「はっちと横丁関係者がともに作り上げるアートプロジェクト」として開催しています。当初、出演者は全て招聘でしたが、回を重ねるごとに完全公募であったり一部公募にするなどアーティストの選定にも創意工夫をし、新しいジャンル・作風を取り入れるなど、毎年、経験値をあげながら取り組んでいます。

また、参加（鑑賞）者は、飲み物片手に、様々なパフォーマンスを観て楽しむイベントとなっており、これまでに参加したアーティストは延べ103組、参加（鑑賞）者は、延べ1万1,000人余りとなっています。

このプロジェクトを通して、まちとのコミュニケーションの流れが生まれ、また、これまでアートに触れる機会が少なかった横丁の人が事業を通して自らアートのことを語るなど、アーティストの存在がまちの印象や風景のみならず、関わる人やまちの人の意識にも大きな変化をもたらし、現在は秋の横丁の風物詩として、商店街や市民の方々に、横丁文化を知ってもらおう機会となっています。



酔っ払いに愛を「横丁オンリーユーシアター」
平成22（2010）年度～令和3（2021）年度

③DASHIJINプロジェクト



「DASHIJIN」
平成28（2016）年度～令和2（2020）年度

はっちのAIR事業では初となる5年間（平成28（2016）年度～令和2（2020）年度）の長期プロジェクトで、八戸三社大祭をテーマに、祭りを作る人・支える人・かたる（参加する）人、また、神事にも焦点を当てて、取り組みました。

山車の独自の造形美、世代や立場を超えてつながる精神性など、一人一人の祭りへの想いが結集して祭りが成立し存在するその意義を市民が体感し、祭り継承への一步を踏み出すことを目的に実施しました。

5年間で、全27組の山車組関係者をはじめ、参加アーティスト6組、参加（鑑賞）者は約3万人となっています。

主な実施例としては、次のものが挙げられます。

実施例

三社大祭山車組リサーチ。27組全ての山車組を対象に、制作時から祭り本番まで足を運び現状把握。

市内に暮らす人々の生活の中に存在する物語やエピソード「八戸の宝」を88個取材収集し、成果品の冊子は市内小・中学校、地区公民館等へ配架。

アーティストがガイド役になり「山車づくり現場の見学ツアー」「山車造形物制作ワークショップ」を実施。

子どもたちが、仮想テレビ局のカメラマンとリポーターに扮して山車制作現場を取材し、みんなに教えたいオリジナル番組を制作。

三社大祭を将来へ引き継ぐための教育現場で活用できる祭り教育プログラムキットを制作。キットの作成にあたり、市内4つの小学校で授業を実施。

祭り本番で使用する山車装飾を、市民も参加して制作。

(2) 南郷アートプロジェクト

当市南郷地区は人口5,300人ほどの過疎高齢地域でありながら、平成2（1990）年から毎夏にジャズフェスティバルを開催しているほか、えんぶりや神楽などの民俗芸能があるなど、地域のなかに身体表現が自然に溶け込んでいる地域です。南郷アートプロジェクトは「アート」のもつ創造的な視点から地域資源を活用し、地域内外に魅力を発信するアートプロジェクトを展開することで地域コミュニティの活性化や交流人口の増加に結び付けるとともに、南郷地域をはじめ当市の更なる魅力を創出することを目的に平成23（2011）年にスタートしました。



「島守の、うずらずツアー-なんだこりゃ！」（アーティスト 森下真樹）
平成23（2011）年度

これまで、地域コミュニティに入り込む企画を実施し、積極的に南郷地域で生活する人々に協力（参加）いただくことで南郷文化ホールへの集客が促進され、また、同プロジェクトで出会った人同士がつながり、「すまもり中世の田んぼクラブ」が結成されたり、移住者やUターン者のネットワークも形成されました。



「すまもり中世の田んぼクラブ」

さらに、南郷文化ホールの稼働率の増加もみられ、より多くの人々がホールを利用し、文化芸術に親しむ環境をつくることにつながったことや、芸能、郷土史、食、農耕文化、場所等、多様な地域資源を有効活用した事業を展開し、えんぶり組の伝承や、出稼ぎくじら漁の歴史等を作品にしたことで、あまり知られていなかった南郷地区の魅力を掘り起こし、次代に伝える機会を創出しました。

10年間にわたって行われたこのプロジェクトには、49組のアーティストが関わり、参加（入場）者は約2万7,000人となりました。

主な実施例として、次のものが挙げられます。

	実施例
ダンス公演 DANCE×JAZZ 平成23（2011） ～27（2015）年度 平成29（2017）年度 令和2（2020）年度	南郷ジャズフェスティバルを長年継続していることから、ジャズとダンスを組み合わせた作品を上演する公演。音楽は当市のジャズバンドやミュージシャンが主に出演。ダンスは、プロのコンテンポラリーダンスのアーティストのほか、当市のダンスカンパニー、日本舞踊や社交ダンス、ヒップホップダンスの団体が参加した。
映画つくろう！シリーズ 平成25（2013） ～27（2015）年度	廃校が決まった小学校を舞台に、その学校に通う子どもたちや、地域の人や縁のある方が登場し、地域の歴史や物語を題材としたダンス映画を制作。
おじょう藤九郎さま 平成26（2014）年度	当市に伝わる民俗芸能の「えんぶり」を、舞踏カンパニー「大駱駝艦」の舞踏手が習い、南郷にある荒谷えんぶり組の成り立ちの物語などを取り入れた作品を創造、上演。
なんごうカルタ 平成28（2016） ～30（2018）年度	地域の方（主に高齢者の方）から、集落や個人にまつわる物語を収集し、カルタとして編纂。カルタが完成するまでの過程で得た「物語」は写真と文章でつづり、ウェブや紙媒体で発信するほか、完成したカルタを用いて、展示や朗読会などを開催。
くじらむら 平成30（2018）年度	南郷からも多くの人が出稼ぎに出かけていた南氷洋での捕鯨漁をテーマにした新作演劇作品を創作、上演。オーディションを行い、地元の演劇人や地域住民が出演した。
なんごう小さな芸術祭 平成30（2018）年度	アーティストと地域の方々が一緒になり、公演や展示、映像制作、ワークショップ等、これまで8年間の集大成として芸術祭を実施。約1か月に渡り、多岐にわたるプログラムを行ったほか、新たな試みとしてバスツアーも企画した。

(3) 八戸工場大学

八戸工場大学は、八戸の「工場」を文化資源と捉え、工場の新たな魅力を創出し、市のブランドイメージを高め、市内外に発信するプロジェクトです。市民・アーティスト・工場が協働で実施する「市民参加型」のアートプロジェクトを運営することで、各々のシビックプライドの醸成や、工場の地域社会貢献への波及効果を生むことを目指して、平成25（2013）年度から取り組み始めました。

令和2（2020）年度までに、8つの企業と協力してプロジェクトを行い、参加（入場）者は約4,000人となりました。参加（入場）者や企業から、「八戸の魅力を再認識できた」「従業員の家族に自分の工場のことを知ってもらえる良い機会だった」「自分なりに気にかけて、地元を楽しもうと思うようになった」という声があり、地域の新たな魅力創出と、市民や工場の誇りの醸成につながりました。

さらに、活動を重ねることで受講生同士の積極的な交流が生まれ、その結果、事務局、受講生がチームとなってアートプロジェクトの運営にあたることができ、より広く多くの方の関心の輪を広げることにつながり、また、企業による文化芸術への理解や支援が地域貢献にもつながり、関係者自らが市内外へ発信する意欲が形成できました。

主な実施例は、次のものとなります。



「さよなら、ぼくらの大煙突」（協力：東北電力八戸火力発電所）
平成30（2018）年度



「虹色の狼煙」（協力：大平洋金属株式会社）
平成28（2016）年度

	実施例
八戸工場大学文化祭「工場サイコウ」 平成25（2013）年度	八戸の工場をテーマにし、アーティストと参加した市民が八戸の工業団地をモチーフにした建築模型や工場をモチーフにしたグッズ等それぞれの作品を持ち寄り、展示を行った。
-162℃の炎を見よう 平成26（2014）年度	八戸LNGターミナルの稼働開始に合わせ、JXエルエヌジー・サービスと協働し、鉄塔から吹き上がる炎を愛でる作品の展示や催しを貿易センタービル（当時）で開催。
虹色の狼煙（のろし） 平成28（2016）年度	大平洋金属と連携し、工場から出る煙（水蒸気）を狼煙に見立て、七色の光で染め上げてナレーションと音楽で演出した。
八戸・工場アート展 平成29（2017）年度	「わたしたちが惹かれる工場の魅力を、アートを通じて探る。」をコンセプトに、工場をテーマとした作品を制作している作家・アーティスト、受講生が撮影した八戸の工場をモチーフとした写真の展覧会を開催した。
さよなら、ぼくらの大煙突 平成30（2018）年度	東北電力八戸火力発電所と協働し、役目を終えて解体予定の大煙突を参加者がエアロバイクで発電した電気で光を灯すライティングショーを実施。

(4) 多文化都市八戸推進事業補助金

平成20（2008）年度から、市内を活動拠点に、多種多様な分野で活発に繰り広げられている市民の特色ある文化芸術活動を支援しています。支援対象となるのは、先駆的・実験的な事業内容で、対象者を限定せず広く市民が参加でき、鑑賞機会が得られるもので、地域活力の創出が期待できるものとしています。（同一の事業に対しては補助は最大3回までとしています。）

平成20（2008）年度から令和2（2020）年度までの13年間で41件の活動に補助金（325万7千円）を交付してきました。参加・体験された方の人数は、約1万3,000人にのぼります。また、補助金の活用にあたり、文化芸術活動者が従前にはなかった発想で取組を考えるきっかけとなり、その結果、新しい表現方法が確立され、他分野との連携や新規の参加者の獲得につながり、また、参加した市民が文化芸術活動に触れ、親しむことができる環境をつくることにつながりました。

主な実施例としては、次のものが挙げられます。



多文化都市八戸推進事業補助金活用事業
現代アート展「INCIDENTS2016/インシデンツ2016」
平成27（2016）年

	事業名	実施例
平成23 （2011）年度 平成24 （2012）年度	VIVA南郷！+ウーゴファットルーソ& レイタンボールライブ VIVA!BOSSA!! 9 スウィングする南郷、 おしゃべりな図書館	ちびっこサンバ隊の披露、写真展示、ライブコンサート、青空市を、南郷文化ホール、ホール前広場、南郷図書館などで実施し、ホール周辺の一体的な使い方や図書館の新しい使い方を提案するイベント。
平成26 （2014）年度	銀の滴降る降る杜に2014	義経北方伝説をテーマに、民俗芸能・方言を活かした朗読・僧侶を招聘しての講話・アコースティックライブなどバラエティー豊かな演目により表現。
平成26 （2014）年度 平成27 （2015）年度	現代美術作品展「ジャンルレス展」 現代アート展「INCIDENTS2016/インシデンツ2016」	国内外で活躍する気鋭のアーティストを招聘し、現代アートの展覧会を開催。会期中にギャラリートークやパフォーマンス、ワークショップなど様々な企画を実施。
平成29 （2017）年度 平成30 （2018）年度 令和元 （2019）年度	アーティスト・イン・レジデンス 2017、2018、2019 -港をつなぐ	八戸港と姉妹港のフィリピン・マニラからアーティストを招聘し、個人宅にレジデンスしながら市内のリサーチや作品制作などの芸術活動を通じて、市民、学生、外国人住民との文化交流を行う企画。

(5) 本のまち八戸

これまでの図書館や各学校での読書推進の取組に加え、平成26（2014）年度から様々なかたちで本に触れる動機づけとなる事業を実施し、子どもから大人まで市民がもっと本に親しめる環境を目指す「本のまち八戸」を推進しています。

当初は、子どもを対象とした事業（ブックスタート事業、マイブック推進事業、おすすめ！キッズブック事業【詳細は後述】）を中心に実施し、平成28（2016）年12月には、「本のまち八戸」の拠点施設として位置づけた八戸ブックセンターを開設しました。

【八戸ブックセンターについて】

地域の民間書店の役割を補完し、また、本を私有して読むことも大切であるという考えのもと、これまで市内書店では手に触れる機会が少なかった本を中心に、特徴ある提案・編集型の陳列を施し、本を販売しています。

また、「本を読む人を増やす」「本を書く人を増やす」「本でまちを盛り上げる」という3つの基本方針に則った様々な企画事業を実施しています。

企画事業の主な実施例としては、次のものが挙げられます。

事業名称	内容
本のまち読書会	様々なテーマによる読書会やゲストを招いてのトーク
アカデミックトーク	教育機関や文化施設等から講師を招いたトーク
執筆出版ワークショップ	作家などを講師に執筆や出版に関するワークショップ
ギャラリー展示	本にまつわる展示
パワープッシュ作家	八戸出身の作家などをパワープッシュする企画
ブックフェス	様々な団体と連携した本に関するイベント
ブックサテライト	市内全域に本棚スポットをつくる



トークイベント（読書会ルーム）



本のまち八戸ブックフェス

①八戸市ブックスタート事業

八戸市ブックスタート事業は赤ちゃんと保護者に、絵本を開く楽しい体験の提供と、絵本を手渡すことで、赤ちゃん和家人が心ふれあう楽しいひとときを持つきっかけをつくることを目的とし、平成26（2014）年7月より開始しました。

対象は生後90日から1歳未満の赤ちゃんとその保護者で、毎週水曜日に市総合健診センターで行われる先天性股関節脱臼検診（生後90日～120日で受診）の会場で受診後の親子1～2組に読み聞かせボランティアが読み聞



読み聞かせの様子

かせを行ってから、絵本1冊と図書館の利用案内、おすすめブックリスト等の入ったブックスタートパックを配付しています。これまで延べ1万組以上の親子にパックを配付しました。

②マイブック推進事業

八戸市マイブック推進事業は、小学生が自ら本を選び購入する体験を通して、読書に親しむ態度を養うことを目的として、平成26（2014）年度に事業を開始しました。

八戸市立小学校に在籍する全児童と、市内にある青森県立特別支援学校小学部に在籍する全児童を対象に、八戸市内の書店で書籍を購入できるマイブッククーポン（以下、「クーポン」）を、毎年、児童1人に2,000円分（500円券×4枚綴り）配布しています。クーポン使用期間は、その年の7月1日～9月30日となっています。



学校に配布したポスター

児童には、クーポンと併せて、おすすめの本を掲載したブックリスト「本はともだち」と、書店へ出かけることが難しい場合でも本を購入できるように、教育委員会（教育指導課）が作成したクーポン専用の注文袋を配布しています。さらに、各学校には、「児童が思わず足を止めて、何度も見たくなる」をコンセプトに作成したポスターを配布しています。

児童のクーポン使用率は年々向上しており、令和2（2020）年度のクーポン使用率は98.7%でした。本事業の趣旨や実施方法が、児童・保護者に浸透していることがうかがえます。

学校や保護者からは、アンケートを通じて、「進んで読書をする姿を多く見かけるようになった」「図鑑は普段なかなか買ってあげられないが、クーポンのおかげで買うことができた」「子どもと一緒に書店で本を選んだことで、家庭でも本の話をするようになった」などの声が多く寄せられています。



おすすめブックリスト

もと一緒に書店で本を選んだことで、家庭でも本の話をするようになった」などの声が多く寄せられています。

③おすすめ！キッズブック事業（平成30（2018）年度までは“読み聞かせ”キッズブック事業）

おすすめ！キッズブック事業は、子育てに関わる人に対し、絵本や読み聞かせを通して、親（保護者）と子の触れ合いと、子どもの情操教育に資する支援を行うものとして、平成28（2016）年度から平成30（2018）年度まで実施されていた“読み聞かせ”キッズブック事業の目的を引き継いで、令和元（2019）年度から実施しています。

主な実施例としては、次のものが挙げられます。

	実施例
令和元（2019）年度	八戸ブックセンター、八戸市立図書館の協力のもと、選書した「おすすめ絵本」のリストを作成・配布したほか、市内の読み聞かせ団体による読み聞かせ会及び絵本展を「八戸ブックフェス」にて開催。また、市民を対象にした「おすすめ絵本」のエピソードを募集し、市ホームページで公開。
令和2（2020）年度	「おすすめ絵本」のエピソード募集は継続実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により「おすすめ絵本リスト」は作成中止。また、「八戸ブックフェス」も中止となった。
令和3（2021）年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、「八戸ブックフェス」が中止となったことに伴い、読み聞かせ会及び絵本展は中止となったが、その他事業として、八戸ブックセンター、市立図書館、NPO法人はちのへ未来ネット（こどもはっち受託者）、学校司書の選書による「おすすめ絵本」を、子育て情報配信事業「はちすく通信」にてLINEで月2回ずつ配信している。

(6) 民俗芸能の普及啓発と後継者支援

八戸市内では約60団体が山伏（やまぶし）系神楽、えんぶり、虎舞（とらまい）、駒踊（こまおどり）などの民俗芸能を伝承しており、種類、団体ともに青森県で随一、全国でも有数の数を誇ります。教育委員会では指定・未指定問わず、様々な支援を行っており、その一つに上演会が挙げられます。

一般に文化財保護の一環で行われる民俗芸能上演会は、出演団体（伝承者）の「保存伝承意欲の向上」と「普及啓発」を目的としています。

「保存伝承意欲の向上」とは、伝承者の民俗芸能を続ける意欲を高めることです。この動機づけには、伝承者に民俗芸能が必要とされていることを実感してもらうことが肝要なため、主催者は上演の機会を提供するとともに多くの観客を集め、保存伝承の励みにつなげていかなければなりません。そして、「普及啓発」とは、①認知度を上げファンを増やす、②民俗芸能に携わりたいと思う人を増やすことです。

上記のような目的のもと、教育委員会では以下の事業に取り組んできました。

①民俗芸能の夕べ

民俗芸能の夕べは、昭和53（1978）年度から年1回開催し、令和3（2021）年度で44回目（42、43回目はコロナにより中止）を迎えました。

例年、4団体が出演し、約500名定員のホールは、毎回ほぼ満席となります。さらに、3年に1回の頻度で、久慈圏域・二戸圏域・八戸圏域合同の北緯40°ナニヤトラ連邦郷土芸能交流祭を併催しています。



民俗芸能の夕べ 新井田虎舞組



招聘団体・東通村蒲野沢青年会による能舞
(国指定重要無形民俗文化財)

「民俗芸能の夕べ」の継続を検討し、平成28(2016)年度に芸能団体、平成29(2017)年度に来場者へアンケートを実施した結果、大多数の芸能団体及び来場者が継続を望み、そして、更なる技術向上のため、市外の団体の出演を希望する声が多く挙がりました。この結果を踏まえ、平成30(2018)年度から市外の国・県指定民俗芸能団体の招聘を始めました。招聘した東通村の蒲野沢青年会と共演した籠(おがみ)神社法霊(ほうりょう)神楽保存会は、現在も交流を続けていると聞いています。

令和3(2021)年度は、3年ぶりに「民俗芸能の夕べ」を開催しました。出演した団体からは、新型コロナウイルス感染症の影響で上演機会が皆無となっていたため、励みになったという声をいただきました。ニーズに応え変化させながらも、上演の機会を提供することが「民俗芸能の夕べ」の役割だと再認識し、今後も本事業に取り組んでいきます。

②山伏神楽U-30(アンダー30)～若者がぎりぎりっと舞いて候う～

進学・就職等のため民俗芸能をやめる子どもが多い中、活発に活動している芸能団体には、10～30代の若者たちが上演や行事を支え、彼ら彼女らに憧れる子どもが芸能を続けている良い流れができているという共通点があります。

しかしながら、民俗芸能の中でも特に山伏系神楽は、えんぶりや山車組と違い、団体間の交流がなく、孤独や不安を感じる若者もいました。

そこで、神楽に携わる若者同士の交流を図ることと、若者たちが活躍する姿を子どもたちに見せ、自身のロールモデルを形成することを目的として、10～30代の若者を出演者のメインとした神楽の上演会「山伏神楽U-30～若者がぎりぎりっと舞いて候う～」を、平成29(2017)年度から令和元(2019)年度まで実施しました。

この事業を通して、神楽の魅力や迫力を子どもたちはじめ多くの方々に伝えることができました。また、3年かけて神楽団体同士のつながりができ、刺激を受け合う仲になりました。

本事業が終了した令和元(2019)年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響で上演機会が減少しましたが、出演した若者たちは現在も神楽を続けており、当市の民俗芸能を支え、継承しています。



はちのへホコテン会場での上演



八戸ポータルミュージアム(シアター2)での上演

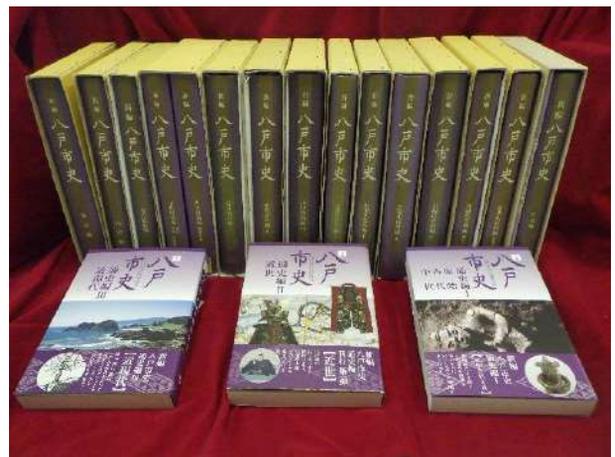
開催日・会場	出演団体	内容
平成29（2017）年5月21日 はっちシアター2	龍神社法霊神楽保存会 白銀四頭権現（しろがねしとうごんげん） 神楽保存会 鮫神楽連中	上演時間は各団体30分程度 来場者約250名（満員となり、入場できなかった方多数有）
平成30（2018）年9月2日 はっちシアター2・ 和のスタジオ	龍神社法霊神楽保存会 鮫神楽連中 笹ノ沢神楽保存会 白銀四頭権現神楽保存会	来場者多数のため、法霊神楽と鮫神楽は和のスタジオでも上演した。 来場者約460名
令和元（2019）年9月29日 はちのへホコテン会場	笹ノ沢神楽保存会 白銀四頭権現神楽保存会 江刺家（えさしか）神楽保存会（招聘・九戸村） 鮫神楽連中 龍神社法霊神楽保存会	来場者1,323名（延べ）

(7) 市史編纂事業

八戸市では、昭和44（1969）年から昭和56（1981）年にかけて『八戸市史』を刊行しています。この時は『史料編』10冊、『通史編』1冊の計11冊を編纂しました。しかし、取り上げた時代が江戸時代に限られていたことや、その後の研究が進展したことにより、平成8（1996）年より市史編纂事業の構想が練られ、平成10（1998）年に市史編纂室が設置されました。以降、平成26（2014）年度まで17年間にわたり市史編纂が行われ『資料編』14冊、『通史編』3冊、計17冊の『新編八戸市史』を刊行しました。

市史編纂の過程では、市内外の旧家や関係機関の調査などを経て、3万点以上の資料を収集し、その目録を『八戸市史収集文書目録』として公開したほか、編纂過程で研究された成果を『はちのへ市史研究』として7冊にまとめ、一般向けにわかりやすく解説した『八戸の歴史双書』を12冊刊行、市史編纂に当たって解説した古文書の翻刻（ほんこく※43）をまとめた『八戸藩遠山家日記』を4冊刊行しました。

市史の刊行が終了し、市史編纂事業は終了しましたが、編纂にあたって収集した資料を整理・公開する必要がありました。そのため、市史編纂室の後継として平成27（2015）年度に歴史資料グループを設置しました。



『新編 八戸市史』（全巻）

※43 翻刻（ほんこく）・・・すでにある本や原稿を、木版や活版で新たに起こし刊行すること。特に、写本、版本、外国の本などを木版、活版などで再製すること。

新編八戸市史刊行一覧	
新編八戸市史	考古資料編
新編八戸市史	中世資料編
新編八戸市史	近世資料編Ⅰ
新編八戸市史	近世資料編Ⅱ
新編八戸市史	近世資料編Ⅲ
新編八戸市史	近現代資料編Ⅰ
新編八戸市史	近現代資料編Ⅱ
新編八戸市史	近現代資料編Ⅲ
新編八戸市史	近現代資料編Ⅳ
新編八戸市史	近現代資料編 都市計画
新編八戸市史	近現代資料編 戦争
新編八戸市史	別編 自然編
新編八戸市史	民俗編
新編八戸市史	地誌編
新編八戸市史	通史編Ⅰ 原始・古代・中世
新編八戸市史	通史編Ⅱ 近世
新編八戸市史	通史編Ⅲ 近現代

歴史資料グループでは、収集した資料を『八戸市史収集文書目録』の続巻として公開、『八戸の歴史双書』の刊行、『八戸藩遠山家日記』の続巻を刊行するなど編纂事業の成果をまとめるほか、研究成果を広く市民に知ってもらうため、市史を利用した講演会を開催しています。

また、市史編纂事業の構想当初は、事業終了後の部署に公文書館的機能を持たせることを想定しており、これも検討する必要があります。

自治体史編纂は、およそ30年～40年のサイクルで行われ、新知見などの研究成果を反映させた地域の歴史を編纂・公開していく必要があります。歴史資料グループでも、次の市史編纂にむけて資料の収集、保存も行っています。

新編八戸市史シリーズは、平成16（2004）年度に刊行された自然編がはじまりでした。次の編纂を見据え、研究の蓄積をはじめることが必要になる時期にきています。

(8) ICANOF（イカノフ）

寄稿：市民アートサポートICANOF代表 米内安芸

市民がアートに親しみ、アートが市民を創りだすような「場のムーヴメント」は欧米では当たり前のことですが、日本ではまだ、そういう街を探さなくてはなりません。ブラリと八戸に来てみたいと思えるような願いを込めて市民とアートの創発的な場づくりのため、平成12（2000）年12月、現代芸術家として各国に知られた豊島 重之（としま しげゆき）がキュレーター（※44）となり有志10数名でアートサポートボランティアとして発足しました。名称は豊島によりInteractive.Com.ArtNow/OI-Factoryの略称としてICANOF(イカノフ)と、また「イカの街 八戸」にもちなみます。

豊島のキュレーション（※45）は現代アートに大きく位置づける“写真”ということに深くリンクしています。また、未来の八戸と子どもたちのためにICANOF宣言をし、多くの事業に取り組みました。

パイロットプロジェクト（※46）としてのイベント「TIMELAGの写真と写真のRAGTIME」の“タイムラグ・ラグタイム展”は、旧・八戸市美術館内フロアに土器片が混じる土を大量に敷き詰めた中に写真を埋め込み、参加者に金属探知機で埋蔵写真を掘り起こさせる、小さな戸を付けた床の中に展示した写真を覗かせる等々、様々な仕掛けがあるインスタレーション（※47）は、土門拳賞の写真家 金村 修を当地に滞在させて自身が引き伸ばしたプリントを使用して作家自身を驚かせました。また、金村と港 千尋の2人の作家と参加者が一同に市内を撮影して巡るなどのワークショップも人気で、参加者が溢れました。

※44 キュレーター・・・美術館や博物館等で、展示の企画から運用まで全般を行う仕事を行う専門職。

アーティストの選定から作品の借り受け・返却、展示構成、宣伝に至るまで一切の責任を負う。仕事の範囲や権限が学芸員と比べて格段に大きいのが特徴。

※45 キュレーション・・・情報を選択・収集・整理すること。あるいは、収集した情報を特定のテーマに沿って編集し、そこに新たな意味や付加価値をつける作業のこと。

※46 パイロットプロジェクト・・・先行的、実験的、試験的な企画事業のこと。

※47 インスタレーション・・・1970年代から主に欧米で登場した、展示空間全体を作品とみなす手法であり、絵画、彫刻、映像、写真などと並ぶ現代美術における表現方法、ジャンルの一つ。

このイベントは、平成13（2001）年9月21日から9月30日まで開催し、八戸市美術館との共催による市民参加型の大きなイベントとして平成13（2001）年9月27日付東奥日報社の社説をはじめ、各新聞社に掲載され、多くのマスコミに取り上げられました。

第2回企画展ICANOFメディアアートショー『食間展』（平成15（2003）年2月14日～23日・八戸市美術館）は、ミロスワフ・パウカはアウシュビッツ、パク・ファヨンは食という、“命”に共有する、嫌悪感とただならない空気感を孕（はら）んだ時空をインスタレーションとしました。同時に、一般から広く公募した写真作品を、NHK八戸支局と市内各所に展示しました。その間、吉増剛造、飯沢耕太郎、南條史生他、我が国を代表する作家、評論家を招聘し、八戸芸術大学を開講し、天聖寺など市内各所での講演やワークショップにより層の厚いものとなりました。

このボリュームは、次の石内都、北島敬三、岡村民夫、楠本亜紀、暮沢剛巳、竹内万里子、八角聰仁を招いての第3回企画展『風景にメス展』（平成15（2004）年3月13日～28日・八戸市美術館）以降に続くこととなります。



フリープレスICANOF

著名な作家たちを招聘してのイベントはフリープレスICANOFの刊行やイカノラジオなどやマスコミで広く紹介され、文化庁「文化ボランティア推進モデル事業」にも指定されました。同時に発刊した400ページに及ぶ図録は東京都写真美術館はじめ各方面から高い評価を得て、日本芸術文化振興基金、U F J 信託文化財団、アサヒビール等の企業メセナ、三陸復興国立公園、青い森ファンド、青森県、八戸市等各界から多くの助成を受ける元となり、フリー

プレスは33回、図録は第14回まで発刊を続けることができましたと思います。

そして、イベントに携わったイカノメンバーが先んじて多くの恩恵を被（こうむ）ることになりました。

我々の使命は難解と思われがちな講演やインスタレーションなどの、アルゴリズム（※48）では“溶けない”解答をオーディエンス（※49）とICANOF宣言で誓った未来の子どもたちのため探し続けることだと思います。次の活動に向け構想中の豊島が平成31（2019）年1月に急逝して活動は止まったまま今に及んでいます。ICANOFが取り組み、先鋭過ぎると言われてきた活動のすべてが、全国の現代アートのムーヴメントの“パイロットプロジェクト”としてようやく認識されたと思います。また、この振幅は平成13（2001）年12月設立のACAC（国際芸術センター青森）をはじめ我が国の現代アートという行為に確実に波及しています。

八戸市の多文化推進構想に響き、南郷アートプロジェクトや八戸工場大学などに共振し、新八戸市美術館の仕事に早くも浸透してきています。また、令和3（2021）年10月9日から令和4（2022）年1月23日まで開催されている青森県立美術館での企画展『あかし』は、まるでICANOFの第15回企画展のようでした。

今後、ICANOFは稀有な豊島につなぐことができるキュレーターを待たねばなりません。

※48 アルゴリズム・・・コンピューターで計算を行う際のプログラムのこと。一般的には、問題を解くための手順を具体的かつ明確にしたやり方を指す。

※49 オーディエンス・・・聴衆、観客、聴取者のこと。

第4回以降の企画展（全て八戸市美術館にて開催）

開催時期	内容
平成16（2004）年9月4日～20日	第4回企画展『風景の頭部展』
平成17（2005）年9月17日～10月2日	第5回企画展『MEGANEURA（メガネウラ）展』
平成18（2006）年7月19日～8月6日	第6回企画展『TELOMERIC（テロメリック）展』
平成19（2007）年9月12日～30日	第7回企画展『ISTHMUS（イスマス）地峡展』
平成20（2008）年8月18日～24日	第8回企画展『68-72＊世界革命＊展』
平成21（2009）年9月18日～27日	第9回企画展『Blinks of Blots and Blanks（余白とシミの明滅／瞬き）展』
平成22（2010）年9月17日～26日	第10回企画展『飢餓の国・飢餓村・字（あざ）飢餓の木』
平成25（2013）年8月31日～9月23日	第11回企画展『北島敬三－種差scenery（たねさしスィナリー）景色展』
平成26（2014）年8月22日～9月13日	第12回企画展『矢野静明－種差 enclave（エンクレイヴ）飛び地展』
平成27（2015）年8月22日～9月13日	第13回企画展『笹岡啓子－種差ninoshima（にのしま）展』
平成28（2016）年8月26日～9月11日	第14回企画展『赤城修司+黒田喜夫－種差デコンタ2016展』

主な招聘作家と講師の方々（50音順、敬称略）

赤城修司、足立智美、飯沢耕太郎、石井達朗、石内 都、伊藤二子、稲川方人、鶴飼 哲、梅内美華子、江澤健一郎、遠藤利克、及川廣信、太田省吾、岡村民夫、角田 聡、加須屋明子、金村 修、河井克夫、川端隆之、北島敬三、キム・ヌリ、楠本亜紀、倉石信乃、暮沢剛巳、小沼純一、笹岡啓子、佐藤尉隆、佐藤 真、しりあがり寿、菅木志雄、杉本敦子、須山悠里、高梨 豊、高嶺 剛、竹内万里子、田中知佐好、土屋誠一、月館敏栄、露口啓二、ディーター・ホフマン、豊島弘尚、仲里 効、中ザフヒデキ、中平卓馬、南條史生、二瓶 晃、野村喜和夫、パク・ファヨン、浜田剛爾、比嘉豊光、福山知佐子、前田恭二、松井憲太郎、港 千尋、ミロスワフ・パウカ、森山大道、八角聰仁、矢野静明、吉増剛造

ICANOF宣言 - ICANOF Manifesto -

私たちは「ICANOF イカノフ」です。
 私たち自身がアートを楽しむために。
 まだ気づかない八戸の魅力を自分たちで掘り起こすために。
 未来のこどもたちのために。
 誰でも参加できるし、関わり方もそれぞれ、出入りも自由な集まりです。
 私たちの街「八戸」（＝イカの府）が今より、もっとずっと素敵な街になったら、
 そこに住む私たちの心も豊かになるでしょう。
 異論反論がおおいに飛びかうような、ゆるやかで、おらかな、
 そしてエキサイティングな会を目指します。

資料編 3

文化施設・文化財一覽

文化施設

市施設・民間施設を50音順で掲載しています。(敬称略)

※令和3(2021)年12月1日現在

多目的な施設

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
八戸市青葉湖展望交流施設 (山の楽校)	八戸市南郷大字島守字北ノ畑6-2 0178-82-2222	廃校となった増田小中学校を利用した体験交流施設。農家レストランをはじめ、そば打ちやみそ作り等の体験メニューもある。
カッコーの森エコーランド エコーステージ	八戸市南郷大字中野字高村5-5 0178-82-3303	野外にある屋根付きステージ。毎年夏に開催する、南郷サマージャズフェスティバル等の会場として活用されている。
八戸市島守田園空間博物館 館のやかた	八戸市南郷大字島守字館22-1 0178-80-8060	安土桃山時代、島守地区を領する「島守安芸」が住んでいた館跡と伝えられている。囲炉裏のある和室や和室2部屋は農村交流等の研修室として利用可能。
八戸市島守田園空間博物館 南郷朝もやの館総合情報館	八戸市南郷大字島守字古坊61-1 0178-80-8088	田園空間博物館の基本テーマ「朝もやけむる水と森の里」の中心地となる施設。地域に関する総合案内所であり、地域交流の活動拠点としての機能も担っている。
八戸ポータルミュージアム (はっち)	八戸市大字三日町11-1 0178-22-8228	八戸の中心市街地と市全体を活性化するために建てられた文化観光交流施設。八戸に関する情報を集めたり、イベントの会場や人々の交流の場として活用されている。
八戸まちなか広場 (マチニワ)	八戸市大字三日町21-1 0178-22-8228	街なかにある「庭」をコンセプトにしたガラスの屋根つき広場。憩いの場やイベント会場として利用できる多目的スペース。

美術館

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
八戸市美術館	八戸市大字番町10-4 0178-45-8338	「ひと」が活動する空間を大きく確保し、様々なプロジェクトを実施していく新しいかたちの美術館。
クラシックカー博物館 ツカハラミュージアム	八戸市北インター工業団地4丁目2-57 0178-21-1656	手作りで修復を行うクラシックカー博物館。TOYOTA2000GTをはじめ世界中の名車を展示し、運転席に座ることのできる体験車も展示されている。
澤田政廣の世界 洗心美術館	八戸市大字長苗代字上碓田56-2 0178-27-6570	常設展示では、奈良・天平時代の脱活乾漆技法による彫刻および木彫、ブロンズ、彫刻、陶板、陶器、絵画、書等多岐にわたる。
八戸クリニック 街かどミュージアム	八戸市柏崎1丁目8-29 0178-32-7737	浮世絵等の伝統木版画・八戸ゆかりの鳥瞰図絵師吉田初三郎の作品・懐かしの映画ポスターなどを収蔵。
帆風美術館	八戸市北インター工業団地1丁目5-2 0178-20-1335	コレクションは持たず、江戸期の日本画を主に展示している複製画専門の美術館。明るい照明の元、実際に触れることのできる展示が特徴。

劇場・ホール

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
八戸市公会堂	八戸市内丸1丁目1-1 0178-44-7171	1,532席を有する県南地域で最大規模ホール施設であり、他にも展示室や和室もあり、多種多様な活動が行われている。
八戸市南郷文化ホール (スウィングベリー-NANGO)	八戸市南郷大字市野沢字中市野沢24-1 0178-60-8080	450席の多目的ホールで、可動席を収納するとオープンフロアとしても利用できる。また、小さなお子様と一緒に鑑賞できる10席の個室も完備している。

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
ジャズの館南郷	八戸市南郷大字中野字館野4-4 0178-82-2902（グリーンプラザなんごう）	ジャズLP・CD約6,000枚を揃える、良質な音楽でくつろげる喫茶店兼無料休憩所。不定期でジャズライブなどの音楽イベントも行う。貸切でのホール利用も可能。
スペースベン	八戸市柏崎1丁目11-8 080-6025-0990	演劇をはじめとした様々な活動、また、表現活動をしたい方のサポートを行う。ジャンルの枠にとらわれず、公演を開いている。
デーリー東北ホール	八戸市城下1丁目3-12 0178-80-7299	13メートルの吹き抜けが特徴のホール。グランドピアノを常設し、音楽ライブや落語、地元ゆかりの芸術家の個展など、様々なイベントを行う。

たたみ（畳）のある施設

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
カッコーの森エコーランド南郷茶室（谿松庵）	八戸市南郷大字市野沢字中市野沢44-10 0178-82-2008	にじり口のある小間（こま）や庭を見通せる広間で茶席を楽しむことができる。茶道や華道、句会等に活用されている。
八戸市文化教養センター南部会館	八戸市内丸3丁目3-6 0178-43-9202	144畳の大広間をはじめ、和室や板の間、舞台を備えており、謡（うたい）・舞踊などの練習及び発表の場や茶会等で利用されている。
八戸市立集会場（八戸市更上閣）	八戸市大字本徒士町5-4 0178-22-2260	主屋と正門が国の登録有形文化財に指定されている。全室和室で日本舞踊や大正琴等の練習の場等として利用されており、毎年2月の八戸えんぶり期間中には「お庭えんぶり」が開催される。

本にふれる施設

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
八戸市立図書館	八戸市大字糠塚字下道2-1 0178-22-0266	本やCDの貸出のほか、おはなし会や講座等を開催。三浦哲郎文学コーナーでは三浦哲郎著作物や限定本を展示している。
八戸市立南郷図書館	八戸市南郷大字市野沢字中市野沢39-1 0178-60-8100	本やCD等の貸出のほか、ジャズ資料コーナー等の常設、三浦哲郎の執筆机等を展示した三浦文学の部屋がある。
八戸市図書情報センター	八戸市大字尻内町字館田1-1 八戸駅ビル1階 0178-70-2600	本やCD等の貸出のほか、本やDVDの展示、おとの定期便として月に2度テーマに沿った所蔵のCDを館内で流している。
八戸ブックセンター	八戸市大字六日町16-2 GardenTerrace 1階 0178-20-8368	本の販売のみならず、本に関するイベントなどの開催を中心に市内の民間書店や図書館、市民活動と連携している。
八戸学院図書館	八戸市大字美保野13-98 0178-30-1695	話題性のある図書や図書館の取組などを掲載した情報誌「六号館」を発行している。学生や教職員をはじめ、一般の方も利用可能。
八戸工業高等専門学校図書館	八戸市大字田面木字上野平16-1 0178-27-7225	ものづくりに関連する国内外の図書を取り揃えている。学生や教職員をはじめ、一般の方も利用可能。
八戸工業大学図書館	八戸市大字妙字大開88-1 0178-25-8032	工学系、コンピュータ関連、デザイン等の専門書を取り揃えている。学生や教職員をはじめ、一般の方も利用可能。

歴史にふれる施設

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
八戸市博物館	八戸市大字根城字東構 35-1 0178-44-8111	郷土の歴史と文化を後世に伝える博物館。考古・民俗・歴史・無形資料を常設で展示している。随時企画展を開催している。
八戸市史跡根城の広場	八戸市大字根城字根城47 0178-41-1726	昭和16（1941）年に国史跡に指定、日本100名城にも選ばれている。主殿や工房・納屋・馬屋などの建物が忠実に復原され、安土桃山時代の根城の面影を現代に伝えている。
八戸市南郷歴史民俗資料館	八戸市南郷大字島守字小山田7-1 0178-83-2443	「昭和」という時代をテーマに、「青い目の人形 メリーちゃん」をはじめとし、戦時中の資料や戦後の昭和の生活の変遷を展示している。
八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	八戸市大字是川字横山1 0178-38-9511	是川遺跡や風張1遺跡を通して、東北地方の優れた縄文文化を発信し、埋蔵文化財の積極的な公開活用と保存管理を行う。国宝「合掌土偶」が常設されている。
八戸市縄文学習館 (是川縄文館分館)	八戸市大字是川字中居3-1	※令和2（2020）年7月より整備工事のため、令和8（2026）年度（予定）まで休館中。
八戸市みなと体験学習館 (みなっ知)	八戸市大字湊町字館鼻 67-7 0178-38-0385	旧八戸測候所を改修し、湊地域の歴史・文化と東日本大震災の被害を伝える学習施設。「震災伝承施設」として登録されている。
安藤昌益資料館	八戸市大字八日町3 0178-20-8109	自然と人の調和を目指した安藤昌益の思想を今日に伝えるため、民間有志により設立した資料館。安藤昌益に関する書籍や資料を展示している。
櫛引八幡宮 国宝館	八戸市大字八幡字八幡丁3 0178-27-3053	櫛引八幡宮が所有する国宝「赤糸威鎧」「白糸威褌取鎧」をはじめとする25点の文化財を収蔵及び展示している。日本語と英語による音声説明案内もある。
羽仁もと子記念館 八戸友の家	八戸市大字沢里字古宮 35-3 0178-24-2232	日本初の女性ジャーナリストであり、「婦人之友」創刊者である八戸市出身の羽仁もと子の、思想や活動に関する書籍や資料を展示している。

ギャラリー

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
青森銀行展示スペース	八戸市大字堀端町3-1 0178-43-0111	青森銀行八戸支店兼三日町支店内にある展示スペース。店舗の営業時間に合わせ入館することができ、パネル展など、今後様々な企画が期待される。
北蔵、煉瓦ホール (八戸酒造)	八戸市大字湊町字本町9 0178-33-1171	湊町の本社酒蔵に併設された「煉瓦ホール」や「北蔵」を活用し、様々な展覧会や音楽会、民俗芸能の公演などを開催。メセナ活動に取り組んでいる。
厨ホール (八食センター)	八戸市大字河原木字神才 22-2 0178-28-9311	200インチの大型スクリーンを備え、展示会や講習会、イベント、また、団体食事の会場などに活用されている。
ソールランチ新丁	八戸市小中野8丁目8-40 0178-85-9017	展示スケジュール期間内のみ営業しているカフェ & ギャラリー。展示のみならず、コンサートやトークイベントも開催している。
(株)八戸彩画堂	八戸市城下1丁目2-10 0178-24-4222	店舗2階に、自然光と人工光で照明にこだわった天井高3メートルの本格的多用途ギャラリーがあるほか、常設展示ギャラリーとカフェを併設している。また、1階では額縁や画材などを販売している。

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
八通ギャラリー	八戸市城下1丁目1-9 0178-44-0121	だれでも利用できるオープンなギャラリースペース。バラエティーに富んだ個展・グループ展などを随時開催している。
夢百貨ギャラリー	八戸市江陽2丁目20-26 0178-22-1385	これまで239回の写真展を開催している、八戸の隠れ家的ギャラリー。月替わりテーマで個性あふれる写真を展示している。

ライブハウス

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
いわぶち響堂	八戸市小中野8丁目5-13 0178-22-2741	ジャズバンドなど、市内で活動する楽団が多くライブを行っている。また、バンド出演日以外には店主の弾き語りがある。
パワーステーションA7	八戸市大字六日町12 大松ビル4階 0178-72-3773	フォークソング、ジャズ、ロック、ポップス等の演奏が楽しめるライブハウス。
LIVE HOUSE FOR ME	八戸市大字長横町12 ゆりの木ビル地下2階 0178-20-3766	ライブ以外にも、フリーマーケットやバー営業、楽器指導など、随時様々なイベントを開催している。
フラット	八戸市大字六日町10 いわとくパルコ新館2階 0178-44-3898	ライブやトークイベントなどが開催可能。地域の食材で手作りされた本格的な料理と種類豊富なお酒が人気。

観光施設

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
種差海岸インフォメーションセンター	八戸市大字鮫町字棚久保14-167 0178-51-8500	三陸復興国立公園に指定された種差海岸や階上を中心とした自然・文化の紹介や解説、自然と人がふれあう体験プログラムなどを実施している。
八戸市蕪島休憩所	八戸市大字鮫町字鮫93 0178-51-6464	蕪島の四季や歴史、ウミネコ、蕪島周辺の見所、みちのく潮風トレイル等の展示を行っている。天窓や自然観察スペースからウミネコの営巣の様子を間近で観察可能。
八戸市水産科学館 マリエント	八戸市大字鮫町字下松苗場14-33 0178-33-7800	魚たちが泳ぐ大水槽や、海の生き物に触れることのできるタッチ水槽、ウミネコシアターなどがある。また、魚たちへの餌やりなどの体験も可能。

映画館

施設名	所在地・電話番号	施設紹介
フォーラム八戸	八戸市大字十三日町16 0178-71-1555	八戸市中心街にある映画館で、9部屋のスクリーンを兼ね備えている。

地区公民館

施設名	所在地・電話番号	会議室	調理室	ホール	和室	図書室	その他
市川公民館	八戸市大字市川町字赤畑19-2 0178-52-2319		○	○	○	○	
大館公民館	八戸市大字新井田字常光田17-1 0178-25-3331	○	○	○	○	○	
柏崎公民館	八戸市柏崎3丁目13-5 0178-43-9139		○	○	○	○	講義室
上長公民館	八戸市一番町1丁目4-1 0178-23-3237	○	○	○	○		講義室
江陽公民館	八戸市江陽2丁目18-34 0178-45-4571		○	○	○		講座室
是川公民館	八戸市大字是川字東前田3-11 0178-96-1219		○	○	○		講座室
小中野公民館	八戸市小中野5丁目2-17 0178-22-2877	○	○	○	○		
鮫公民館	八戸市大字鮫町字住吉町14-1 0178-33-1942	○	○	○	○	○	
下長公民館	八戸市下長1丁目4-9 0178-28-8863		○	○			講義室
白銀公民館	八戸市白銀3丁目2-14 0178-33-1633	○	○	○	○		講義室
白銀南公民館	八戸市大字大久保字行人坂36-6 0178-35-6810	○	○	○	○		
瑞豊館	八戸市大字豊崎町字上永福寺130-1 0178-23-2618		○	○	○		農事研修室
館公民館	八戸市大字八幡字下陳屋40-1 0178-27-5431	○	○	○	○		多目的室
田面木公民館	八戸市大字田面木字上野道下夕30-1 0178-27-3333	○	○	○	○	○	講座室
長者公民館	八戸市大字糠塚字下道2-1 0178-45-4801	○	○	○	○		研修室、相談室、講座室
南郷公民館	八戸市南郷大字市野沢字黒坂7-2 0178-82-3385	○	○	○			大広間、研修室、視聴覚室、控室、楽屋
南郷公民館 頃巻沢分館	八戸市南郷大字頃巻沢字蒼前下38-1 0178-82-3385（南郷公民館）		○		○		

施設名	所在地・電話番号	会議室	調理室	ホール	和室	図書室	その他
南郷公民館 中野分館	八戸市南郷大字中野字 樋河ノ上1 0178-82-3385（南郷 公民館）		○	○			老人室
南郷公民館 古里分館	八戸市南郷大字島守字 若宮9 0178-82-3385（南郷 公民館）		○		○		
南郷公民館 緑分館	八戸市南郷大字島守字 馳下り14-1 0178-82-3385（南郷 公民館）		○		○		講堂
根岸公民館	八戸市高州2丁目23- 19 0178-20-4894	○	○	○	○	○	
根城公民館	八戸市根城3丁目11- 22 0178-44-6927		○	○	○	○	講座室
白山台公民館	八戸市北白山台5丁目 2-5 0178-38-9788		○	○	○		講義室
東公民館	八戸市大字新井田字八 森平7-67 0178-25-2951	○	○	○	○		
吹上公民館	八戸市吹上3丁目17-3 0178-43-2931	○	○	○	○	○	講義室
湊公民館	八戸市大字湊町字中道 64-7 0178-33-4411	○	○	○	○		講義室
南浜公民館	八戸市大字鮫町字棚久 保14-48 0178-39-3036		○	○	○		茶室
三八城公民館	八戸市城下3丁目1-17 0178-45-2566	○	○	○	○	○	講義室

文化財

国指定・登録文化財一覧

国宝

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
工芸品	赤糸威鎧 兜、大袖付 附唐櫃	1 領	昭和28 (1953) 年 11月14日	大字八幡字八幡丁 (櫛引八幡宮)
工芸品	白糸威褰取鎧 兜、大袖付 附唐櫃	1 領	昭和28 (1953) 年 11月14日	
考古資料	土偶 (青森県八戸市風張1遺跡出土)	1 箇	平成21 (2009) 年 7月10日	大字是川字横山 (是川縄文館)

国重要文化財

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
建造物	清水寺観音堂 附棟札3枚	1 棟	昭和55 (1980) 年 1月26日	八戸市大字是川字中 居 (清水寺)
建造物	櫛引八幡宮本殿、旧拜殿、末社神明 宮本殿、末社春日社本殿、南門 附 鰐口	5 棟	平成5 (1993) 年 4月20日	八戸市大字八幡字八 幡丁 (櫛引八幡宮)
工芸品	紫糸威肩白浅黄鎧 兜、大袖付	1 領	昭和25 (1950) 年 8月29日	
工芸品	唐櫃入白糸威肩赤胴丸 兜、大袖付	1 領	昭和25 (1950) 年 8月29日	
工芸品	兜 浅黄威肩赤大袖二枚付	1 頭	昭和25 (1950) 年 8月29日	
考古資料	青森県是川遺跡出土品	963点	昭和37 (1962) 年 2月2日 平成23 (2011) 年 6月27日	八戸市大字是川字横 山 (是川縄文館)
考古資料	青森県風張1遺跡出土品 附炭化米 二粒	663箇	平成9 (1977) 年 6月30日	八戸市大字是川字横 山 (是川縄文館)
考古資料	青森県丹後平古墳群出土品	195点	平成30 (2018) 年 10月31日	八戸市大字根城字東 構 (八戸市博物館)
重要有形 民俗文化 財	八戸及び周辺地域の漁撈用具と浜小 屋	1,383点 1 棟	平成5 (1993) 年 4月15日	八戸市大字鮫町字大 作平、八戸市大字根 城字東構 (八戸市博 物館)
重要無形 民俗文化 財	八戸のえんぶり		昭和54 (1979) 年 2月3日	
重要無形 民俗文化 財	八戸三社大祭の山車行事		平成16 (2004) 年 2月6日	

国史跡・名勝・天然記念物

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
史跡	根城跡 (18.5万㎡)		昭和16(1941)年 12月13日 平成23(2011)年 2月7日	八戸市大字根城
史跡	是川石器時代遺跡 (21.9万㎡)		昭和32(1957)年 7月1日 平成16(2004)年 9月30日 平成25(2013)年 10月17日 平成28(2016)年 10月3日	八戸市大字是川
史跡	長七谷地貝塚 (3万㎡)		昭和56(1981)年 5月25日	八戸市桔梗野工業団地
史跡	丹後平古墳群 (7,000㎡)		平成11(1999)年 1月14日	八戸市南白山台
名勝	種差海岸 (880万㎡)		昭和12(1937)年 12月21日	八戸市大字鮫町
天然記念物	蕪島ウミネコ繁殖地 (1.8万㎡)		大正11(1922)年 3月8日	八戸市大字鮫町字鮫

国重要美術品

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
書跡	徳川家康自筆日課念仏	1巻	昭和8(1933)年 10月31日	
書跡	徳川家康自筆日課念仏	1巻	昭和8(1933)年 12月14日	
書跡	徳川家康自筆日課念仏	1巻	昭和8(1933)年 12月14日	

国登録

種別	名称	員数	登録年月日	所在地
建築物	旧河内屋橋本合名会社	1棟	平成10(1998)年 12月25日	八戸市大字八日町
建築物	更上閣主屋	1棟	平成15(2003)年 10月17日	八戸市大字本徒士町 (更上閣)
建築物	更上閣門	1棟	平成15(2003)年 10月17日	
建築物	新むつ旅館本館	1棟	平成19(2007)年 5月29日	八戸市小中野6丁目 (新むつ旅館)
建築物	旧島守発電所本館	1棟	平成21(2009)年 11月19日	八戸市南郷大字島守 字持金沢 (旧島守発電所)
建築物	旧島守発電所水槽	1基	平成21(2009)年 11月19日	
建築物	旧島守発電所水圧鉄管路	1所	平成21(2009)年 11月19日	

種別	名称	員数	登録年月日	所在地
建築物	旧島守発電所余水路	1所	平成21(2009)年 11月19日	八戸市南郷大字島守 字持金沢(旧島守発 電所)
建築物	八戸酒造店舗兼主屋	1棟	平成22(2010)年 9月10日	八戸市大字湊町字本 町(八戸酒造)
建築物	八戸酒造北蔵	1棟	平成22(2010)年 9月10日	
建築物	八戸酒造文庫蔵	1棟	平成22(2010)年 9月10日	
建築物	八戸酒造西蔵	1棟	平成22(2010)年 9月10日	
建築物	八戸酒造煉瓦蔵	1棟	平成22(2010)年 9月10日	
建築物	八戸酒造煉瓦塀	1棟	平成22(2010)年 9月10日	

県指定文化財一覧

県重宝

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
建造物	八戸城角御殿表門 附棟札3枚 毘沙門天像1躯	1棟	昭和56(1981)年 4月18日	八戸市内丸3丁目 (棟札3枚及び毘沙門天像は八戸市博物館に所在)
建造物	南宗寺山門	1棟	平成3(1991)年 3月13日	八戸市長者1丁目 (南宗寺)
建造物	新羅神社本殿、拝殿	2棟	平成3(1991)年 3月13日	八戸市長者1丁目 (長者山新羅神社)
建造物	旧八戸小学講堂	1棟	平成3(1991)年 3月13日	八戸市大字八幡字八幡丁(櫛引八幡宮)
建造物	大慈寺(松館)山門 附棟札1枚	1棟	平成21(2009)年 2月18日	八戸市大字松館字古里(大慈寺(松館))
建造物	大慈寺(糠塚)本堂、山門、経蔵	3棟	平成30(2018)年 8月20日	八戸市長者1丁目 (大慈寺(糠塚))
建造物	対泉院山門	1棟	平成29(2017)年 8月16日	八戸市大字新井田字寺ノ上(対泉院)
工芸品	鎧櫃	1個	昭和31(1956)年 5月14日	
工芸品	日本刀 銘 奥観寿藤原吉廣	1口	昭和43(1968)年 4月5日	八戸市大字根城字東構(八戸市博物館)
工芸品	鱗口 応永十二年銘	1口	昭和46(1971)年 9月6日	八戸市大字八幡字八幡丁(櫛引八幡宮)
工芸品	日本刀 銘 備州長船幸光	1口	昭和46(1971)年 9月6日	
工芸品	菊牡丹唐草轡十字紋蒔絵漆器	13点	平成18(2006)年 2月1日	八戸市大字根城字東構(八戸市博物館) (ほか)
工芸品	唐草南部鶴紋蒔絵漆器	12点	平成18(2006)年 4月19日	
工芸品	南部鶴紋蒔絵漆器	7点	平成18(2006)年 4月19日	
彫刻	舞楽面	9面	昭和46(1971)年 9月6日	八戸市大字八幡字八幡丁(櫛引八幡宮)
書跡	新編文林全集	1部10冊	昭和31(1956)年 5月14日	
歴史資料	湊家文書	11通	昭和47(1972)年 4月6日	大字根城字東構 (八戸市博物館)
歴史資料	天保三辰ヨリ七ヶ年凶作日記 (内題「市川日記」)	1巻	平成8(1996)年 5月22日	
歴史資料	遠山家日記	111点	平成28(2016)年 8月15日	八戸市大字糠塚字下道(八戸市立図書館)
考古資料	縄文式甕形土器	1個	昭和31(1956)年 5月14日	八戸市大字根城字東構(八戸市博物館)
考古資料	縄文式土器	1個	昭和34(1959)年 10月6日	

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
考古資料	縄文式板状土偶	1個	昭和47(1972)年 4月6日	八戸市大字根城字東 構(八戸市博物館)
考古資料	鹿島沢古墳群出土品(一括)	27点	平成14(2002)年 4月17日	

県民俗文化財

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
無形民俗文化財	南部駒踊		昭和34(1959)年 10月6日	
無形民俗文化財	加賀美流騎馬打毬		昭和47(1972)年 3月15日	
無形民俗文化財	鮫の神楽		昭和55(1980)年 10月21日	
無形民俗文化財	法霊神楽		昭和61(1986)年 2月4日	

県史跡・名勝・天然記念物

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
史跡	八戸南部家墓所		昭和30(1955)年 1月7日	八戸市長者1丁目 (南宗寺)
史跡	一里塚	1基	昭和36(1961)年 6月10日	八戸市大字十日市字 天摩(八戸公園内)
史跡	餓死萬霊等供養塔及び戒壇石	2基	昭和63(1988)年 1月16日	八戸市大字新井田字 寺ノ上(対泉院)
史跡	一里塚	1基	昭和37(1962)年 6月29日	八戸市南郷大字頃巻 沢字長久保
史跡	一里塚	2基	昭和37(1962)年 6月29日	八戸市南郷大字市野 沢字新田、 八戸市南郷大字中野 字大久保
史跡	一里塚	2基	昭和37(1962)年 6月29日	八戸市南郷大字大森 字砂子崎、 八戸市南郷大字大森 字林崎後
天然記念物	カヤの木	1本	昭和42(1967)年 1月11日	八戸市南郷大字島守 字門前(高松寺)

市指定文化財一覧

市有形文化財

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
建造物	小田八幡宮仁王門	1棟	昭和48(1973)年 1月24日	八戸市大字河原木字 小田(小田八幡宮)
建造物	旧八戸城東門	1棟	平成5(1993)年 6月3日	八戸市大字根城字東 構(八戸市博物館)
絵画	八戸二十景屏風	4曲1隻	昭和34(1959)年 9月15日	
絵画	名花十二客図屏風	6曲1双	平成10(1998)年 6月23日	八戸市大字根城字東 構(八戸市博物館)
彫刻	阿弥陀如来像	1躯	昭和48(1973)年 4月13日	八戸市大字新井田字 坂(浄生寺)
彫刻	地藏菩薩像	6躯	昭和48(1973)年 4月13日	八戸市大字妙字東 (伝昌寺)
彫刻	地藏菩薩像	1躯	昭和48(1973)年 4月13日	八戸市大字松館字古 里(大慈寺(松館))
彫刻	毘沙門天象	1躯	昭和48(1973)年 4月13日	八戸市大字河原木字 小田(小田八幡宮)
彫刻	五智如来像	1躯	昭和48(1973)年 4月13日	八戸市大字上野
彫刻	地藏菩薩像	1躯	昭和48(1973)年 4月13日	八戸市大字湊町字上 ノ山(十王院)
彫刻	魚藍観音菩薩像	1躯	昭和48(1973)年 4月13日	八戸市小中野6丁目 (常現寺)
彫刻	地藏菩薩像(来迎寺)	1躯	昭和48(1973)年 4月13日	八戸市大字朔日町 (来迎寺)
彫刻	大黒天像	1躯	平成20(2008)年 9月1日	
工芸	海有鞍・両咲鍙及び障泥	和鞍1式	昭和34(1959)年 9月15日	
工芸	千両箱	1個	昭和34(1959)年 9月15日	
工芸	御拝領御鏡	1個	昭和34(1959)年 9月15日	
工芸	杉戸・桐戸	15枚・2枚	昭和38(1963)年 12月5日	八戸市長者1丁目 (南宗寺)
工芸	二十五条袈裟	1肩	昭和38(1963)年 12月5日	
工芸	青銅擬宝珠	8個	昭和54(1979)年 9月6日	八戸市大字八幡字八 幡丁(楡引八幡宮)
工芸	本小札勝色威二枚胴具足・附具足櫃	1領	昭和56(1981)年 4月28日	八戸市内丸1丁目 (三八城神社)
工芸	旧八戸藩主軍装用具	1式	昭和56(1981)年 4月28日	
工芸	梨子地螺鈿金装太刀	1口	昭和56(1981)年 4月28日	

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
工芸	日本刀 銘 精壯斎宗有	1口	昭和61(1986)年 2月21日	八戸市大字根城字東 構(八戸市博物館)
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩領内境塚大絵図	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸城内図(古御殿御絵図面)	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸城内図(新規御普請御殿御絵図 面)	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩政時代市街図(八戸藩城下町 図)	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	陸奥国三戸郡八戸町全図	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩初代直房公領地御拜領之節御礼御 奉書	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩二代直政公御家督之節御礼御 奉書	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩二代直政公御遺訓(直政書)	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	奥南温古集	10冊	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	写経紺紙金泥法華經一部	8巻	昭和48(1973)年 1月24日	八戸市大字是川字白 幡(福善寺)
書跡・ 典籍・ 古文書	福土文書	11通	昭和48(1973)年 1月24日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩日記	560冊	平成10(1998)年 1月14日	
書跡・ 典籍・ 古文書	刊本自然真営道	3巻	平成10(1998)年 6月23日	八戸市大字糠塚字下 道(八戸市立図書 館)
書跡・ 典籍・ 古文書	真法弟算記	2巻	平成14(2002)年 1月24日	
書跡・ 典籍・ 古文書	諸国神社仏閣掛所算術	1冊	平成14(2002)年 1月24日	八戸市大字根城字東 構(八戸市博物館)
歴史資料	欄間	2間	昭和48(1973)年 1月24日	
歴史資料	和算用算木	2組	昭和48(1973)年 1月24日	八戸市長者1丁目 (南宗寺)

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
歴史資料	算額	1枚	昭和48(1973)年 1月24日	青森市本町2丁目 (青森県立郷土館)
歴史資料	万年曆	1枚	昭和48(1973)年 1月24日	八戸市大字根城字東 構(八戸市博物館)
歴史資料	乙因追善俳諧献額	1双	昭和54(1979)年 1月19日	八戸市大字鮫町字鮫 (浮木寺)
歴史資料	千風庵百々評俳諧献額	1双	昭和54(1979)年 1月19日	八戸市大字河原木字 小田(小田八幡宮)
歴史資料	千石船万徳丸図	1幅	昭和56(1981)年 4月28日	八戸市大字根城字東 構(八戸市博物館)
歴史資料	鬼瓦	3個1式	平成5(1993)年 6月3日	
歴史資料	五梅庵畔李公「国光の発句」献額	1枚	平成17(2005)年 11月1日	八戸市長者1丁目 (長者山新羅神社)

市無形文化財

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
無形文化財	八戸藩伝神道無念流居合		平成3(1991)年 10月14日	

市民俗文化財

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
無形民俗文化財	泉清水えんぶり		昭和53(1978)年 4月1日	
無形民俗文化財	中野神楽		昭和53(1978)年 4月1日	
無形民俗文化財	大平大神楽		昭和53(1978)年 4月1日	
無形民俗文化財	島守小学校神楽		昭和53(1978)年 4月1日	
無形民俗文化財	島守駒踊		平成11(1999)年 7月1日	
無形民俗文化財	島守虎舞		平成15(2003)年 12月5日	
無形民俗文化財	白銀四頭権現神楽		平成28(2016)年 6月1日	
無形民俗文化財	八太郎おしまこ		平成30(2018)年 8月1日	
有形民俗文化財	清水寺奉納絵馬	51枚	昭和48(1973)年 1月24日	
有形民俗文化財	太公望と屋台一式 (人形、屋台、飾り幕)	1体1台1枚	平成15(2003)年 7月29日	八戸市内丸2丁目 (霧神社)
有形民俗文化財	武田信玄と屋台一式 (人形、屋台、飾り幕)	1体1台1枚	平成15(2003)年 7月29日	
有形民俗文化財	享保六年記年銘鉢先	1振	平成15(2003)年 7月29日	

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
有形民俗文化財	神功皇后と武之内宿禰 (人形、飾り幕)	2体1枚	平成15(2003)年 7月29日	八戸市大字根城字東 構(八戸市博物館)
有形民俗文化財	為朝と嶋人(人形、雛型)	3体、1体	平成15(2003)年 7月29日	

市記念物

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
史跡	敷石供養塔	1基	昭和48(1973)年 1月24日	八戸市長者1丁目 (禅源寺)
天然記念物	杉の木	3本	昭和48(1973)年 1月24日	八戸市大字豊崎町字 上永福寺(七崎神 社)
天然記念物	イチイの木	1本	平成4(1992)年 1月31日	八戸市南郷大字市野 沢字黄檗
天然記念物	クリの木	1本	平成4(1992)年 1月31日	八戸市南郷大字市野 沢字林合(稻荷神 社)
天然記念物	モミの木	3本	平成4(1992)年 1月31日	八戸市南郷大字島守 字内山
天然記念物	イチイの木	1本	平成4(1992)年 1月31日	八戸市南郷大字島守 字大波
天然記念物	アカマツの木	1本	平成6(1994)年 1月31日	八戸市南郷大字大森 字黒坂

資料編 4

文化政策の年譜

年	国の動き	八戸市の動き（行政・民間）
大正11 (1922) 年		【行政】 ・「無島ウミネコ繁殖地」国天然記念物指定
昭和12 (1937) 年		【行政】 ・「種差海岸」国名勝指定
昭和16 (1941) 年		【行政】 ・「根城跡」国史跡指定
昭和25 (1950) 年	・「文化財保護法」公布	【行政】 ・「紫糸威肩白浅黄鎧 兜、大袖付」国重要文化財指定 ・「唐櫃入白糸威肩赤胴丸 兜、大袖付」国重要文化財指定 ・「兜 浅黄威肩赤大袖二枚付」国重要文化財指定
昭和26 (1951) 年	・「博物館法」公布	
昭和28 (1953) 年		【行政】 ・櫛引八幡宮所蔵「赤糸威鎧 兜 大袖付、附唐櫃」、「白糸威 褌取鎧 兜、大袖付 附唐櫃」国宝指定
昭和32 (1957) 年		【行政】 ・「是川石器時代遺跡」国史跡指定
昭和33 (1958) 年		【民間】 ・八戸文化協会設立
昭和37 (1962) 年		【行政】 ・「是川遺跡出土品」国重要文化財指定
昭和38 (1963) 年		【行政】 ・八戸市及び八戸文化協会で「八戸市文化賞」表彰制度開始
昭和41 (1966) 年		【行政】 ・八戸市及び八戸文化協会で「八戸市文化奨励賞」設定
昭和43 (1968) 年	・文化庁創設	
昭和45 (1970) 年	・「著作権法」公布	
昭和46 (1971) 年		【民間】 ・八戸文化協会を「八戸市文化協会」に改称
昭和48 (1973) 年	・芸術文化指導者海外派遣 制度発足	
昭和50 (1975)年		【行政】 ・八戸市公会堂開館
昭和52 (1977) 年	・全国高等学校総合文化祭 開催	【行政】 ・八戸市公民館開館
昭和54 (1979) 年		【行政】 ・「八戸のえんぶり」国重要無形民俗文化財指定
昭和55 (1980) 年		【行政】 ・「清水寺観音堂 附棟札3枚」国重要文化財指定

年	国の動き	八戸市の動き（行政・民間）
昭和56 (1981) 年		【行政】 ・「長七谷地貝塚」国史跡指定
昭和57 (1982) 年		【行政】 ・八戸市文化賞制度新設 制度新設に伴い、「文化賞」、「文化奨励賞」が市長表彰となる
昭和58 (1983) 年		【行政】 ・八戸市博物館開館
昭和59 (1984) 年		【行政】 ・新図書館完成 ・八戸市美術館完成
昭和61 (1986) 年	・国民文化祭開催	
平成2 (1990) 年	・「(公社) 企業メセナ協議会」設立	【民間】 ・第1回オータムジャズフェスティバルin南郷'90開催
平成3 (1991) 年		【民間】 ・羽仁もと子記念館開館
平成5 (1993) 年		【行政】 ・「櫛引八幡宮本殿、旧拝殿、末社神明宮本殿、末社春日社本殿、南門 附鱒口」国重要文化財指定 ・「八戸及び周辺地域の漁撈用具と浜小屋」国重要有形民俗文化財指定
平成6 (1994)年	・「(財) 地域創造」設立	【行政】 ・八戸市縄文学習館完成
平成9 (1997) 年		【行政】 ・「風張1 遺跡出土品 附炭化米」国重要文化財指定
平成10 (1998) 年		【行政】 ・「旧河内屋橋本合名会社」国有有形文化財登録
平成11 (1999) 年		【行政】 ・「丹後平古墳群」国史跡指定
平成12年 (2000) 年		【行政】 ・ジャズの館南郷開館
平成13 (2001) 年	・「文化芸術振興基本法」公布	
平成15 (2003) 年	・「指定管理者制度」導入 (地方自治法の一部改正)	【行政】 ・「更上閣主屋、門」国有有形文化財登録 【民間】 ・フォーラム八戸開館
平成16 (2004) 年		【行政】 ・「八戸三社大祭の山車行事」国重要無形民俗文化財指定 ・「是川石器時代遺跡」国史跡追加指定 【民間】 ・夢百貨ギャラリー開館

年	国の動き	八戸市の動き（行政・民間）
平成17 (2005)年		【行政】 ・八戸南部氏庭園開園 ・南郷村と合併
平成18 (2006)年		【行政】 ・公立文化施設に指定管理者制度導入（八戸市公会堂、八戸市民館、文化教養センター南部会館、八戸市更上閣） ・多文化都市八戸推進会議設置
平成19 (2007)年	・「文化庁長官表彰制度」創設	【行政】 ・「新むつ旅館本館」国有有形文化財登録 ・ぐれっとタワーみなと完成
平成20 (2008)年		【行政】 ・南郷文化ホール開館 ・多文化都市八戸推進会議が「多文化都市八戸推進のための提案書」を市長へ提出 ・「踊りに行くぜ！！」八戸公演 ・多目的交流広場「長者まつりんぐ広場」完成 【民間】 ・帆風美術館開館
平成21 (2009)年		【行政】 ・南郷文化ホール指定管理者制度導入 ・八戸市芸術文化施設連絡協議会設置（～2017年度） ・「合掌土偶」国宝指定 ・「旧島守発電所」国有有形文化財登録 【民間】 ・安藤昌益資料館開館
平成22 (2010)年		【行政】 ・（財）地域創造「地域文化コーディネーター派遣モデル事業」実施（～2012年度） ・多文化都市八戸推進懇談会より、「はちのへアートのまちづくり提案書」を市長へ提出 ・八戸酒造の建物群が国有有形文化財登録 【民間】 ・洗心美術館開館
平成23 (2011)年	・企業メセナ協議会「GBFund」を立ち上げ	【行政】 ・八戸ポータルミュージアム「はっち」開館 ・はっち開館プレ事業として「八戸レビュー」などのAIR事業実施 ・芸術環境創造専門員採用（～2019年度） ・南郷アートプロジェクト実施（～2020年度） ・八戸市埋蔵文化財センター「是川縄文館」開館 ・「是川遺跡出土品」国重要文化財追加指定
平成24 (2012)年	・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」公布	【行政】 ・まちなかアートルノベーション事業実施（～2016年度） ・はっちAIR事業実施 ・工場アート（八戸工場大学）実施（～2020年度） 【民間】 ・八戸クリニック街かどミュージアム開館 ・帆風美術館が「メセナアワード2012・四季のそよかせ賞」受賞
平成25 (2013)年	・「創造都市ネットワーク日本」設立（設立時から当市加入）	【行政】 ・蕪島から種差海岸が三陸復興国立公園指定

年	国の動き	八戸市の動き（行政・民間）
平成26 (2014)年		【行政】 ・文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）受賞（県内初） ・マイブック推進事業、ブックスタート事業開始 ・種差海岸インフォメーションセンター、休憩所等開館
平成27 (2015)年		【行政】 ・八戸市文化のまちづくりビジョン策定（～2020年度） 【民間】 ・デーリー東北ホール開館 ・ソールランチ新丁開館
平成28 (2016)年	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化庁移転協議会」設置 ・「スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定」の締結 ・「スポーツ文化ツーリズムアワード」選定・表彰開催 	【行政】 ・南郷アートプロジェクトが「過疎地域自立活性化優良事例 総務大臣賞」受賞 ・八戸工場大学が「産業観光まちづくり大賞特別賞」受賞 ・八戸ポータルミュージアムが「地域創造大賞（総務大臣賞）」受賞 ・「八戸ブックセンター」オープン ・読み聞かせキッズブック事業開始 ・八戸三社大祭の山車行事が「山・鉾・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録 ・「是川石器時代遺跡」国史跡追加指定 ・八戸市美術館閉館（建物解体）
平成29 (2017)年	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化芸術基本法」公布 ※文化芸術振興基本法の改正 ・「地域文化創生本部」を京都に設置 ・企業メセナ協議会「2021 Arts Fund」設置 	【行政】 ・はちのへまちなかアートラボ『Co.部屋』開設
平成30 (2018)年	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術推進基本計画策定（2018～2022年度） ・「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」公布 ・「文化科学省設置法の一部を改正する法律」公布 ・「著作権法の一部を改正する法律」公布 	【行政】 ・八戸工場大学がふるさとイベント大賞ふるさとキラリ賞受賞 ・八戸まちなか広場「マチニワ」オープン ・「なんごう小さな芸術祭」開催 ・金装獅噛三環塚頭大刀柄頭 等「丹後平古墳群出土品」国重要文化財指定 【民間】 ・八戸酒造「メセナアワード2018・酒芸の極み賞」受賞
令和元 (2019)年		【行政】 ・八戸市公会堂・公民館耐震改修工事着工（～2022年1月予定） ・2月17日を「えんぶりの日」に制定 ・八戸圏域版DMO「VISITはちのへ」設立
令和2 (2020)年	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」公布 	【行政】 ・文化芸術推進員採用 ・11月3日を「是川縄文の日」に制定
令和3 (2021)年		【行政】 ・八戸市美術館オープン ・是川石器時代遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録

※令和3年12月1日現在

資料編 5

用語集

あ

アイデンティティ	主体性、自我同一性。環境に抛らず「自分であること」を認識していること。
アウトリーチ	働きかけること、援助すること。文化芸術活動においては、文化施設の職員や文化芸術活動者が地域、教育現場等へ出向き、現地においてさまざまなプログラムを提供することをいう。
アーツカウンシル	文化芸術の環境整備に携わる専門スタッフによって組織される第三者機関であり、公的資金による事業助成のほか、事業の精細な評価を行うことで文化芸術の振興を図る組織。
アーティスト・イン・レジデンス（レジデンス事業）	国内外から芸術家・表現者を招き、一定期間、住居や仕事を提供して滞在中の創作を支援する活動。または、そのための施設のことを指す。
アーティストバンク	地域や教育現場等において文化芸術活動者を必要とする者と、文化芸術活動者とをつなぐ仕組みのひとつであり、公的団体が文化芸術活動者から登録を募り、リスト化して公開する形が一般的となっている。
アート	通常「芸術、美術」を指す言葉だが、美術館や劇場などに限定されず、社会の様々な場面で文化芸術の効用が発揮されるとする昨今の文化政策の領域の拡大に対応する表現として、また、これまでの当市の取組を踏まえながら柔らかく幅広く受け入れられやすい表現としてアートという表現を用いている。
アートNPO	市民自治の理念に基づき、文化振興の担い手としてアートと社会の橋渡しを行う非営利組織。文化芸術事業の主催、施設の運営や鑑賞のほか、劇団自体がNPO化されたり、地域活性化やまちづくりを指向した活動など、多様な類型がある。
アート思考	文化芸術活動者が、その表現を行う過程において用いる特有の認知活動のこと。表現する側の思考を起点とし、既成概念や固定観念を打破し、新たな課題の発見から創造性を引き出す考え方を指す。
アートのまちづくり	アートの手法や考え方をまちづくりに当てはめ、活かしていくこと。
アートプロジェクト	1990年代以降、国内で活発となった「作品そのものより制作のプロセスを重視したり、美術館やギャラリーから外に出て社会的な文脈でアートを捉えたり、アートを媒介として地域活性化に結びつける取組」を指す。近年は、教育普及や市民参加型の企画が多くなってきており、文化芸術活動者が地域住民と協働して地域振興に取り組む事例も全国で多くみられるようになっている。
アルゴリズム	コンピューターで計算を行う際のプログラムのこと。一般的には、問題を解くための手順を具体的かつ明確にしたやり方を指す。
インスタレーション	1970年代から主に欧米で登場した、展示空間全体を作品とみなす手法であり、絵画、彫刻、映像、写真などと並ぶ現代美術における表現方法、ジャンルの一つ。
SDGs（持続可能な開発目標）	全ての人々にとってよりよく、持続可能な未来を築くため、貧困や不平等、気候変動、環境劣化などの諸課題の解決を目指す、2030年を年限とした17個の国際目標のこと。2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された。

あ

エンパワーメント	20世紀にアメリカで起こった公民権運動で提唱された考え方であり、社会や集団に属する一人一人が、抑圧されることなく力をつけ、自分を取り巻く環境をコントロールできるよう成長を促すこと。ビジネスの世界では、「自立性促進」「権限移譲」「能力開花」といった意味で使われる。
オーディエンス	聴衆、観客、聴取者のこと。

か

回想法	高齢者に昔の生活用具などを用いて過去の体験を語り合ってもらうことで、高齢者自身の認知能力低下を予防して自主活動を目指す、一種の心理療法のこと。
企業メセナ	企業が芸術文化活動を支援すること。近年は、人材や資金面の支援以外にも、文化財保護や自ら芸術文化施設を運営する事業財団の設立など、企業の社会的責任の一環として多様な取組が行われている。
キュレーション	情報を選択・収集・整理すること。あるいは、収集した情報を特定のテーマに沿って編集し、そこに新たな意味や付加価値をつける作業のこと。
キュレーター	美術館や博物館等で、展示の企画から運用まで全般を行う仕事を行う専門職。アーティストの選定から作品の借り受け・返却、展示構成、宣伝に至るまで一切の責任を負う。仕事の範囲や権限が学芸員と比べて格段に大きいのが特徴。
クラウドファンディング	資金を集めたい人・団体がインターネットでやりたいことを発表し、賛同する人から資金調達する仕組みのこと。2000年代後半から米国で盛んになり、日本では2011年の東日本大震災が契機となった。「クラウド（Crowd 群衆）」と「ファンディング（Funding 資金調達）」を組み合わせた造語。
グランドデザイン	長期的かつスケールの大きなプランのこと。全体構想。
クリエイティブビジネス	個人の技術や創造力を源泉とする仕事や産業のこと。
コーディネーター	いろいろな要素を統合したり、調整したりして、一つにまとめ上げる係や職業のこと。
コラボレーション	英語で「共に働く」、「協力する」という意味で、「共演」「合作」「共同作業」「利的協力」を指す言葉。
コンテンツ	内容、中身、素材のこと。

さ

サードプレイス	人が生き生きといられて、自分もここにいてよいと思える場所であったり、この集団の中で自分も認められていると実感できたりする居場所のこと。
シーズ	通常「種」を意味するが、ニーズ（必要）に対して提供する技術や材料の意味で、当計画では、文化芸術に関する市民等の必要に対して提供できる人材、技術、文化芸術などを意味する。
悉皆（しっかい）調査	対象全てを調べる調査のこと。全数調査や全部調査とも呼ばれている。身近な悉皆調査の例としては、「国勢調査」などがある。
シビックプライド	自分が暮らす土地、まちに対する市民の誇り。愛着だけではなく、地域を良くしようとする当事者意識に基づく自負心を指す。
実演芸術	実演により表現される音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能。
社会包摂	社会的に弱い立場にある人々も含め、市民一人ひとりを排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う考え方のこと。（＝ソーシャルインクルージョン）
ステークホルダー	「利害関係者」のこと。企業、行政、NPO等の利害と行動に直接・間接的な利害関係を有する者のことを指す。
相互貸借	単一の図書館で所蔵していない図書等について、他の図書館と互いに貸し借りをを行う制度のこと。
創造都市	グローバル化と知識情報経済化が急速に進展した21世紀初頭にふさわしい都市のあり方の一つであり、文化芸術と産業経済の創造性に富んだ都市のことを指す。文化庁では、文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興等に領域横断的に活用し、地域課題の解決に取り組む地方自治体を「文化芸術創造都市」と位置づけ、創造都市への取組を支援している。

た

多文化都市八戸	市内で活発に繰り広げられる、市民の多様で特色ある自主的な文化活動を「多文化」と定義し、八戸市がもつ多文化の力を結集させ、地域活力の創出を図るための推進事業のこと。
脱活乾漆技法	7世紀後半に中国から伝来し、奈良・天平時代に最盛期を迎えた漆を用いた彫刻技法。
デザイン思考	ユーザーや顧客の視点に立ち、多様な意見や情報を取り入れながら課題解決を目指す考え方のこと。

な

ノーマライゼーション	1950年代にデンマーク、スウェーデン、アメリカにおいて発展し、社会福祉のあらゆる分野に共通する理念。障がいがある人が、障がいがない人と同等に生活し活動する社会を目指すものであり、そのためには、生活条件と環境条件の整備が求められる。
------------	--

は

パイロットプロジェクト	先行的、実験的、試験的な企画事業のこと。
パートナーシップ	協力関係、協働、または提携すること。
バリアフリー	障がい者や高齢者が生活する上での行動のさまたげとなるバリア（障壁・さまたげとなること）を取り去った生活空間や環境のあり方のこと。物理的なものだけでなく、精神的な障壁も含む。
プラットフォーム	地域資源を活用した地域活性化に参画する多様な主体の相互理解や協働が推進される場であり、知恵や情報が交流する場のこと。
ホスピタルアート	アートのかで病院などの医療環境をより快適な癒しの空間とする取組のこと。「アートイン ホスピタル」とも呼ばれる。
翻刻（ほんこく）	すでにある本や原稿を、木版や活版で新たに起こし刊行すること。特に、写本、版本、外国の本などを木版、活版などで再製すること。

ま

マネジメントノウハウ	運営手段や手法のこと。
------------	-------------

や

ユニークベニュー	歴史的建造物、寺社仏閣、城跡、美術館や博物館などを、通常では行わない会議・レセプション・イベント等に使用すること。特別感や地域特性を演出するねらいがある。
ユニバーサルデザイン	年齢、障がい、国籍などに関わらず、すべての人々が使用できるような商品、建物、環境のデザイン。障がい、高齢といった特別視をやめ、デザイン上の区分けを無くしていきこうとするもの。

ら

ライブビューイング	コンサートや演劇、スポーツの試合などが行われている会場の映像を、映写設備の整った別の施設で上映すること。
リサーチャー	調査する人。研究に従事する人。
リピーター	「繰り返す人」のこと。同じ地を再訪したり、同じ商品を気に入って何度も購入する人もリピーターと呼ばれる。

資料編 6

計画策定体制

多文化都市八戸推進懇談会

◆委員名簿

任期 令和元年10月2日～令和4年3月31日

※敬称略・50音順

分野	氏名	備考
公募	荒井 小百合	
民間文化施設	荒津内 寿	任期：令和元年10月～令和2年3月
民間文化施設	市村 順也	任期：令和2年4月～令和3年3月
文化芸術活動者	今川 和佳子	
学識経験者	内海 隆	会長
民間文化施設	小倉 学	
学校教育関係者	川守田 礼子	
民間文化施設	熊谷 勝之	任期：令和3年4月～令和4年3月
文化芸術活動者	佐藤 慎悟	
学校教育関係者	佐貫 巧	
文化芸術活動者	滝尻 善英	
文化芸術活動者	二ツ森 護真	
文化芸術活動者	榎谷 伸夫	副会長
文化芸術活動者	宮古 博文	
学校教育関係者	安田 真理子	
文化芸術活動者	山本 耕一郎	
民間文化施設	吉田 章恵	

はちのへ文化の
まちづくりビジョン
～八戸市文化芸術推進基本計画～

■発行

八戸市

■編集

八戸市 まちづくり文化スポーツ部
文化創造推進課

〒031-0031

青森県八戸市大字番町10-4 八戸市美術館内

TEL 0178-43-9156

FAX 0178-38-0107